

令和8年度 6年次授業時間割表

	1～4時限	5～10時限
期 間	8:50 ～ 11:40	12:50 ～ 17:10
4/6 ～ 7/17 (1週 ～ 14週)	臨 床 実 習 (C C 2) V期 : 4/6 ～ 5/1 VI期 : 5/11 ～ 6/12 VII期 : 6/15 ～ 7/17	
夏 季 休 業 7/18 ～ 8/26		
卒 業 試 験 (8/27、9/10、9/24、10/8) 予定		
OSCE 10/24		
冬 季 休 業 12/12～		

事前準備が必要な科目もありますので、必ず講義前に各科目のページで詳細を確認してください。

分 類：臨床医学 VII (CC2)

授業科目名：法医学 臨床実習 (Forensic Medicine) - 法医解剖実習 -

対象学年：6 年次選択

時間割コード：71644006-01

1. 主任教員

早川 輝 (教授、法医学講座、6092、オフィスアワー：随時 (要アポイント))

2. 担当教員

早川 輝 (教授、法医学講座、6092、オフィスアワー：随時 (要アポイント))

大谷 真紀 (助教、法医学講座、6093、オフィスアワー：随時 (要アポイント))

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1) ねらい

チームの一員として法医解剖への参加を通じて、将来、どのような分野の医師にも役立つ基礎医学、臨床医学、社会医学の知識を整理し、症候や病態の推論、鑑別診断、検査方針決定等の実践力を修得する。また、関連するプロフェッショナルリズム (信頼、誠実、思いやり、省察、倫理)、医療安全、医療法 (医療制度)、EBM を活用した総合的な判断、ICT の適切な活用について実践的に学ぶ。

2) 概要

(1) 法医解剖の現場に立ち会い、法医解剖執刀医を中心としたチームの一員として、警察官等の司法関係者とともに死因究明の実習に取り組む。(1-1、1-2、2-1~2-8)

(2) 法医解剖、CT 画像、諸検査の結果から死因を診断するプロセスを学ぶ。(3-1~3-3)

(3) 警察官等の司法関係者に医学知識を分かりやすく伝える訓練を行う。(1-1、2-1~2-8)

(4) 法医解剖症例の解剖所見や死因判断のプロセスについて、法医 CT カンファレンス等で分かりやすく発表する技術を学ぶ。(1-1、2-1~2-8、3-1~3-3、5-1~5-5)

(5) 法医解剖症例を通じて、死因究明の枠を越えて死を見つめ直すとともに、法医診断における公平性・透明性の確保、守秘義務の厳守、死者や家族を取り巻く環境の検討、家族や警察官に死因をどのように説明するか、どうすれば死を防ぐことができたのか、法医解剖・検査における倫理的問題、医療関連死を防ぐ工夫、死を取り巻く社会のシステム、死因判断のためのエビデンス等について学ぶ。(1-1、2-1~2-8、3-1~3-7、4-1~4-8、6-1、6-2)

3) (詳細な) 学修目標・項目

(1) 司法解剖・承諾解剖・死体検案において、所見を説明し、死因を診断できる。(3-1~3-3)

(2) 死後 CT 画像を読影して、所見を説明できる。(1-1、2-1~2-8、3-1~3-3、5-1~5-5)

(3) 死因診断した結果に基づき、死亡診断書・死体検案書等の書類を適切に作成できる。(3-1~3-3)

(4) 法医学領域に関連するプロフェッショナルリズム (法医診断における公平性・透明性の確保、守秘義務の厳守等) について説明できる。(1-1、2-1~2-8、3-1~3-7、4-1~4-8、6-1、6-2)

(5) 法医学領域に関連する医療安全 (医療関連死を防ぐ工夫等) について説明できる。(1-1、2-1~2-8、3-1~3-7、4-1~4-8、6-1、6-2)

(6) 法医学領域に関連する医療法 (医療制度) (死を取り巻く社会のシステム等) について説明できる。(1-1、2-1~2-8、3-1~3-7、4-1~4-8、6-1、6-2)

(7) 法医学領域に関連する EBM (死因判断のためのエビデンス等) について説明できる。(1-1、2-1~2-8、3-1~3-7、4-1~4-8、6-1、6-2)

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

- 1) 池田典昭・木下博之編「標準法医学 第8版」医学書院（2022年）
- 2) 福島弘文監修「法医学改訂4版」南山堂（2022年）
- 3) 高取健彦監修「NEW エssenシャル法医学 第6版」医歯薬出版（2019年）
- 4) 美作宗太郎監修「臨床法医学入門」明石書店（2017年）

5. 成績評価の方法

態度、口頭試問、レポート、出席、その他（法医解剖参加率、カンファレンス等への出席など）で総合評価する。

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

- 1) 初日の集合時間・場所：午前9時 法医科学講座ゼミナール室
- 2) 実習場所：法医科学講座ゼミナール室、法医解剖室、法医CT室など
- 3) 臨床実習と同様に守秘義務の厳守が求められる。解剖事例において知り得た情報の口外は厳禁とする。
- 4) 法医解剖の補助や諸検査の際は常に感染防止に注意を払うこと。
- 5) 社会人としての礼儀とマナーを身につけ、特に警察官等の学外者への挨拶は欠かさず、言葉遣いに注意すること。
- 6) 法医解剖は夜間・休日に行われることもある。期間中は基本的に全部の事例に参加してもらうこととなる。常時呼び出しをするので、期間中に不在になる日がある場合は事前に相談すること。
- 7) 毎事例において、A4レポート一枚（書式自由であるが、感想のみは不可）を提出してもらう。
- 8) 担当教員の予定により、若干変更する場合がある。
- 9) 配属が決まった学生は、事前の連絡事項があるため、できるだけ速やかに a.hayakawa（アットマーク）med.akita-u.ac.jp に連絡すること。

法医学 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第 1 回 月曜日 [9:00-17:00] 副題 法医解剖または関連検査 担当 早川 輝・大谷真紀	<ul style="list-style-type: none"> ・法医解剖に関する説明を受ける。 ・法医解剖や関連検査などの法医実務が行われる時間は、原則として全ての症例において補助として参加する。 ・法医解剖では、死因に至るプロセスを徹底的に学び、死亡診断書・死体検案書の記載を復習する。 ・警察官等の司法関係者に医学知識を分かりやすく伝える訓練を行う。 ・法医解剖症例の解剖所見や死因判断のプロセスについて、法医 CT カンファレンス等で分かりやすく発表する技術を学ぶ。
第 2 回 火曜日 [9:00-17:00] 副題 法医解剖または関連検査 担当 早川 輝・大谷真紀	<ul style="list-style-type: none"> ・法医解剖や関連検査などの法医実務が行われる時間は、原則として全ての症例において補助として参加する。 ・法医解剖では、死因に至るプロセスを徹底的に学び、死亡診断書・死体検案書の記載を復習する。 ・警察官等の司法関係者に医学知識を分かりやすく伝える訓練を行う。 ・法医解剖症例の解剖所見や死因判断のプロセスについて、法医 CT カンファレンス等で分かりやすく発表する技術を学ぶ。
第 3 回 水曜日 [9:00-17:00] 副題 法医解剖または関連検査 担当 早川 輝・大谷真紀	<ul style="list-style-type: none"> ・法医解剖や関連検査などの法医実務が行われる時間は、原則として全ての症例において補助として参加する。 ・法医解剖では、死因に至るプロセスを徹底的に学び、死亡診断書・死体検案書の記載を復習する。 ・警察官等の司法関係者に医学知識を分かりやすく伝える訓練を行う。 ・法医解剖症例の解剖所見や死因判断のプロセスについて、法医 CT カンファレンス等で分かりやすく発表する技術を学ぶ。 ・週によっては 18 時から法医 CT カンファレンスを行うことがある。
第 4 回 木曜日 [9:00-17:00] 副題 法医解剖または関連検査 担当 早川 輝・大谷真紀	<ul style="list-style-type: none"> ・法医解剖や関連検査などの法医実務が行われる時間は、原則として全ての症例において補助として参加する。 ・法医解剖では、死因に至るプロセスを徹底的に学び、死亡診断書・死体検案書の記載を復習する。 ・警察官等の司法関係者に医学知識を分かりやすく伝える訓練を行う。 ・法医解剖症例の解剖所見や死因判断のプロセスについて、法医 CT カンファレンス等で分かりやすく発表する技術を学ぶ。
第 5 回 金曜日 [9:00-17:00] 副題 法医解剖または関連検査 担当 早川 輝・大谷真紀	<ul style="list-style-type: none"> ・法医解剖や関連検査などの法医実務が行われる時間は、原則として全ての症例において補助として参加する。 ・法医解剖では、死因に至るプロセスを徹底的に学び、死亡診断書・死体検案書の記載を復習する。 ・警察官等の司法関係者に医学知識を分かりやすく伝える訓練を行う。 ・法医解剖症例の解剖所見や死因判断のプロセスについて、法医 CT カンファレンス等で分かりやすく発表する技術を学ぶ。
第 6 回 月曜日 [9:00-17:00] 副題 法医解剖または関連検査 担当 早川 輝・大谷真紀	法医解剖や関連検査などの法医実務が行われる時間は、原則として全ての症例において補助として参加する。 法医解剖では、死因に至るプロセスを徹底的に学び、死亡診断書・死体検案書の記載を復習する。
第 7 回 火曜日 [9:00-17:00] 副題 法医解剖または関連検査 担当 早川 輝・大谷真紀	法医解剖や関連検査などの法医実務が行われる時間は、原則として全ての症例において補助として参加する。 法医解剖では、死因に至るプロセスを徹底的に学び、死亡診断書・死体検案書の記載を復習する。
第 8 回 水曜日 [9:00-17:00] 副題 法医解剖または関連検査 担当 早川 輝・大谷真紀	法医解剖や関連検査などの法医実務が行われる時間は、原則として全ての症例において補助として参加する。 法医解剖では、死因に至るプロセスを徹底的に学び、死亡診断書・死体検案書の記載を復習する。 週によっては 18 時から法医 CT カンファレンスを行うことがある。
第 9 回 木曜日 [9:00-17:00] 副題 法医解剖または関連検査 担当 早川 輝・大谷真紀	法医解剖や関連検査などの法医実務が行われる時間は、原則として全ての症例において補助として参加する。 法医解剖では、死因に至るプロセスを徹底的に学び、死亡診断書・死体検案書の記載を復習する。
第 10 回 金曜日 [9:00-17:00] 副題 法医解剖または関連検査 担当 早川 輝・大谷真紀	法医解剖や関連検査などの法医実務が行われる時間は、原則として全ての症例において補助として参加する。 法医解剖では、死因に至るプロセスを徹底的に学び、死亡診断書・死体検案書の記載を復習する。

法医学 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第 24 回 木曜日 [9:00-17:00] 副題 法医解剖または関連検査 担当 早川 輝・大谷真紀	法医解剖や関連検査などの法医実務が行われる時間は、原則として全ての症例において補助として参加する。 法医解剖では、死因に至るプロセスを徹底的に学び、死亡診断書・死体検案書の記載を復習する。
第 25 回 金曜日 [9:00-17:00] 副題 法医解剖または関連検査 担当 早川 輝・大谷真紀	法医解剖や関連検査などの法医実務が行われる時間は、原則として全ての症例において補助として参加する。 法医解剖では、死因に至るプロセスを徹底的に学び、死亡診断書・死体検案書の記載を復習する。

分 類：臨床医学 VII (CC2)

授業科目名：消化器内科学 臨床実習 (Gastroenterology)

対象学年：6 年次選択

時間割コード：71644006-02

1. 主任教員

飯島克則 (教授、消化器内科、6573)

2. 担当教員

飯島克則 (教授、消化器内科、6573)

後藤 隆 (准教授、消化器内科、6104)

松橋 保 (准教授、消化器内科、6104)

佐藤 亘 (特任講師、消化器内科、6104)

下平陽介 (助教、消化器内科、6104)

千葉 充 (助教、消化器内科、6104)

高橋健一 (助教、消化器内科、6104)

南慎一郎 (助教、消化器内科、6104)

福田 翔 (特任助教、消化器内科、6104)

渡邊健太 (特任助教、消化器内科、6104)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. 診療参加型臨床実習 CC 2 の概要・ねらい

CC1 での学習を踏まえ、チームの一員として病棟や外来患者さんへの診療を通して、将来、どのような分野の医師にも必要な内科領域、特に消化器内科を中心とした症候や病態の臨床推論、鑑別診断、検査・治療方針決定等の実戦力を習得する。プロフェッショナルリズム、倫理、医療行動学、医療安全、医療法 (制度)、EBM について実践的に学ぶ。(1-1,1-2,2-1,2-2,2-3,2-4,2-5,2-6,4-1,4-2,4-3,4-4,4-5,4-6,4-7)

1) 病棟診療

各学生は各診療チームに配属され、指導医のもと数名の病棟患者さんを担当する。指導医の監督のもとに、日々、病棟担当患者さんの回診を行い、医療面接、身体診察による課題抽出・文献検索による臨床推論、検査・治療方針の提案、日々の診療内容や他科頼診券、ウイークリーサマリー、紹介状などカルテへの記載 (指導医の確認必須)、カンファレンス時の各種プレゼンテーション、患者・家族への説明への参加など、チームの一員として EBM に基づいた基本的な診療を実践的に学ぶ。指導医とともに内視鏡検査や治療、ラジオ波焼灼療法等の見学、介助等に積極的に参加する。

2) 外来診療、各種検査、治療への参加

このような病棟の担当患者診療の合間には、外来の新患、再来患者さんの診療や各種検査、治療に参加しながら、診療チームの一員として臨床推論・検査・治療の過程を実践的に学ぶ。

2. 学修目標

上記 1 の概要・ねらいを中心に実習を進めるが、本診療科で特に経験保証する症候、病態、各種手技等の内容を下記に示す。

1) 症候・病態 臨床推論 (3-5,4-1,4-2,4-3,4-4,4-5,4-6)

(1) 黄疸 (2) 腹痛 (3) 悪心・嘔吐 (4) 食思不振 (5) 便秘・下痢・血便 (6) 吐血・下血 (7) 腹部膨隆 (腹水を含む)・膨満・腫瘤

2) 基本的臨床手技 (3-1,3-2,3-3,4-1,4-2,4-3,4-4,4-5,4-6,4-7)

(1) 体位交換、移送ができる (2) 皮膚消毒ができる (3) 静脈採血を実施できる (4) 胃管の挿入と抜去ができる (5) 尿道カテーテルの挿入と抜去を実施できる (6) 注射 (皮内、皮下、筋肉、静脈内) を実施できる (7) 末梢静脈の血管確保を実施できる (8) 診療録 (カルテ) を作成する。

3) 検査手技 (3-1,3-2,3-3,4-1,4-2,4-3)

(1) 腹部の超音波検査を実施できる。

(2) 経皮的酸素飽和度を測定できる。

(3) エックス線撮影、コンピュータ断層撮影 (CT)、磁気共鳴画像法 (MRI)、核医学検査、内視鏡検査を見学し、介助する。

4) シミュレーション教育 (2-1,2-2,2-3,2-4,2-5,2-6,2-7,4-1,4-2,4-3,4-4,4-5,4-6,4-7)

(1) 腹部エコーシミュレータを用いて反復練習をすることで、臨床技能を磨く。

(2) 腹部内視鏡シミュレータを用いて反復練習をすることで、臨床技能を磨く。

5) 医学行動科学、医療倫理、医療安全、医療法 (医療制度)、EBMI について (1-1,1-2,3-1,3-2,3-3,3-4,3-5,3-6,3-7,4-1,4-2,4-3,4-4,4-5,4-6,5-1,5-2,5-3,5-4,5-5)

(1) 各種検査・治療のインフォームドコンセント

(2) 困難な患者 急変患者・家族への説明

(3) 各種侵襲的な検査・治療時の安全性への配慮

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

内科学 (朝倉書店) 内科学 (西村書店) 標準消化器病学 (医学書院)

5. 成績評価の方法

実習中の学習態度、CC-EPOC、口頭試問、miniCEX (実際の患者さんへの診療を評価)、口頭試問、学習発表会に基づいて総合的に評価する

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

・ 5週間のうちの第3週目の1週間は関連病院で実習を行い、消化器内科の一般診療、腹部救急を経験してもらう (大曲厚生医療センター、市立横手病院、平鹿総合病院、由利組合総合病院。各病院1名ずつ)。該当する病院へは、公共交通機関を利用すること。

・ 授業プリントを中心に十分復習してから実習に臨むこと

・ 経験記録、手帳の記載を行うこと

・ 若干のスケジュールの可能性があるので医局で確認すること

消化器内科学 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第 1 回 月曜日 [8:30-18:00] 副題 担当	オリエンテーション 8 : 30 南臨床棟 5 F セミナー室 クリニカルクラークシップ 消化器内科病棟 (2 - 6) 病棟担当患者の診療ほか
第 2 回 火曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	クリニカルクラークシップ 消化器内科病棟 (2 - 6) 病棟担当患者の診療ほか
第 3 回 水曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	クリニカルクラークシップ 消化器内科病棟 (2 - 6) 病棟担当患者の診療ほか
第 4 回 木曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	クリニカルクラークシップ 消化器内科病棟 (2 - 6) 病棟担当患者の診療ほか
第 5 回 金曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	クリニカルクラークシップ 消化器内科病棟 (2 - 6) 病棟担当患者の診療ほか
第 6 回 月曜日 [8:30-18:00] 副題 担当	クリニカルクラークシップ 消化器内科病棟 (2 - 6) 病棟担当患者の診療ほか
第 7 回 火曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	クリニカルクラークシップ 消化器内科病棟 (2 - 6) 病棟担当患者の診療ほか
第 8 回 水曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	クリニカルクラークシップ 消化器内科病棟 (2 - 6) 病棟担当患者の診療ほか
第 9 回 木曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	クリニカルクラークシップ 消化器内科病棟 (2 - 6) 病棟担当患者の診療ほか
第 10 回 金曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	クリニカルクラークシップ 消化器内科病棟 (2 - 6) 病棟担当患者の診療ほか
第 11 回 月曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	第 3 週目の 1 週間は関連病院で実習を行い、消化器内科の一般診療、腹部救急を経験してもらう (大曲厚生医療センター、市立横手病院、平鹿総合病院、由利組合総合病院。各病院 1 名づつ)。該当する病院への移動は、公共交通機関を利用すること。
第 12 回 火曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	関連病院実習
第 13 回 水曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	関連病院実習
第 14 回 木曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	関連病院実習
第 15 回 金曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	関連病院実習
第 16 回 月曜日 [9:00-18:00] 副題 担当	クリニカルクラークシップ 消化器内科病棟 (2 - 6) 病棟担当患者の診療ほか

消化器内科学 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第 17 回 火曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	クリニカルクラークシップ 消化器内科病棟 (2 - 6) 病棟担当患者の診療ほか
第 18 回 水曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	クリニカルクラークシップ 消化器内科病棟 (2 - 6) 病棟担当患者の診療ほか
第 19 回 木曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	クリニカルクラークシップ 消化器内科病棟 (2 - 6) 病棟担当患者の診療ほか
第 20 回 金曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	クリニカルクラークシップ 消化器内科病棟 (2 - 6) 病棟担当患者の診療ほか
第 21 回 月曜日 [9:00-18:00] 副題 担当	クリニカルクラークシップ 消化器内科病棟 (2 - 6) 病棟担当患者の診療ほか
第 22 回 火曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	クリニカルクラークシップ 消化器内科病棟 (2 - 6) 病棟担当患者の診療ほか
第 23 回 水曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	クリニカルクラークシップ 消化器内科病棟 (2 - 6) 病棟担当患者の診療ほか
第 24 回 木曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	クリニカルクラークシップ 消化器内科病棟 (2 - 6) 病棟担当患者の診療ほか
第 25 回 金曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	クリニカルクラークシップ 消化器内科病棟 (2 - 6) 病棟担当患者の診療ほか 学習発表会

分 類：臨床医学 VII (CC2)
授 業 科 目 名：神経内科学 臨床実習 (Neurology CC2)
対 象 学 年：6 年次 選択
時間割コード：71644006-03

1. 主任教員

飯島克則 (教授、消化器内科学・神経内科学講座、6099)

2. 担当教員

飯島克則 (教授、消化器内科学・神経内科学講座、6099)

華園 晃 (助教、附属病院 神経内科、6104、オフィスアワー：8：30-18：00)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. ねらい (大まかな全体目標)

チームの一員として病棟や外来患者さんへの診療を通して、将来、どのような分野の医師にも必要な内科領域を学習する。特に脳神経内科を中心とした症候や病態の臨床推論、鑑別診断、検査・治療方針決定等の実戦力を習得する。

2. 概要 (大まかな学修目標 (項目))

・診療チームの一員として入院患者を担当し、日々の回診、総回診、カンファランスでの症例提示、外来症例、入院担当症例の問題点に関連したレポート作成を行います。(4-1~4-7)

・ガイドラインを有効に活用する習慣、診療から生まれる疑問に対して作業仮説を立てて、PBL ; problem-based learning で検証する習慣を身に着けます。(3-3,4-4,5-1~5-5,6-1~6-2)

・外来新患の医療面接、神経診察を行い、診断・鑑別に必要な検査を立案することで、神経疾患の診断プロセス・治療立案を経験し、知識を深めてもらい、医師になるために必要な知識、技能の習得レベルを確認していきます。(3-1~3-7,4-1~4-7)

・外来新患の病歴、身体・神経所見をとり、鑑別疾患のための検査計画を立案できる。(4-1~4-6)

・臨床で生じた疑問に対して作業仮説を立てて、PBL ; problem-based learning によって検証することができる。(5-1~5-5,6-1~6-2)

・種々のガイドラインを有効に活用できる。(3-3,4-4)

・Web 検索で必要な情報を効果的に検索し、その内容を吟味できる。(3-3,4-4)

・患者さんの生活背景、合併症、既往を考慮して、病状、診断に必要な検査、最も適した治療をどのように説明したらよいか考えることができる (実際に患者さんに説明することはないが)。(2-1~2-8,4-7~4-8)

・遺伝カウンセリングの行い方を見学し、社会福祉制度の活用、リハビリテーションについても患者さんに情報を提供できる。(4-7~4-8)

1) 病棟診療

各学生は 4-5 週間配属され、指導医のもと病棟の担当患者さんを毎日回診して、診療内容をカルテに記載する。指導医の監督のもとに、医療面接、身体診察を行って、問題を抽出し、作業仮説を立てて EBM に基づいた検証を繰り返す (必要に応じて文献を検索する)。臨床推論に基づいて、診断、鑑別に必要な検査を立案し、担当患者さんの重症度、合併症を勘案して治療方針の選択を試みる。頼診券、ウイークリーサマリー等のカルテへの記載 (指導医の確認必須)、総回診時のプレゼンテーション、患者・家族への説明への参加など、チームの一員として基本的な診療を実践的に学び、医師としてのプロフェッショナルリズムを身に付けるために必要な知識、学習プロセスを身に付ける。CC1 の学生に対する学習補助も行う。

2) 外来診療

外来新患の病歴、身体・神経所見をとり、鑑別疾患のための検査計画を立案する。その結果を指導医に報告し、フィードバックを受ける。

3) 各種検査・手術等の治療への参加

診療チームの一員として各種検査、治療に参加しながら、臨床推論・検査・治療の実際を経験し、検査成績の評価を自ら試み、記録する。

3. (詳細な)学修目標・項目

上記1の概要・ねらいを中心に実習を進めるが、本診療科で特に経験保証する症候、病態、各種手技等の内容を下記に示す。

1) 症候・病態 臨床推論 (3-5,4-1~4-6)

(1) けいれん (2) 意識障害・失神 (3) めまい (4) 頭痛 (5) 運動麻痺・筋力低下 (6) 嚥下困難・障害 (7) もの忘れ (8) 歩行障害 (9) 複視 (10) しびれ (11) 失語 (12) 構音障害 (13) 運動失調

2) 基本的臨床手技 (3-1~3-3,3-5,4-1~4-7)

(1) 体位交換、移送ができる (2) 皮膚消毒ができる (3) 静脈採血を実施できる (4) 末梢静脈の血管確保を実施できる (5) 腰椎穿刺を見学し、介助する (6) 注射 (皮内、皮下、筋肉、静脈内) を実施または介助できる (7) 診療録 (カルテ) を作成する (8) 各種診断書・検案書・証明書の作成を見学し、介助する。

3) 検査・治療手技 (3-1~3-3,4-1~4-3)

(1) 視力、視野、聴力、平衡機能検査を実施できる。

(2) 経皮的酸素飽和度を測定できる。

(3) エックス線撮影、コンピュータ断層撮影 (CT)、磁気共鳴画像法 (MRI)、核医学検査、内視鏡検査を見学し、介助する。

4) シミュレーション教育 (ロールプレイ・OSCE など) (2-1~2-8,4-1~4-8)

(1) CC1 学生のロールプレイ・OSCE の補助をしてもらう。

(2) 希望者には、シミュレーターを用いた腰椎穿刺を経験してもらう。

5) プロフェッショナルリズム、医学行動科学、医療倫理、医療安全、医療法 (制度)、EBM について (1-1~1-2,3-1~3-7,4-1~4-6,5-1~5-5)

(1) 各種検査・治療のインフォームドコンセント (見学、ロールプレイ OSCE)。

(2) 困難な患者 急変患者・家族への説明 (見学)。

(3) 患者さんの生活環境 (家庭、職場) に配慮した、診療計画を検討できる。

(4) インペアメント、ディスアビリティ、ハンディキャップを説明できる。

(5) 生活習慣に潜むリスクを列挙して、患者指導の在り方を考えられる。

(6) 遺伝カウンセリングに必要な情報提供ができる。

(7) 治癒を見込むことが困難な進行性の疾患を持つ患者さんの意思決定支援、事前指示のタイミング、苦痛の緩和について理解する。

(8) 各種侵襲的な検査・治療時の安全性への配慮ができる。

(9) 難病法、介護保険制度、障害者自立支援法、障害者差別解消法、身体障害者福祉法、認知症基本法を概説できる。

(10) 各種診療ガイドラインを適宜参照し、活用できる。

(11) 文献から得られた情報の批判的吟味ができる。

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

3 年次神経内科講義資料、診察実習時の資料 (神経疾患診察法)、OSCE クリニカルクラークシップガイドを常に参照できるようにすること。

必要に応じて、診断・治療ガイドラインを参照、活用すること。

神田 隆：医学生・研修医のための脳神経内科 改訂 4 版

杉田 陽一郎：レジデントのための神経診療

後藤、天野著：臨床のための神経機能解剖学 中外医学社

鈴木則宏、荒木信夫編集：講義録神経内科 MEDICAL VIEW

Louis, Mayer, Rowland: Merritt's Neurology 13th Ed. Wolters Kluwer

Kandel, Schwartz, Jessell, Siegelbaum, Hudspeth: カンデル神経科学 5th Ed. メディカル・サイエンス・インターナショナル

5. 成績評価の方法

学習態度、口頭試問、ミニ CEX（外来新患の診療、回診時の診察）、レポート、出席、その他（カルテ記録、レポート）で総合評価する。

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

内科系 I、内科系 II 各ターム各々1名選択可能です。

大学病院以外での神経内科実習を希望する場合には、内科系 I または内科系 II の協力病院（市立秋田総合病院、秋田赤十字病院、あきた病院）を選択してください。

毎日診療録を記載し、外来初診患者は積極的に初期診療に携わり、上級医からフィードバックを得ること。病棟医と discussion をすること。診療録のフィードバックを確認して追記・訂正を行うこと。講演会、研究会があるときは、告知するので、積極的に参加してください。

キーワード：診療参加型実習、Problem Based Learning; PBL、Problem-Oriented MedicalRecord; POMR、自己評価

神経内科学 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第 1 回 月曜日 [8:30-17:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 華園	08:30- 9:00 オリエンテーション(1病棟8階 ナースステーション)、担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:30 外来新患の医療面接・診察 13:10-16:00 病棟・外来検査 担当入院患者回診 CC1 サポート 16:00-17:00 入院患者カンファランス
第 2 回 火曜日 [8:30-17:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 華園	08:30- 9:00 担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:30 外来新患の医療面接・診察 (mini-CEX 適宜行う) 13:10-16:00 病棟・外来検査 担当入院患者回診 CC1 サポート 16:00-17:00 外来カンファレンス
第 3 回 水曜日 [8:30-17:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 華園	08:30- 9:00 担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:00 総回診 入退院カンファランス 12:00-13:30 ミーティング(ケースプレゼンテーション) 14:00-17:00 病棟・外来検査 ボツリヌス毒素治療 筋生検 担当入院患者回診 CC1 サポート
第 4 回 木曜日 [8:30-17:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 華園	08:30- 9:00 担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:30 外来新患の医療面接・診察 13:10-17:00 病棟・外来検査 担当入院患者回診 CC1 サポート
第 5 回 金曜日 [8:30-17:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 華園	08:30- 9:00 担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:30 外来新患の医療面接・診察 13:10-17:00 病棟・外来検査 担当入院患者回診 CC1 サポート
第 6 回 月曜日 [8:30-17:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 華園	08:30- 9:00 オリエンテーション(1病棟8階 ナースステーション)、担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:30 外来新患の医療面接・診察 13:10-16:00 病棟・外来検査 担当入院患者回診 CC1 サポート 16:00-17:00 入院患者カンファランス
第 7 回 火曜日 [8:30-17:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 華園	08:30- 9:00 担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:30 外来新患の医療面接・診察 (mini-CEX 適宜行う) 13:10-16:00 病棟・外来検査 担当入院患者回診 CC1 サポート 16:00-17:00 外来カンファレンス
第 8 回 水曜日 [8:30-17:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 華園	08:30- 9:00 担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:00 総回診 入退院カンファランス 12:00-13:30 ミーティング(ケースプレゼンテーション) 14:00-17:00 病棟・外来検査 ボツリヌス毒素治療 筋生検 担当入院患者回診 CC1 サポート
第 9 回 木曜日 [8:30-17:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 華園	08:30- 9:00 担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:30 外来新患の医療面接・診察 13:10-17:00 病棟・外来検査 担当入院患者回診 CC1 サポート
第 10 回 金曜日 [8:30-17:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 華園	08:30- 9:00 担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:30 外来新患の医療面接・診察 13:10-17:00 病棟・外来検査 担当入院患者回診 CC1 サポート
第 11 回 月曜日 [8:30-17:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 華園	08:30- 9:00 オリエンテーション(1病棟8階 ナースステーション)、担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:30 外来新患の医療面接・診察 13:10-16:00 病棟・外来検査 担当入院患者回診 CC1 サポート 16:00-17:00 入院患者カンファランス
第 12 回 火曜日 [8:30-17:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 華園	08:30- 9:00 担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:30 外来新患の医療面接・診察 (mini-CEX 適宜行う) 13:10-16:00 病棟・外来検査 担当入院患者回診 CC1 サポート 16:00-17:00 外来カンファレンス
第 13 回 水曜日 [8:30-17:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 華園	08:30- 9:00 担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:00 総回診 入退院カンファランス 12:00-13:30 ミーティング(ケースプレゼンテーション) 14:00-17:00 病棟・外来検査 ボツリヌス毒素治療 筋生検 担当入院患者回診 CC1 サポート

神経内科学 臨床実習

授 業 展 開		授 業 内 容	
第 14 回	木曜日 [8:30-17:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 華園	08:30- 9:00 担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:30 外来新患の医療面接・診察 13:10-17:00 病棟・外来検査 担当入院患者回診 CC1 サポート	
第 15 回	金曜日 [8:30-17:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 華園	08:30- 9:00 担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:30 外来新患の医療面接・診察 13:10-17:00 病棟・外来検査 担当入院患者回診 CC1 サポート	
第 16 回	月曜日 [8:30-17:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 華園	08:30- 9:00 オリエンテーション(1病棟8階 ナースステーション)、担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:30 外来新患の医療面接・診察 13:10-16:00 病棟・外来検査 担当入院患者回診 CC1 サポート 16:00-17:00 入院患者カンファランス	
第 17 回	火曜日 [8:30-17:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 華園	08:30- 9:00 担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:30 外来新患の医療面接・診察 (mini-CEX 適宜行う) 13:10-16:00 病棟・外来検査 担当入院患者回診 CC1 サポート 16:00-17:00 外来カンファランス	
第 18 回	水曜日 [8:30-17:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 華園	08:30- 9:00 担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:00 総回診 入退院カンファランス 12:00-13:30 ミーティング(ケースプレゼンテーション) 14:00-17:00 病棟・外来検査 ボツリヌス毒素治療 筋生検 担当入院患者回診 CC1 サポート	
第 19 回	木曜日 [8:30-17:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 華園	08:30- 9:00 担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:30 外来新患の医療面接・診察 13:10-17:00 病棟・外来検査 担当入院患者回診 CC1 サポート	
第 20 回	金曜日 [8:30-17:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 華園	08:30- 9:00 担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:30 外来新患の医療面接・診察 13:10-17:00 病棟・外来検査 担当入院患者回診 CC1 サポート	
第 21 回	月曜日 [8:30-17:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 華園	08:30- 9:00 オリエンテーション(1病棟8階 ナースステーション)、担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:30 外来新患の医療面接・診察 13:10-16:00 病棟・外来検査 担当入院患者回診 CC1 サポート 16:00-17:00 入院患者カンファランス	
第 22 回	火曜日 [8:30-17:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 華園	08:30- 9:00 担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:30 外来新患の医療面接・診察 (mini-CEX 適宜行う) 13:10-16:00 病棟・外来検査 担当入院患者回診 CC1 サポート 16:00-17:00 外来カンファランス	
第 23 回	水曜日 [8:30-17:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 華園	08:30- 9:00 担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:00 総回診 入退院カンファランス 12:00-13:30 ミーティング(ケースプレゼンテーション) 14:00-17:00 病棟・外来検査 ボツリヌス毒素治療 筋生検 担当入院患者回診 CC1 サポート	
第 24 回	木曜日 [8:30-17:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 華園	08:30- 9:00 担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:30 外来新患の医療面接・診察 13:10-17:00 病棟・外来検査 担当入院患者回診 CC1 サポート	
第 25 回	金曜日 [8:30-17:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 華園	08:30- 9:00 担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:30 外来新患の医療面接・診察 13:10-17:00 病棟・外来検査 担当入院患者回診 CC1 サポート	

分 類：臨床医学 VII (CC2)

授業科目名：循環器内科学 臨床実習 (Cardiovascular)

対象学年：6 年次 選択

時間割コード：71644006-04

1. 主任教員

渡邊 博之 (教授、南臨床棟 5 階、6110、オフィスアワー：9:00-17:00 要アポイント)

2. 担当教員

渡邊 博之 (教授、南臨床棟 5 階、6110、オフィスアワー：9:00-17:00 要アポイント)

寺田 健 (講師、南臨床棟 5 階、6110、オフィスアワー：9:00-17:00 要アポイント)

佐藤 輝紀 (講師、南臨床棟 5 階、6110、オフィスアワー：9:00-17:00 要アポイント)

鈴木 智人 (助教、南臨床棟 5 階、6110、オフィスアワー：9:00-17:00 要アポイント)

佐藤 和奏 (助教、南臨床棟 5 階、6110、オフィスアワー：9:00-17:00 要アポイント)

加藤 宗 (助教、南臨床棟 5 階、6110、オフィスアワー：9:00-17:00 要アポイント)

若木 富貴 (助教、南臨床棟 5 階、6110、オフィスアワー：9:00-17:00 要アポイント)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. 診療参加型臨床実習 CC2 の概要・ねらい

各科実習期間が 4 週から 5 週となる CC2 では、1 年間の CC1 の経験を踏まえ、より本格的な循環器内科の診療参加型臨床実習を行う。

教員・医員・研修医の 3~4 名からなる診療チームの中に入り、そのチームの受け持ち患者をすべて受け持ち、すべての検査や治療に参加する。

指導医の監督の下に、日々の回診、カルテへの記載、プレゼンテーション、および各種検査、各種カンファレンスへの参加など実際の診療に参加しながら、担当患者の臨床推論・治療の過程を実践的に学ぶことにより、将来、何科の医師になっても必要な循環器内科領域の基本的な診療能力を実践修得する。

また、関連するプロフェッショナルリズム、倫理、医療行動科学、医療安全、医療法 (制度)、EBM について学ぶ。

(1, 2, 3, 4, 5, 6)

2. 学修目標

この期間に本診療科で特に経験する内容を下記に示す。

1) 症候・病態 (3-1.2.3.4.5)

(1) 発熱、(2) 全身倦怠感、(3) 食思 (欲) 不振、(4) 体重減少・体重増加、(5) ショック、(6) 意識障害・失神、(7) けいれん、(8) めまい、(9) 浮腫、(10) 咳・痰、(11) 呼吸困難、(12) 胸痛、(13) 動悸、(14) 胸水、(15) 嚥下困難・障害、(16) 腹痛、(17) 悪心・嘔吐、(18) 頭痛、(19) 腰背部痛、(20) 心停止

2) 基本的臨床手技 (4-6)

- (1) 皮膚消毒ができる。
- (2) 静脈採血を実施できる。
- (3) 末梢静脈の血管確保を実施できる。
- (4) 中心静脈カテーテル挿入を見学し、介助する。
- (5) 動脈血採血・動脈ラインの確保を見学し、介助する。
- (6) 注射 (皮内、皮下、筋肉、静脈内) を実施できる。
- (7) 診療録 (カルテ) を作成する。来診券、紹介状を記載する。
- (8) 各種診断書・検案書・証明書の作成を見学し、介助する。

3) 検査手技 (4-2, 4-6)

- (1) 12誘導心電図を記録できる。
- (2) 心臓の超音波検査を実施できる。
- (3) 経皮的酸素飽和度を測定できる。
- (4) 心エコー、運動負荷心電図、心筋シンチグラフィ、心臓カテーテルを見学し、介助する

4) 外科手技 (4-6)

- (1) 無菌操作を実施できる。
- (2) 手術や手技のための手洗いができる。
- (3) 手術室におけるガウンテクニックができる。
- (4) 基本的な縫合と抜糸ができる。
- (5) 創の消毒やガーゼ交換ができる。
- (6) 手術、術前・術中・術後管理を見学し、介助する。

5) 救命処置 (2-1.2.3.4.5.6.7, 4-1.2.3.4.5.6.7)

- (1) 身体徴候、バイタルサインから緊急性の高い状況であることを判断できる。
- (2) 一次救命処置を実施できる。
- (3) 二次救命処置を含む緊急性の高い患者の初期対応に可能な範囲で参加する。

6) シミュレーション教育 (4-2,4-6)

- (1) 心エコーシミュレータを用いて反復練習をすることで、臨床技能を磨く。
- (2) 心臓カテーテルシミュレーターを用いて、冠動脈造影中の医療安全に関する様々な意識を実験する。
- (3) エコーガイド下、中心静脈確保をシミュレーターを用いて経験保証する。

7) 医療行動科学、医療倫理、医療安全、医療法について (2-1.2.3.4.5.6.7.8, 3.5.6)

- (1) 各種検査・治療のインフォームドコンセント
指導医のもとでCT等の同意書を患者さん、ご家族から実際に取得する。
- (2) 困難な患者 急変患者・家族への説明、
- (3) 各種検査時の安全への配慮

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

内科診断学 (医学書院)
内科診断学 (南江堂)
集中講義 胸痛 (メジカルビュー社)
内科学 (朝倉書店)
Navigate 循環器疾患 (医学書院)
病気が見える循環器 (メディックメディア)
臨床循環器学 (文光堂)
クリニカルクラークシップガイド等、講義・演習資料

5. 成績評価の方法

CC-EPOC 入力状況、実習態度、口頭試問、miniCEX、OSCE、レポート、出席などにより行う。

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

- ・クリニカルクラークシップガイドの実習直前に必ず復習してくる事項【必修(コア)事項】を学習してくること。
- ・経験記録、手帳の記載を行うこと

循環器内科学 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第 1 回 月曜日 [9:20-17:00] 副題 担当	(第 1 週のみ) オリエンテーション (渡邊): 第二病棟 4 階カンファレンスルーム 患者診察 / 病棟診療
第 2 回 火曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	患者診察 / 病棟診療
第 3 回 水曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	患者診察 / 病棟診療
第 4 回 木曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	患者診察 / 病棟診療
第 5 回 金曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	患者診察 / 病棟診療 (最終週) 試問 (渡邊): 教授室

分 類：臨床医学 VII (CC2)
授 業 科 目 名：呼吸器内科学 臨床実習 (Respiratory Medicine)
対 象 学 年：6 年次 選択
時間割コード：71644006-05

1. 主任教員

中山勝敏 (教授、呼吸器内科学講座、7510)

2. 担当教員

中山勝敏 (教授、呼吸器内科学講座、7510)
佐藤一洋 (特任准教授、呼吸器内科学講座、7510)
竹田正秀 (講師、呼吸器内科学講座、7510)
奥田佑道 (特任助教、高齢者医療先端研究センター、7510)
坂本 祥 (特任助教、高齢者医療先端研究センター、7510)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. ねらい

病棟や外来患者さんへの診療を通して、呼吸器領域の症候や病態の臨床推論、鑑別診断、検査・治療方針決定等の実践力を修得する。診療チームの一員として内科領域、特に呼吸器を中心とした患者の診断・治療の過程を経験し、講義・クリニカルクラークシップ実習を通じて深く理解習得する。また、関連するプロフェッショナルリズム、倫理、医療行動科学、医療安全、医療法 (制度)、EBM について学ぶ。

2. 概要 (1-1~1-2、3-1~3-7、4-1~4-8、5-1~5-5、6-1~6-2)

1 年間の CC1 の経験を踏まえ、さらに専門性を高めた診療参加型臨床実習を行う。

呼吸器内科疾患の診療に関する基本的な知識と技能を修得するために、指導医を中心とした医療チームの一員として能動的に実習に取り組む。臨床実習の中で自ら情報を収集し、患者さんのニーズ・問題点の抽出、整理、解釈を行い (臨床的推論)、解決法 (診断、治療) を立案するための基本的訓練を行う (problem based learning: PBL)

1) 病棟診療 (1-1~1-2、2-1~2-8、3-1~3-7、4-1~4-8)

指導医チームに加わり、チーム内の病棟患者さん全員の診療を行う。日々回診し、問診、身体診察を行い、臨床課題を抽出し、臨床推論を行う。指導医とともにカルテ記載、検査および治療方針の決定を行う。病棟カンファランスでは担当すべての症例についてプレゼンテーションと質疑応答を行い、エビデンスに基づいた診療を経験する。さらに文献的な考察も含め病態の理解を深める。

2) 外来診療 (1-1~1-2、2-1~2-8、3-1~3-7、4-1~4-8)

外来指導医のもと、新患者さんの問診、身体診察を行い、指導医とともにカルテ記載、鑑別疾患の検討、および必要な検査の提案を行う。病態を把握し指導医とともに治療方針を検討する。

3) 検査への参加 (2-1~2-8、3-1~3-7、4-1~4-8)

気管支鏡検査の見学および介助を行う。検査前に指導医とともに当該症例の画像を読影し、鑑別診断の検討および検査方針を立てる。検査後の検体の取り扱いも理解する。

4) 発表 (3-1~3-7、5-1~5-5、6-1~6-2)

担当症例などから興味のある臨床の問題点を抽出し、最新の学術的知見をまとめ、発表を行う。エビデンス収集能力および医学的な分析能力、プレゼンテーション能力を養う。

3. 講義内容・具体的到達目標・学修目標

上記のねらい及び概要を中心に実習をすすめるが、本診療科で特に経験保証する症候、病態、各種手技等の内容を下記に示す。

1) 症候・病態、臨床推論 (3-1~3-7、4-1~4-8)

(1) 発熱、(2) 全身倦怠感、(3) 食思(欲)不振、(4) 体重増加・体重減少、(5) 意識障害・失神、(6) 脱水、(7) 浮腫、(8) 咳・痰、(9) 血痰・喀血、(10) 呼吸困難、(11) 胸痛、(12) 胸水、(13) 嚥下困難・障害、(14) リンパ節腫脹

2) 基本的臨床手技 (1-1~1-2、2-1~2-8、3-1~3-7、4-1~4-8)

(1) 体位交換、移送ができる。
(2) 皮膚消毒ができる。
(3) 気道内吸引、ネブライザーを実施できる。
(4) 静脈採血を実施できる。
(5) 末梢静脈の血管確保を実施できる。
(6) 中心静脈カテーテル挿入を見学し、介助する。
(7) 動脈血採血・動脈ラインの確保を見学し、介助する。
(8) ドレーンの挿入と抜去を見学し、介助する。
(9) 診療録(カルテ)を作成する。
(10) 各種診断書・検案書・証明書の作成を見学し、介助する。

3) 検査手技 (2-1~2-8、3-1~3-7、4-1~4-8)

(1) 微生物学検査を評価できる。
(2) 12誘導心電図を記録できる。
(3) 胸部の超音波検査を実施できる。
(4) 経皮的酸素飽和度を測定できる。
(5) エックス線撮影、CT、MRI、核医学検査、気管支鏡検査を見学し、介助する。

4) 外科的手技 (2-1~2-8、3-1~3-7、4-1~4-8)

(1) 無菌操作を実施できる。
(2) 基本的な縫合と抜糸ができる。
(3) 創の消毒やガーゼ交換ができる。

5) 救命処置 (2-1~2-8、3-1~3-7、4-1~4-8)

(1) 身体徴候、バイタルサインから緊急性の高い状況であることを判断できる。
(2) 一次救命処置を実施できる。
(3) 二次救命処置を含む緊急性の高い患者の初期対応に可能な範囲で参加する。

6) シミュレーション教育 (3-1~3-7、6-1~6-2)

(1) 気管支鏡シミュレータを用いて反復練習をすることで、検査の意義を学び技術を磨く。
(2) 胸腔穿刺シミュレータを用いて反復練習をすることで、検査の意義を学び技術を磨く。

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

内科学(朝倉書店) 内科診断学(南江堂) 呼吸器領域の各種診療ガイドラインまたは診断と治療の手引き [肺癌(金原出版)、COPD(メディカルレビュー)、喘息(協和企画)、特発性肺線維症(南江堂)、成人肺炎(メディカルレビュー)]

5. 成績評価の方法

態度、口頭試問、ミニ CEX、出席、学生症例プレゼンテーションでの発表など。

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

指定の教科書・参考書等に則り予習をし、同教科書・参考書および実習時に指導された内容をもとに復習すること。

呼吸器内科学 臨床実習

授 業 展 開		授 業 内 容
第 1 回 副題 担当	月曜日 [8:30 - 17:00] クリニカルクラークシップ 各診療チーム	・オリエンテーション：第 2 病棟 7 階カンファレンス室（第 1 週のみ） ・クリニカルクラークシップ
第 2 回 副題 担当	火曜日 [8:30 - 17:00] クリニカルクラークシップ 各診療チーム	・クリニカルクラークシップ
第 3 回 副題 担当	水曜日 [8:30 - 17:00] クリニカルクラークシップ 各診療チーム	・クリニカルクラークシップ
第 4 回 副題 担当	木曜日 [8:30 - 17:00] クリニカルクラークシップ 各診療チーム	・クリニカルクラークシップ
第 5 回 副題 担当	金曜日 [8:30 - 17:00] クリニカルクラークシップ 各診療チーム	・クリニカルクラークシップ

分 類：臨床医学 VII (CC2)

授業科目名：血液・腎臓・膠原病内科学(内科学3) 臨床実習 (Internal Medicine 3 ; Hematology, Nephrology, and Rheumatology - Clinical Clerkship 2 -)

対象学年：6年次選択

時間割コード：71644006-06

1. 主任教員

高橋直人 (教授、血液・腎臓・膠原病内科学講座(第三内科)、6111、オフィスアワー：8:30-17:00)

2. 担当教員

高橋直人 (教授、血液・腎臓・膠原病内科学講座(第三内科)、6111、オフィスアワー：8:30-17:00)

奈良美保 (講師、輸血細胞治療・移植再生医療センター、6313、オフィスアワー：8:30-17:00)

池田翔 (講師、血液・腎臓・膠原病内科学講座(第三内科)、6116、オフィスアワー：8:30-17:00)

北館明宏 (講師、血液・腎臓・膠原病内科学講座(第三内科)、6116、オフィスアワー：8:30-17:00)

小林敬宏 (講師、血液・腎臓・膠原病内科学講座(第三内科)、6116、オフィスアワー：8:30-17:00)

山下鷹也 (助教、血液・腎臓・膠原病内科学講座(第三内科)、6116、オフィスアワー：8:30-17:00)

小林五十鈴 (特任助教、総合臨床教育研修センター、6116、オフィスアワー：8:30-17:00)

齋藤雅也 (助教、血液・腎臓・膠原病内科学講座(第三内科)、6116、オフィスアワー：8:30-17:00)

阿部史人 (助教、血液・腎臓・膠原病内科学講座(第三内科)、6116、オフィスアワー：8:30-17:00)

齋藤綾乃 (助教、血液・腎臓・膠原病内科学講座(第三内科)、6116、オフィスアワー：8:30-17:00)

藤岡優樹 (助教、中央検査部、6116、オフィスアワー：8:30-17:00)

3. 授業のねらい及び概要(学修目標)

1. 診療参加型臨床実習 CC2 の概要・ねらい

チームの一員として、将来どのような分野の医師にも必要な血液・腎臓・膠原病領域に関する症候、臨床推論、鑑別診断、検査、治療方針決定等を修得する。(1-1, 1-2, 2-1~2-8)

1) 病棟診療

指導医のもと、数名の病棟患者さんを担当する。日々問診、身体診察、カルテ記載、プレゼンテーションを行い、文献検索により病態理解や治療方針の決定に参加する。(4-1~4-8)

2) 外来診療

指導医のもと、新患・再来患者さんの病歴聴取、診察、カルテ記載、鑑別疾患の検討、必要な検査の提案、治療方針の提案を行う。(4-1~4-8)

3) CC1 のレポート作成を指導する。後輩に指導することで、医学的知識を深め、科学的探究心やエビデンス収集能力、教育的配慮を身に付ける。(5-1~5-5, 6-1~6-2)

2. 学修目標

1) 症候・病態 臨床推論

(1) 発熱、(2) 全身倦怠感、(3) 黄疸、(4) 貧血、(5) 出血傾向、(6) リンパ節腫脹、(7) 腹部腫瘍

2) 基本的臨床手技

(1) 皮膚消毒、(2) 静脈採血、(3) 末梢静脈の血管確保、(4) 中心静脈カテーテル挿入の見学・介助、(5) 腰椎穿刺の見学・介助、(6) 局所麻酔、輸血の見学・介助、(7) カルテ作成、(8) 診断書・検案書・証明書の作成見学・介助、(9) リハビリテーションへの参加

3) 検査手技

(1) 尿検査(尿沈査含む)の実施、(2) 末梢血塗抹標本作成・観察、(3) 微生物学検査(Gram染色含む)の実施、(4) 血液型判定の実施、(5) 経皮的酸素飽和度測定、(6) 骨髄穿刺、腎生検の見学・介助、(7) 体脂肪率・水分量・筋肉量の測定

4) 外科手技

(1) 無菌操作の実施、(2) 創消毒の実施

5) 救命処置

(1) 身体徴候・バイタルサインから、緊急性の高い状況を判断できる、(2) 二次救命処置を含む緊急性の高い患者の初期対応に可能な範囲で参加する。

6) 医療行動科学、医療倫理、医療安全、医療法、EBM について

(1) 各種検査・治療のインフォームドコンセント(2-4)、(2) 悪性腫瘍の患者・家族への病状説明(2-4, 2-7)、(3) 認知症や老々介護、生活困窮者に対する支援センターとの連携(2-5, 2-6)、(4) Up To Date や PubMed 使用によるエビデンス検索(4-4, 5-3)

詳細については第1週目月曜日のオリエンテーションで解説する。

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

朝倉内科学、ハリソン内科学、本学のクリニカルクラークシップガイド、講義資料

5. 成績評価の方法

態度、ミニ CEX、出席

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

・本学のクリニカルクラークシップガイドの、実習直前に必ず復習してくる事項【必修(コア)事項】を学習してくること。

・CC-EPOC の記載を行うこと。

(*) オリエンテーションは初日に行います。

() 総括は最終日に行います。進捗状況確認を定期的に行います。

予定は変更することがあります。

血液・腎臓・膠原病内科学（内科学3） 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第1回 月曜日 [8:30 - 17:00] 副題 オリエンテーション 担当 各担当教官	(*) オリエンテーション (医局) 診療参加型 病棟・外来実習 15:00- 血液カンファレンス カンファでのプレゼン評価
第2回 火曜日 [8:30 - 17:00] 副題 実習 担当 各担当教官	診療参加型 病棟・外来実習 13:30- 新入院カンファ カンファでのプレゼン評価
第3回 水曜日 [8:30 - 17:00] 副題 実習 担当 各担当教官	診療参加型 病棟・外来実習 病棟実習時ミニ CEX 16:00- 腎カンファレンス カンファでのプレゼン評価
第4回 木曜日 [8:30 - 17:00] 副題 実習 担当 各担当教官	診療参加型 病棟・外来実習 病棟実習時ミニ CEX 14:00- 実習進捗確認
第5回 金曜日 [8:30 - 17:00] 副題 実習 担当 各担当教官	診療参加型 病棟・外来実習 病棟実習時ミニ CEX 15:00- 腎グループ入院患者検討会 () 総括

分 類：臨床医学 VII (CC2)

授業科目名：精神科学 臨床実習 (Clinical Clerkship in Psychiatry)

対象学年：6 年次 選択

時間割コード：71644006-07

1. 主任教員

三島 和夫 (教授、精神科学講座 北臨床棟 4 階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00)

2. 担当教員

三島 和夫 (教授、精神科学講座 北臨床棟 4 階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00)

竹島 正浩 (准教授、精神科学講座 北臨床棟 4 階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00)

今西 彩 (助教、精神科学講座 北臨床棟 4 階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00)

伊藤 結生 (助教、精神科学講座 北臨床棟 4 階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00)

吉沢 和久 (助教、精神科学講座 北臨床棟 4 階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00)

馬越 秋瀬 (助教、精神科学講座 北臨床棟 4 階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00)

小笠原 正弥 (助教、精神科学講座 北臨床棟 4 階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00)

工藤 瑞樹 (助教、精神科学講座 北臨床棟 4 階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. ねらい

当科におけるクリニカルクラークシップのねらいは、臨床実習を通じて精神障害の病態生理、診断、治療に関する知識を深めるとともに、精神障害の患者に対して適切な医療面接や臨床推論を行い、的確な診断やエビデンスに基づく治療を策定することである。これには、精神保健福祉法の正しい知識に基づき、個々の患者に対して適切な入院形態や行動制限を選択できるようになることも含まれる。また、関連する医学行動科学、医療倫理、医療安全、医療法 (医療制度)、EBM について実践的に学ぶ。

特に CC2 では、すでに CC1 で培ったそれらの知識を応用し、チームの一員としてより能動的に振舞うことが求められる。その中で、医師の倫理や医師の職責などのプロフェッショナリズムを育み、良好な患者と医師の信頼関係に基づく全人的医療を実践し、チーム医療に必要なコミュニケーション能力を身に付ける。

CC2 では CC1 より多くの患者と触れ合うことになり、医学的課題の発見などのリサーチマインドや問題解決能力、絶えず進歩する医学・医療に興味を抱いて学習し、学んだ成果を取り入れる姿勢をさらに高めることが期待される。(1-1~1-2、2-1~2-3、2-5~2-7、3-1~3-3、3-7、4-1~4-5、4-7、5-1~5-3)

2. 概要

到達目標

- (1) 患者-医師の良好な信頼関係に基づく精神科面接の基本を説明できる。(1-2、2-1~2-3)
- (2) 診察・検査を通じて精神障害の診断・治療の流れを理解できる。(4-1~4-3)
- (3) 精神保健福祉法に基づく入院形態の区分と適応について理解できる。(3-7)
- (4) 主な精神疾患の主要症状、診断、治療について理解できる。(3-1~3-3)

・精神科疾患の診療に関する基本的な知識と技能を修得するために、指導医を中心とした医療チームの一員として能動的に実習に取り組む。(2-3、4-7)

・臨床実習の中で自ら情報を収集し、患者さんのニーズ・問題点の抽出、整理、解釈を行い(臨床的推論)、解決法(診断、治療)を立案するための基本的訓練を行う(problem based learning; PBL)。(5-1~5-3、6-1)

・診療チームの外来・病棟における日常診療に参加し、精神科の診察、検査、治療の実際を体験し、精神科診療のポートフォリオを作成する。(2-1~2-3、2-5~2-6、3-1~3-3、4-1~4-3、4-7)

・精神科疾患の診察、検査、治療の実際を体験し、精神科の定期カンファレンス・総回診に参加し、診断及び治療過程などを学ぶ。(2-1~2-6、3-1~3-3、4-1~4-3、4-5、4-7)

- ・カンファレンスなどを通して、テキスト上の知識を実体化し、受け持ち患者さんの精神疾患および個別特性を深く理解し、医療チーム内の情報共有を行う。(1-2、2-2、2-4〜2-5、4-7)
- ・精神科の日常診療に参加して得た診察、検査、治療技能を実際の患者診療に適用できる。(4-1~4-3、4-6)

1) 病棟診療

CC2 学生は4～5週間配属され、指導医のもと病棟の担当患者さんを毎日回診して、診療内容をカルテに記載する。精神科では1～3ヶ月を経て症状改善する患者さんが多いため、CC2の期間で患者さんの病状の変化、治療の効果判定、最終診断などについてより多くの知識を身に付ける。指導医の監督のもとに、医療面接、身体診察を行って、問題を抽出し、作業仮説を立ててEBMに基づいた検証を繰り返す(必要に応じて文献を検索する)。臨床推論に基づいて、診断、鑑別に必要な検査を立案し、担当患者さんの重症度、合併症を勘案して治療方針の選択を試みる。他科頼診券、ウイークリーサマリー、紹介状などのカルテへの記載(指導医の確認必須)、総回診の見学、患者・家族への説明への参加など、チームの一員として基本的な診療を実践的に学び、医師としてのプロフェッショナルリズムを身に付けるために必要な知識、学習プロセスを身に付ける。(1-1~1-2、2-1、2-3~2-5、4-1~4-5、4-7、5-1~5-3、6-1)

2) 外来診療

外来新患や再来患者の診察に陪席し、医療面接、身体診察を見学し、臨床推論に則った検査、治療立案を考える。特に再来患者の診察の見学では、患者さんがどのような治療経過、状態像の変化、診断の変化などを経て治癒するのかを実際に学ぶ。また、入院を要する患者さんの診断、状態像、病識などを理解し、入院形態を指導医とともに考え、入院時の告知や説明に陪席する。(3-2~3-3、3-7、4-1~4-3)

3) 各種検査・手術等の治療への参加

診療チームの一員として各種検査、治療に参加しながら、臨床推論・検査・治療の実験を経験し、検査成績の評価を自ら試み、記録する。(2-5、4-1~4-7)

3. 学修目標

上記1のねらい・概要を中心に実習を進めるが、本診療科で特に経験保証する症候、病態、各種手技等の内容を下記に示す。(3-1~3-4)

1) 症候・病態 臨床推論

- a. 統合失調症 b. うつ病 c. 双極性障害(躁うつ病)
- d. 症状精神病 e. 認知症 f. 物質使用障害
- g. 不安障害群と心的外傷及びストレス因関連障害群
- h. 身体症状症及び関連症群、食行動障害及び摂食障害群
- i. 睡眠-覚醒障害 j. 解離性障害 k. パーソナリティ障害
- l. 神経発達障害群(知的能力障害、自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動障害、運動障害群)

2) 基本的臨床手技(1-1~1-2、2-1~2-3、4-1~4-6)

- (1) 医師患者関係の在り方を理解する。
- (2) 精神科面接法、精神的力動の基本について理解し、説明できる。
- (3) 修正型電気けいれん療法の適応、装着方法、判定ができる。
- (4) 精神科作業療法の作業内容、治療目的を説明できる。
- (5) 行動制限の種類、必要性などを理解し、診療録に正確に記載できる。
- (6) 診療録(カルテ)を作成する
- (7) 各種診断書・入退院の届出・証明書の作成を見学し、介助する。

3) 検査・治療手技(4-1~4-5、2-5~2-6)

検査・治療手技(4-1~4-5、2-5~2-6)

- (1) 症状評価尺度を実施し、結果を説明できる。
- (2) 神経学的所見や長谷川式簡易知能評価スケール(HDSR)、Mini-Mental State Examinaton(MMSE)をとり、カルテへの記

載ができる。

- (3) 睡眠脳波 (PSG) や睡眠潜時反復検査 (MSLT) を含む脳波検査を見学し、結果を指導医と共に確認し診断及び治療立案を行う。
- (4) アクチグラフの結果を指導医と共に確認する。
- (5) エックス線撮影、コンピュータ断層撮影 (CT)、磁気共鳴画像法 (MRI)、核医学検査を見学し、介助する。その結果を指導医と共に確認し、診断及び治療立案を行う。
- (6) 心理検査結果を指導医や心理士と共に確認し、診断及び治療立案を行う。
- (7) 腰椎穿刺を見学し、介助する。

4) プロフェッショナルリズム、医学行動科学、医療倫理、医療安全、医療法 (制度)、EBM について (1-1~1-2、2-1~2-7、3-5~3-7、4-4、4-7~4-8、5-1~5-3、5-5、6-1)

- (1) 各種検査・治療のインフォームドコンセント (見学)。
- (2) 困難な患者、急変患者・家族への説明 (見学)。
- (3) 患者さんの生活環境 (家庭、職場、施設など) やアドヒアランスなどに配慮した診療計画を検討できる。
- (4) 生活習慣に潜むリスクを列挙して、患者指導の在り方を考えられる。
- (5) 緩和ケアのチームの一員として患者さんの精神的支援、意思決定支援、苦痛の緩和について理解する。
- (6) 各種侵襲的な検査・治療時の安全性への配慮ができる。
- (7) 自立支援制度、介護保険制度、障害者自立支援法、精神障害者保健福祉手帳、障害者差別解消法、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、成年後見制度などを概説できる。
- (8) 行動制限について指定医からその必要性及び人権への配慮の仕方について学び、説明することができる。
- (9) 各種診療ガイドラインを適宜参照し、活用できる。
- (10) 文献から得られた情報の批判的吟味ができる。

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

4 年次精神科講義資料、診察実習時の資料 (神経疾患診察法)、OSCE クリニカルクラークシップガイドを常に参照できるようにすること。必要に応じて、診断・治療ガイドラインを参照、活用すること。

- ・標準精神医学 (尾崎紀夫 他編 医学書院)
- ・カプラン臨床精神医学テキスト (井上令一 監修 メディカル・サイエンス・インターナショナル社)
- ・DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル (高橋三郎、尾崎紀夫 他訳 医学書院)
- ・ICD-10 精神及び行動の障害 臨床記述と診断ガイドライン (融 道男 他訳 医学書院)
- ・医学専門雑誌、医学文献の活用を奨励する。

5. 成績評価の方法

出席率 (遅刻厳禁) 参加意欲、実習態度を最も重視する。

レポート発表を行う。レポートは受け持ち患者さんについて指導医から指導を受けながら作成する。

レポート発表の内容を踏まえ、当該患者さんの現症、診断、治療方針等について試問を行う。

実習態度に加えて、レポート内容及び口頭発表、理解度を総合的に評価する。

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

- ・指定教科書は事前に提示するので、予習して受講すること。
- ・指定教科書に授業の重要なポイントを記載するなどして学修すると、講義後の復習に役立つ。
- ・担当教員の予定などにより、講義内容、講義時間を若干変更する場合がある。

精神科学 臨床実習

授 業 展 開		授 業 内 容
第 1 回 副題 担当	月曜日 [8:30-17:00] オリエンテーション・外来診察・病棟診察 三島 和夫	午前 8 時 30 分に外来 7 番診察室に集合 配属期間中の実習内容についてのオリエンテーションを行う 各指導医の紹介と個別の打ち合わせを行う
第 2 回 副題 担当	火曜日 [9:00-17:00] 外来診察・病棟診察	各指導医の指示の元で、院内での実習にのぞむ
第 3 回 副題 担当	水曜日 [9:00-17:00] 外来診察・病棟診察・カンファレンス	各指導医の指示の元で、院内での実習にのぞむ 病棟カンファレンスに参加する
第 4 回 副題 担当	木曜日 [9:00-17:00] 外来診察・病棟診察	各指導医の指示の元で、院内での実習にのぞむ
第 5 回 副題 担当	金曜日 [9:00-17:00] 外来診察・病棟診察	各指導医の指示の元で、院内での実習にのぞむ

分 類：臨床医学 VII (CC2)

授業科目名：消化器外科学（外科学 1） 臨床実習（CC2:Gastroenterological Surgery） - 消化器外科臨床実習 2 -

対象学年：6 年次選択

時間割コード：71644006-08

1. 主任教員

有田 淳一（教授、消化器外科、6123、オフィスアワー：9:00-17:00）

2. 担当教員

有田 淳一（教授、消化器外科、6123、オフィスアワー：9:00-17:00）

渡辺 剛（講師、消化器外科、6215、オフィスアワー：9:00-17:00）

中川 康彦（助教、消化器外科、6215、オフィスアワー：9:00-17:00）

渥美振一郎（助教、消化器外科、6215、オフィスアワー：9:00-17:00）

大塚 直彦（助教、消化器外科、6215、オフィスアワー：9:00-17:00）

山田 修平（助教、消化器外科、6215、オフィスアワー：9:00-17:00）

堀江 美里（助教、消化器外科、6215、オフィスアワー：9:00-17:00）

3. 授業のねらい及び概要（学修目標）

1，ねらい（大まかな全体目標）

診療チームの一員として、入院中の患者さんへの診療を通して、将来どのような分野の医師にも必要な外科領域、特に消化器外科を中心とした症候や病態の推論、鑑別診断、検査・治療方針決定などの実践力を習得し、消化器外科医のイメージを獲得する。また、関連する医療倫理、医療安全、EBM について実践的に学ぶ。

2，概要（大まかな学修目標）

・診療チームの一員として入院患者を担当し、日々の回診、総回診、カンファランスでの症例提示を行う。（1-1～1-2、4-1～4-7）

・ガイドラインを有効に活用する習慣、診療から生じる疑問に対して仮説を立て、それを検証する習慣を身に着ける。（3-3、4-4、5-1～5-3、6-1～6-2）

・患者さんの年齢、生活背景、既往症などを考慮して、病状、診断に必要な検査、最適な治療を考えることができる。（1-2、4-1～4-7）

1) 病棟実習

各学生は診療チームに 4-5 週間配属され、指導医のもとで数人の患者さんを担当する。指導医の監督のもとに、毎日、担当患者さんの回診を行い、医療面接、身体診察、検査・治療方針の提案・議論、診療録の記載、カンファランスでのプレゼンテーションなど、診療チームの一員として実践的な診療を学ぶ。CC1 の学生に対する学修補助も行う。

2) 各種検査・手術等の実習

担当する患者さんの検査や手術に参加し、どのように実際の診療・治療が行われているのかを学ぶ。

3，学修目標・項目

1) 症候・病態 臨床推論（3-1～3-4）

（1）黄疸、（2）腹痛、（3）悪心・嘔吐、（4）食思不振、（5）便秘・下痢、（6）腹部膨隆・膨満・腫瘍

2) 基本的臨床手技（4-1～4-7）

（1）体位変換、移送ができる

（2）胃管の挿入と抜去ができる

（3）尿道カテーテルの挿入と抜去ができる

(4) 全身麻酔手術を見学し、介助ができる

(5) 診療録を作成する

3) 検査手技(4-2~4-4)

(1) 腹部超音波検査を実施できる

(2) 各種検査の適応や手技について説明でき、結果の解釈が行える

4) 外科手技(4-6)

(1) 無菌操作を実施できる

(2) 手術や処置のために手洗いができる

(3) 手術室におけるガウンテクニックができる

(4) 基本的な縫合と抜糸ができる

(5) 創の消毒や包交ができる

(6) 手術や、術前・術中・術後管理を見学し、介助する

5) リサーチマインド・問題解決能力(5-1~5-3、6-1~6-2)

(1) 担当する患者さんの医学的課題を診療チーム内で共有・理解し、解決する能力を獲得する

(2) 振り返りによって、自己省察能力を高める

6) 医療行動科学、医療倫理、医療安全(1-1~1-2、2-1~2-5、3-5~3-6)

(1) 各種の検査や手術のインフォームドコンセントを理解する

(2) 患者や家族への対応について考えることができる

(3) 医師としてのプロフェッショナリズム、医の倫理について理解する

(4) 各種の検査や手術などの安全管理に関して説明できる

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

各担当教官と相談すること

5. 成績評価の方法

態度(実習中の学習態度)

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

クリニカルクラークシップガイドの必修事項を確認してくること

毎日、振り返りを行い、疑問点は学習すること

期間中に2回のセミナーを予定しています

消化器外科学（外科学1） 臨床実習

授 業 展 開		授 業 内 容
第 1 回 副題 担当	月曜日 [8:30-17:00] 臨床実習 2 各指導教官	8:30- オリエンテーション 南臨床棟 3階医局（第1週のみ） 病棟回診・手術への参加
第 2 回 副題 担当	火曜日 [8:30-17:00] 臨床実習 2 各指導教官	病棟回診・手術・検査への参加 16:00- 外来症例カンファランス 17:00- 消化器合同カンファランス（自由参加）
第 3 回 副題 担当	水曜日 [8:30-17:00] 臨床実習 2 各指導教官	病棟回診・手術への参加
第 4 回 副題 担当	木曜日 [8:00-17:00] 臨床実習 2 各指導教官	8:00- 病棟カンファランス、術前検討会 病棟回診・検査への参加
第 5 回 副題 担当	金曜日 [8:30-17:00] 臨床実習 2 各指導教官	病棟回診・手術への参加

分 類：臨床医学 VII (CC2)

授業科目名：胸部外科学（外科学 2）臨床実習（Thoracic Surgery）

対象学年：6 年次選択

時間割コード：71644006-09

1. 主任教員

今井一博（准教授、胸部外科学講座（呼吸器外科）、6132）

2. 担当教員

今井一博（准教授、胸部外科学講座（呼吸器外科）、6132）

佐藤雄亮（病院准教授、胸部外科学講座（食道外科）、6132）

寺田かおり（講師、胸部外科学講座（乳腺・内分泌外科）、6132）

高嶋祉之具（講師、胸部外科学講座（呼吸器外科）、6132）

脇田晃行（医学部講師、胸部外科学講座（食道外科）、6132）

高橋絵梨子（助教、胸部外科学講座（乳腺・内分泌外科）、6132）

長岐雄志（助教、胸部外科学講座（食道外科）、6132）

松尾翼（医員、胸部外科学講座（呼吸器外科）、6132）

栗山章司（助教、胸部外科学講座（呼吸器外科）、6132）

3. 授業のねらい及び概要（学修目標）

1. 授業の概要及びねらい

診療参加型臨床実習を通して、医師としての知識、思考法、技能、態度の基本を学ぶ。

2. 講義内容・具体的到達目標・学修目標

1) 患者に対する適切な態度がとれる（1-1～1-2, 2-1～2-3）。

2) 身体所見、カルテ記載が自分で行える。総合的にみることができる（2-4～2-5, 4-1～4-3, 4-5～4-6）。

3) 診断にいたる論理的思考、それに基づく適切な治療法を述べる（2-4, 3-1～3-3, 4-3～4-4, 5-3）。

3. 医療行動科学、医療倫理、医療安全、EBM、医療法（医療制度）について

関連するプロフェッショナリズム、医の倫理、医療安全、ICT を活用した EBM の実践、医療法（医療制度）について説明できる（1-1～1-2, 2-1～2-7, 3-5～3-7, 4-4, 4-7, 5-1～5-3, 6-2）。

4. 教科書・参考書

標準外科学（医学書院）、他

5. 成績評価の方法

出席・実習態度を考慮して評価します。

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

初日に医局に集合、オリエンテーションを行います。

2 週目以降も同じスケジュールですが予定が変更することもありますので、各グループ担当の指導教員へ確認してください。

日程により、関連する総合病院への実習や学術集会・研究会への参加もあります。

胸部外科学（外科学2）臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第1回 月曜日 [8:30-17:00] 副題 担当 各担当教員	8:30～ 初日のみオリエンテーション （臨床研究棟南 3F:胸部外科医局） 外来、病棟実習 手術室実習（見学、手洗い、介助等） 食道外科セミナー（17:00～） 症例プレゼンテーションの準備・練習
第2回 火曜日 [8:00-17:00] 副題 回診とカンファレンス 担当 各担当教員	8:00～ 総回診、カンファレンス 病棟実習 呼吸器外科症例検討 18:00～ 食道がんカンサボード（放射線科カンファレンス室）
第3回 水曜日 [8:30-17:00] 副題 担当 各担当教員	8:00～ 医局会 病棟実習 手術室実習（見学、手洗い、介助等） 呼吸器合同カンファレンス
第4回 木曜日 [8:30-17:00] 副題 担当 各担当教員	病棟回診・検査等の見学 期間中に縫合実習を実施することもあります。
第5回 金曜日 [8:30-17:00] 副題 担当 各担当教員	病棟回診・実習 手術室実習（見学、手洗い、介助等） 以降の週の予定もこれに同じ。 手術の予定や入室は、医局または各領域グループの担当教員より連絡します。

分 類：臨床医学 VII (CC2)

授業科目名：心臓血管外科学 臨床実習 (Clinical Clerkship II Cardiovascular surgery)

対象学年：6 年次 選択

時間割コード：71644006-10

1. 主任教員

中嶋博之 (教授、心臓血管外科、6135)

2. 担当教員

中嶋博之 (教授、心臓血管外科、6135)

高木大地 (講師、心臓血管外科、6135)

山浦玄武 (助教、心臓血管外科、6135)

桐生健太郎 (助教、心臓血管外科、6135)

板垣吉典 (医員、心臓血管外科、6135)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. ねらい

チームの一員として、手術や入院患者さんへの診療を通して、将来どの分野の医師にも必要な外科領域、特に心臓血管外科を中心とした症候や病態の臨床推論、鑑別診断、検査・治療方針決定などの実践力を習得する。また、関連する医学行動科学、医療倫理、医療安全、医療法 (医療制度)、EBM について実践的に学ぶ。

2. 概要

CC2 ではより本格的な心臓血管外科の診療参加型臨床実習を行う。医師 3-4 名からなる診療チームに所属し、チームの受け持ち患者全てを担当する。医師の指導の下、日々の回診、カルテへの記載、プレゼンテーションなどを行う。特に、手術症例は主体的に担当し、術前検査、カンファレンスペーパーの作成、術前プレゼンテーション、手術、術後管理など、実際の診療に参加しながら、臨床推論・治療の過程を実践的に学ぶ。

1) 病棟診療

各学生は、各診療チームに 1 週間配属され、指導医のもと 1 名以上の病棟 (主に集中治療室) の術後患者さんを担当する。指導医の指導の下に、日々、担当患者さんの回診を行い、医療面接・身体診察による課題抽出、臨床推論、診療内容のカルテへの記載を通して、チームの一員として基本的な診療を実践的に学ぶ。

特に、術後患者の診療を通して、心臓血管外科術後急性期の呼吸・循環のダイナミクスを学ぶ。

(1) プレゼンテーション (術前症例提示・チームカンファレンス)

(2) カルテ記載 (ICU フォーマット)

(3) 診療手技：CV 挿入など。

(4) 手術：手術メンバーとして手術に参加する。到達度に合わせて皮膚縫合や大腿動静脈の露出などを行う。

2) 外来診療、各種検査、手術などの治療への参加

実習班で一人の手術患者を担当する。術前検査、手術適応・術式判断、手術見学、術後管理について、診療チームの一員として、実践的に学ぶ。

(1) 新患外来の見学を行う。到達度に応じて、患者の予診を行う。

(2) 手術のインフォームドコンセントを見学する

3. 学修目標

上記の概要・ねらいを中心に実習を進めるが、本診療科で特に経験する症候・病態、各種手技などの内容を下記に示す。

1) 症候・病態 臨床推論 (4-1,2,3,4,5,6,7.)

(1) 術後循環不全・術後呼吸不全

(2) ショック

(3) 浮腫

- (4) 胸水
- (5) 胸痛
- (6) 呼吸困難
- (7) 動悸
- 2) 基本的臨床手技 (3-1,2,3., 4-2,3,5,6.)
 - (1) 皮膚消毒ができる
 - (2) 中心静脈カテーテル挿入を見学, 介助を通して, 中心的役割を担えるようになる.
 - (3) 動脈ラインより動脈血を採取し, 測定し, 臨床推論を行う.
 - (4) 診療録(カルテ)およびカンファレンスペーパーを作成する.
- 3) 検査手技 (4-6)
 - (1) 12誘導心電図を記録できる
 - (2) 血液ガス分析を行える
- 4) 外科手技 (4-6)
 - (1) 無菌操作を実施できる
 - (2) 手術や手技のための手洗いができる
 - (3) 手術室におけるガウンテクニックができる
 - (4) 創の消毒やガーゼ交換ができる
 - (5) 手術, 術前・術中・術後管理を見学し, 介助する
- 5) 医療行動学, 医療倫理, 医療安全, 医療法, EBM について
 - (1) 各種検査・治療のインフォームドコンセント: 手術のインフォームドコンセントに参加する. 医師の指導のもと, CT等の同意書を患者さん・ご家族から取得する (2-7)
 - (2) 循環器学会ガイドラインを使用して, 患者状態や価値観を配慮した上で手術適応を判断し, 術前検討会でプレゼンテーションをする (1-1,2., 2-2,3,4,5., 3-3., 4-4,5.)
 - (3) CC1の診療録作成および術前プレゼンテーションを指導する (6-2)

本科目は実務経験のある教員による授業科目です.

4. 教科書・参考書

心臓手術の周術期管理 (メディカル・サイエンス・インターナショナル)
日本循環器学会ガイドライン

5. 成績評価の方法

出席状況・CC-EPOCの入力状況を加味した上で, 学習目標の達成度を行動目標のチェックリストを参考に評価し, 所属チームのリーダーが総合的に判断し, 成績評価を行う。

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

希望により当直医とともに心臓大血管手術後の術後管理を見学することができる
経験記録手帳の記載を行うこと

心臓血管外科学 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第 1 回 月曜日 [8:15-17:00] 副題 心臓血管外科臨床実習 担当 高木大地	08:00 朝カンファレンス (医局カンファレンス室) 09:00 実習オリエンテーション 所属チームと行動する。
第 2 回 火曜日 [8:15-17:00] 副題 心臓血管外科臨床実習 担当	08:00 朝カンファレンス 所属チームと行動する：新患外来、術前・術後外来を見学する
第 3 回 水曜日 [8:15-17:00] 副題 心臓血管外科臨床実習 担当	08:00 朝カンファレンス 所属チームと行動する。
第 4 回 木曜日 [8:15-17:00] 副題 心臓血管外科臨床実習 担当	08:00 朝カンファレンス 所属チームと行動する。
第 5 回 金曜日 [8:15-17:00] 副題 心臓血管外科臨床実習 担当	08:00 朝カンファレンス 所属チームと行動する。
第 6 回 月曜日 [8:00-17:00] 副題 心臓血管外科臨床実習 担当 高木大地	08:00 朝カンファレンス (医局カンファレンス室) 09:00 実習オリエンテーション 10:00～ 手術見学, 患者診療, カルテ記載
第 7 回 火曜日 [8:00-17:00] 副題 心臓血管外科臨床実習 担当	08:00 朝カンファレンス 10:00～ 患者診療 13:00～ 16:00 手術担当患者術前プレゼンテーション準備 16:00 術前症例検討会 (時間は前後するので, 担当高木に確認)
第 8 回 水曜日 [8:00-17:00] 副題 心臓血管外科臨床実習 担当	08:00 朝カンファレンス 10:00～ 患者診療 13:00～ 17:00 手術担当患者術前プレゼンテーション準備
第 9 回 木曜日 [8:00-17:00] 副題 心臓血管外科臨床実習 担当	08:00 朝カンファレンス：担当患者症例プレゼンテーション 10:00～ 手術見学, 患者診療
第 10 回 金曜日 [8:00-17:00] 副題 心臓血管外科臨床実習 担当	08:00 朝カンファレンス 10:00～ 手術見学, 患者診療
第 11 回 月曜日 [8:00-17:00] 副題 心臓血管外科臨床実習 担当 高木大地	08:00 朝カンファレンス (医局カンファレンス室) 09:00 実習オリエンテーション 10:00～ 手術見学, 患者診療, カルテ記載
第 12 回 火曜日 [8:00-17:00] 副題 心臓血管外科臨床実習 担当	08:00 朝カンファレンス 10:00～ 患者診療 13:00～ 16:00 手術担当患者術前プレゼンテーション準備 16:00 術前症例検討会 (時間は前後するので, 担当高木に確認)
第 13 回 水曜日 [8:00-17:00] 副題 心臓血管外科臨床実習 担当	08:00 朝カンファレンス 10:00～ 患者診療 13:00～ 17:00 手術担当患者術前プレゼンテーション準備
第 14 回 木曜日 [8:00-17:00] 副題 心臓血管外科臨床実習 担当	08:00 朝カンファレンス：担当患者症例プレゼンテーション 10:00～ 手術見学, 患者診療
第 15 回 金曜日 [8:00-17:00] 副題 心臓血管外科臨床実習 担当	08:00 朝カンファレンス 10:00～ 手術見学, 患者診療
第 16 回 月曜日 [8:00-17:00] 副題 心臓血管外科臨床実習 担当 高木大地	08:00 朝カンファレンス (医局カンファレンス室) 09:00 実習オリエンテーション 10:00～ 手術見学, 患者診療, カルテ記載

心臓血管外科学 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第 17 回 火曜日 [8:00-17:00] 副題 心臓血管外科臨床実習 担当	08:00 朝カンファレンス 10:00 ~ 患者診療 13:00 ~ 16:00 手術担当患者術前プレゼンテーション準備 16:00 術前症例検討会 (時間は前後するので、担当高木に確認)
第 18 回 水曜日 [8:00-17:00] 副題 心臓血管外科臨床実習 担当	08:00 朝カンファレンス 10:00 ~ 患者診療 13:00 ~ 17:00 手術担当患者術前プレゼンテーション準備
第 19 回 木曜日 [8:00-17:00] 副題 心臓血管外科臨床実習 担当	08:00 朝カンファレンス：担当患者症例プレゼンテーション 10:00 ~ 手術見学，患者診療
第 20 回 金曜日 [8:00-17:00] 副題 心臓血管外科臨床実習 担当	08:00 朝カンファレンス 10:00 ~ 手術見学，患者診療

分 類：臨床医学 VII (CC2)

授業科目名：脳神経外科学 臨床実習 (Clinical training of Neurosurgery:Advanced)

対象学年：6年次選択

時間割コード：71644006-11

1. 主任教員

高橋 佑介 (講師、脳神経外科学講座、6140)

2. 担当教員

高橋 佑介 (講師、脳神経外科学講座、6140)

小野 隆裕 (講師、脳神経外科学講座)

工藤絵里奈 (助教、脳神経外科学講座)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. 一般目標 (GIO)

講義および臨床実習で学んだ知識を更に深める。(1-1～1-2, 3-1～3-3, 4-1～4-3, 4-5～4-6)

2. 到達目標 (SBOs)

医師と同様な立場で診断・治療に参加することを通して、脳神経外科の代表的疾患について治療計画を作成できる。(1-1～1-2, 2-1～2-7, 3-1～3-3, 3-5～3-6, 4-1～4-7)

関連するプロフェッショナリズム、医の倫理、医療安全、EBM、医療法 (医療制度) について説明できる。(1-1～1-2, 3-3, 3-5～3-7, 4-4)

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

児玉南海雄 監修：標準脳神経外科学 (医学書院)

太田 富雄 編集：脳神経外科学 (金芳堂)

田崎 義昭 著：ベッドサイドの神経の診かた (南山堂)

山浦 昌 編集：脳神経外科手術アトラス (医学書院)

Albert L. Rhoton 著：RHOTON Cranial anatomy and surgical approaches (南江堂)

宜保浩彦ら 編集：臨床のための脳局所解剖学 (中外医学社)

松谷 雅生 著：脳腫瘍治療学 (金芳堂)

木内 博之ら監修：プライム脳神経外科 (三輪書店)

滝 和郎ら 編集：完全版 脳血管内治療学 (メディカ出版)

小宮山 正樹 著：詳細版 脳脊髄血管の機能解剖 (メディカ出版)

5. 成績評価の方法

学生各自に指導医を充て、指導医と共に担当症例を受け持つ。担当症例のうち、1例の症例報告を作成し、実習のレポートとする。また、担当症例について学んだことを報告し、質疑応答を行い、総合的に成績を評価する。

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

実習開始前に配布する資料がある。各期の代表者は前週のうちに、当科の学生担当に連絡して資料を受け取ること。

実習初日は8:00までに第1病棟4Fカンファレンスルームに集合すること。

学生の集合を待ってカンファレンスを開始することはしない。

木・金曜日は秋田県立循環器脳脊髄センターでの実習である。木曜日は10時、金曜日は9時30分までに循環器・脳脊髄センターの総合案内へ行くこと。

脳神経外科学 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第 1 回 月曜日 [8:00-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【大学】 血管撮影読影会 カンファレンス 手術・病棟実習・神経救急 神経内科合同カンファレンス
第 2 回 火曜日 [8:10-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【大学】 術後カンファレンス 手術・血管内治療・病棟実習・神経救急 (脳神経セミナー 月 1 回開催)
第 3 回 水曜日 [8:20-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【大学】 カンファレンス 手術・病棟実習・神経救急
第 4 回 木曜日 [10:00-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【循環器・脳脊髄センター実習】
第 5 回 金曜日 [9:30-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【循環器・脳脊髄センター実習】
第 6 回 月曜日 [8:00-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【大学】 血管撮影読影会 カンファレンス 手術・病棟実習・神経救急 神経内科合同カンファレンス
第 7 回 火曜日 [8:10-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【大学】 術後カンファレンス 手術・血管内治療・病棟実習・神経救急 (脳神経セミナー 月 1 回開催)
第 8 回 水曜日 [8:20-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【大学】 カンファレンス 手術・病棟実習・神経救急
第 9 回 木曜日 [10:00-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【循環器・脳脊髄センター実習】
第 10 回 金曜日 [9:30-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【循環器・脳脊髄センター実習】
第 11 回 月曜日 [8:00-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【大学】 血管撮影読影会 カンファレンス 手術・病棟実習・神経救急 神経内科合同カンファレンス
第 12 回 火曜日 [8:10-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【大学】 術後カンファレンス 手術・血管内治療・病棟実習・神経救急 (脳神経セミナー 月 1 回開催)
第 13 回 水曜日 [8:20-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【大学】 カンファレンス 手術・病棟実習・神経救急
第 14 回 木曜日 [10:00-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【循環器・脳脊髄センター実習】
第 15 回 金曜日 [9:30-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【循環器・脳脊髄センター実習】

脳神経外科学 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第 16 回 月曜日 [8:00-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【大学】 血管撮影読影会 カンファレンス 手術・病棟実習・神経救急 神経内科合同カンファレンス
第 17 回 火曜日 [8:10-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【大学】 術後カンファレンス 手術・血管内治療・病棟実習・神経救急 (脳神経セミナー 月 1 回開催)
第 18 回 水曜日 [8:20-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【大学】 カンファレンス 手術・病棟実習・神経救急
第 19 回 木曜日 [10:00-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【循環器・脳脊髄センター実習】
第 20 回 金曜日 [9:30-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【循環器・脳脊髄センター実習】
第 21 回 月曜日 [8:00-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【大学病院実習】 血管撮影読影会 カンファレンス 手術・病棟実習・神経救急 神経内科合同カンファレンス
第 22 回 火曜日 [8:10-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【大学病院実習】 術後カンファレンス 手術・血管内治療・病棟実習・神経救急 (脳神経セミナー 月 1 回開催)
第 23 回 水曜日 [8:20-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【大学病院実習】 カンファレンス 手術・病棟実習・神経救急
第 24 回 木曜日 [10:00-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【循環器・脳脊髄センター実習】
第 25 回 金曜日 [9:30-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【循環器・脳脊髄センター実習】 * 最終週の木曜か金曜に実習報告会を行う。日程は実習中に連絡する。

分 類：臨床医学 VII (CC2)

授業科目名：整形外科学・リハビリテーション科 臨床実習 (Orthopedics・Rehabilitation Medicine)

対象学年：6 年次選択

時間割コード：71644006-12

1. 主任教員

宮腰尚久 (教授、整形外科学講座、6148、オフィスアワー：9：00-17：00)

2. 担当教員

宮腰尚久 (教授、整形外科学講座、6148、オフィスアワー：9：00-17：00)

本郷道生 (教授、保健学科 理学療法学専攻、6532)

粕川雄司 (准教授、リハビリテーション科、6148、オフィスアワー：9：00-17：00)

野坂光司 (准教授、整形外科学講座、6148、オフィスアワー：9：00-17：00)

土江博幸 (講師、整形外科学講座、6148、オフィスアワー：9：00-17：00)

永澤博幸 (医学部講師、整形外科学講座、6148、オフィスアワー：9：00-17：00)

齊藤英知 (医学部講師、整形外科学講座、6148、オフィスアワー：9：00-17：00)

木島泰明 (医学部講師、整形外科学講座、6148、オフィスアワー：9：00-17：00)

白幡毅士 (助教、高度救命救急センター、6148、オフィスアワー：9：00-17：00)

工藤大輔 (助教、リハビリテーション科、6148、オフィスアワー：9：00-17：00)

木村竜太 (助教、整形外科学講座、6148、オフィスアワー：9：00-17：00)

尾野祐一 (助教、整形外科学講座、6148、オフィスアワー：9：00-17：00)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

【授業のねらい】

臨床実習 CC1 で、医師として求められる基本的な資質・能力(医学モデル・コア・カリキュラム A 項目)、人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療(同 D 項目)を中心に学習したところであるが、CC2 では発展的項目として、診療チームの一員として患者さんへの診療を通して、医師としてのリサーチマインドおよびプロフェッショナリズムの習得を目指した学習を行う。また、関連する医療倫理、医療行動科学、医療安全、医療法(制度)、EBM について学ぶ。

【授業の概要】

医学教育モデル・コア・カリキュラムで示された以下の項目を中心に、病棟実習、外来実習、手術実習、講義を通じて学習する。4 ないし 5 週間の実習期間中に、脊椎、膝関節、股関節、上肢外傷、下肢外傷、骨軟部腫瘍、リハビリテーションの各診療グループの一員として日々の診療に従事し学習をする。

A-1-2 患者中心の視点

・インフォームド・コンセントとインフォームド・アセントの意義と必要性を説明できる。(1-2)

A-1-3 医師としての責務と裁量権

・診療参加型臨床実習において患者やその家族と信頼関係を築くことができる。(1-1,1-2,2-1~2-7)

A-2-1 課題探求・解決能力

・課題を解決する具体的な方法を発見し、課題を解決できる。(5-1~5-5)

A-2-2 学修の在り方

・講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。(5-1~5.5, 6-1,6-2)

A-3-1 全人的実践的能力

・病歴を適切に聴取するとともに患者との良好な関係を構築し、必要に応じて患者教育を行える。(2-1~2-8, 4-1~4-5)

A-4-1 コミュニケーション

・コミュニケーションを通じて良好な人間関係を気づくことができる。(2-1~2-8,4-7)

A-4-2 患者と医師の関係

・患者情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取り扱いができる。(1-1,1-2,3-5,4-5)

A-5-1 患者中心のチーム医療

・医療チームの構成や各構成員の役割分担と連携・責任体制を説明し、チームの一員として参加できる。(2-5,2-6,3-6,4-7)

A-6-1 安全性の確保

・実際の医療には、多職種が多段階の医療業務内容に関与していることを具体的に説明できる。(2-5,2-6,3-5,3-6,4-5,4-7)

A-6-2 医療上の事故等への対処と予防

・医療上の事故等と合併症の違いを説明できる。(2-5,2-6,3-5,3-6,4-7)

A-6-3 医療従事者の健康と安全

・標準予防策の必要性を説明し、実行できる。(3-4,3-5,4-4,4-6)

A-7-1 地域医療への貢献

・地域医療に積極的に参加・貢献する。(3-7,4-8)

A-8-1 医学研究への志向の涵養

・生命科学の講義・実習で得た知識を基に、診療で経験した病態の解析ができる。(5-1～5-5,6-1,6-2)

A-9-1 生涯学習への準備

・臨床実習で経験したことを省察し、自己の課題を明確にする。(6-1,6-2)

B-1-1 統計の基礎

・データの記述と要約ができる。(3-2,5-2,5-3)

B-1-3 根拠に基づいた医療 (EBM)

・根拠に基づいた医療 (EBM) の5つのステップを列挙できる。(3-3,4-4)

B-1-8 保健・医療・福祉・介護の制度

・障害者福祉の現状と制度を説明できる。(3-7)

B-3-1 医学研究と倫理

・医学研究と倫理を説明できる。(1-1)

G-1-1-(1) 医師として求められる基本的な資質・能力 (1-1,1-2,2-1～2-8)

G-1-1-(2) 診療の基本 (2-1～2-8,3-1～3-7)

G-1-1-(3) 学生を信頼し任せられる役割 (4-1～4-8)

G-2-35 腰背部痛 (3-1～3-3,4-1～4-6)

G-2-36 関節痛・関節腫脹 (3-1～3-3,4-1～4-6)

G-2-37 外傷・熱傷 (3-1～3-3,4-1～4-6)

G-3-1 一般手技 (4-6)

G-3-3 外科手技 (4-6)

関連するプロフェッショナリズム、倫理、医療行動科学、医療安全、医療法(制度)、EBMについて説明できる。(1-1,1-2,2-1～2-8,3-6,4-8,5-1～5.5,6-1,6-2)

【授業の進め方】

1. 病棟実習

日々の病棟回診に帯同し、創処置や身体診察、術後安静度の検討などを主治医とともにに行いディスカッションをする。各自1～2例の症例検討を通じて学習目標を達成する。担当症例について画像検査所見の検討、医療面接および身体診察を行う。文献的考察を加えてレポートを作成し、担当教員の指導を受け、カンファランスで担当症例発表を行う。

2. 外来実習

医療面接および身体診察や画像所見読影の基本、リハビリテーションの実際などを実習する。指導医、療法士の患者への対応を観察し、接遇の仕方を学ぶ。

3. 手術実習

手術に参画し、局所解剖の理解を深めるとともに、指導医のもとで Student Doctor に認められた医行為(簡単な縫合など)を行い、基本的臨床手技の習得に努める。

4. 研究活動実習

診療の合間には研究活動にも参加可能である。生体力学研究や骨代謝、再生医学の実験など現在進行中のものを自分の目で見て興味をもってもらうことが目標である。

5. 地域医療実習

希望により医学部附属病院以外の施設にて、手術実習を中心とした研修を行うことが可能である。

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

【整形外科】

標準整形外科学（医学書院）

TEXT 整形外科学（南山堂）

整形外科学・外傷学（文光堂）

整形外科 MOOK シリーズ（金原出版）

新図説臨床整形外科講座（メジカルビュー社）

図説整形外科診断治療講座（メジカルビュー社）

最新整形外科学体系（中山書店）

【リハビリテーション科】

リハビリテーション医学・医療コアテキスト第2版（公益社団法人日本リハビリテーション医学会 監修，医学書院発行，定価 4,400 円（本体 4,000 円+税 10 %）

整形外科 術後理学療法プログラム 第3版（メジカルビュー社）

5. 成績評価の方法

臨床実習に無断欠席した者、レポートを提出しない者は臨床実習を完了したことはない。

レポート提出は、Word 形式または PDF 形式の添付ファイルとしてメールにて送信する。

提出先メールアドレス：seikei@doc.med.akita-u.ac.jp

CC-EPOC による成績評価を行う。評価項目は、実習前の学習態度、医師・患者関係、時間管理・服装・態度、職種間の連携に関するスキル、診療態度・学習意欲に関して、診療・スキルへの姿勢、および総合評価である。

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

【注意事項】

1. 時間厳守

初日は朝 8 時 00 分:1 病棟 8 階カンファランスルームに集合

初日以降の集合場所および集合時刻は、所属した診療グループの指示に従うこと。

2. レポート

担当した症例のうち 1 症例につきレポート（所定のレポート用紙にまとめる）を作成し、実習終了後 2 週までにメールにて提出すること。

3. 臨床現場における服装に考慮すること。

4. 次ページの授業展開（第 1 回～第 5 回）は週間スケジュールです。この週間スケジュールを 4 ないし 5 回繰り返すこととなります。

整形外科学・リハビリテーション科 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
<p>第 1 回 月曜日 [8:00-17:00] 副題 オリエンテーション、病棟実習、術前術後カンファランス、総回診、抄読会 担当 宮腰・本郷・粕川・野坂・永澤・木島</p>	<p>【実習初日は 8:00 まで 1 病棟 8 階カンファランスルームに集合】 【実習初日以外の月曜日は各診療グループ毎に行動します。】 (初日のみ) オリエンテーション 病棟実習/外来実習 【午後】 術前術後カンファランス、総回診 抄読会</p>
<p>第 2 回 火曜日 [8:30-17:00] 副題 各診療グループ毎に病棟実習/外来実習/手術実習 担当 本郷・野坂・齊藤・土江</p>	<p>各診療グループ毎に行動します。 【午前】 病棟実習/外来実習/手術実習 【午後】 外来実習/手術実習</p>
<p>第 3 回 水曜日 [8:30-17:00] 副題 各診療グループ毎に病棟実習/外来実習 担当 白幡・土江・工藤・木村</p>	<p>各診療グループ毎に行動します。 【午前】 病棟実習/外来実習 【午後】 外来実習/検査手技実習</p>
<p>第 4 回 木曜日 [8:30-17:00] 副題 各診療グループ毎に病棟実習/外来実習/手術実習 担当 本郷・粕川・野坂・齊藤・木村</p>	<p>各診療グループ毎に行動します。 【午前】 病棟実習/外来実習/手術実習 【午後】 外来実習/手術実習</p>
<p>第 5 回 金曜日 [8:30-17:00] 副題 各診療グループ毎に病棟実習/外来実習/手術実習 担当 永澤・木島・白幡・工藤</p>	<p>各診療グループ毎に行動します。 【午前】 病棟実習/外来実習/手術実習 【午後】 外来実習/手術実習</p>

分類：臨床医学 VII (CC2)

授業科目名：皮膚科学・形成外科学 臨床実習 (Clinical Clerkship in Dermatology and Plastic Surgery)

対象学年：6年次選択

時間割コード：71644006-13

1. 主任教員

河野 通浩 (教授、皮膚科学・形成外科学講座、6153、オフィスアワー：9:00-17:00)

2. 担当教員

河野 通浩 (教授、皮膚科学・形成外科学講座、6153、オフィスアワー：9:00-17:00)

野口 奈津子 (助教、皮膚科学・形成外科学講座、6153、オフィスアワー：9:00-17:00)

手塚 崇文 (助教、皮膚科学・形成外科学講座、6153、オフィスアワー：9:00-17:00)

加藤 真紀 (助教、皮膚科学・形成外科学講座、6153、オフィスアワー：9:00-17:00)

山川 岳洋 (助教、皮膚科学・形成外科学講座、6153、オフィスアワー：9:00-17:00)

能登 舞 (助教、皮膚科学・形成外科学講座、6153、オフィスアワー：9:00-17:00)

豊島 あや (助教、皮膚科学・形成外科学講座、6153、オフィスアワー：9:00-17:00)

佐藤 貴彦 (助教、皮膚科学・形成外科学講座、6153、オフィスアワー：9:00-17:00)

橋田 直久 (非常勤講師、元町形成外科、018-829-3003)

渡邊 理子 (非常勤講師、秋田赤十字病院形成外科、018-829-5000)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. 授業の概要及びねらい

(1) 担当教官の指導のもと、病棟・外来・手術業務を学修する。【1-1) 1-2) 2-1) から8) 3-1) から7) 4-1) から8) 5-1) から5) 6-1) 6-2)】

(2) 形成外科の開業医院・総合病院での実習で、レーザー治療や手術療法について学修する。【1-1) 1-2) 2-1) から8) 3-1) から7) 4-1) から8) 5-1) から5) 6-1) 6-2)】

(3) 皮膚疾患の症例発表を経験する。【2-1) から8) 3-1) から7) 4-1) から8) 5-1) から5)】

(4) (1)～(3)を通じて、実践的に医の倫理、医療安全、EBM、医療制度などを含めた医のプロフェッショナリズムを学ぶ。【1-1) 1-2) 2-1) から8) 3-1) から7) 4-1) から8)】

2. 講義内容・具体的到達目標・学修目標

皮膚疾患を有する患者の病歴・身体所見を的確に記載できる。【4-1) から8)】

皮膚疾患の診断がいたら、その疾患について学び、適切な治療方針を組み立てられる。【3-1) から7) 4-1) から8) 6-1) 6-2)】

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

- ・シンプル皮膚科学 (眞鍋 求/梅林芳弘, 南江堂)
- ・あたらしい皮膚科学 (清水 宏, 中山書店)
- ・皮膚外科学 (日本皮膚外科学会)

5. 成績評価の方法

実習：「態度、出席、症例発表」

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

一般的な皮膚疾患に関しては指定教科書に沿って指導する。

症例発表の疾患については、指導医とともに論文検索、資料収集を行う。

担当教員の予定により、若干変更する場合がある。

皮膚科学・形成外科学 臨床実習

授 業 展 開		授 業 内 容
第 1 回	月曜日 [9:00-17:00] 副題 臨床実習 担当 各指導教官	9:00～ オリエンテーション(皮膚科医局)(2-5) 9:10～12:00 病棟実習(4F・皮膚科病棟)(2-1,7)(4-2,3) 13:00～17:00 手術実習(手術室)(4-6)
第 2 回	火曜日 [9:00-] 副題 臨床実習 担当 各指導教官	9:00～12:00 病棟実習(4F・皮膚科病棟)(2-1,7)(4-2,3) 13:00～ 外来実習(3F・皮膚科外来)(2-1,7) 15:00～病棟カンファレンス・教授回診(4F・皮膚科病棟)(4-5)
第 3 回	水曜日 [9:00-17:00] 副題 臨床実習 担当 各指導教官	9:00～12:00 病棟実習(4F・皮膚科病棟)(2-1,7)(4-2,3) 13:00～17:00 外来実習(2-7)
第 4 回	木曜日 [8:45-17:00] 副題 臨床実習 担当 各指導教官	8:45～17:00 手術実習(手術室)(4-6)
第 5 回	金曜日 [9:00-17:00] 副題 臨床実習 担当 各指導教官	9:00～12:00 病棟実習(4F・皮膚科病棟)(2-1,7) 13:00～17:00 外来実習(3F・皮膚科外来)(2-1,7)
第 6 回	月曜日 [9:00-17:00] 副題 臨床実習 担当 各指導教官	8:15～12:00 外来実習(元町形成外科)(2-1,7) 13:00～17:00 手術実習(手術室)(4-6)
第 7 回	火曜日 [9:00-] 副題 臨床実習 担当 各指導教官	9:00～12:00 病棟実習(4F・皮膚科病棟)(2-1,7)(4-2,3) 13:00～ 外来実習(3F・皮膚科外来)(2-1,7) 15:00～病棟カンファレンス・教授回診(4F・皮膚科病棟)(4-5)
第 8 回	水曜日 [9:00-17:00] 副題 臨床実習 担当 各指導教官	8:45～12:00 手術実習(秋田赤十字病院形成外科)(4-6) 13:00～17:00 外来実習(外来棟 3F・皮膚科外来)(2-1,7)
第 9 回	木曜日 [8:45-17:00] 副題 臨床実習 担当 各指導教官	8:45～17:00 手術実習(手術室)(4-6)
第 10 回	金曜日 [9:00-17:00] 副題 臨床実習 担当 各指導教官	9:00～12:00 病棟実習(4F・皮膚科病棟)(2-1,7) 13:00～17:00 外来実習(3F・皮膚科外来)(2-1,7)
第 11 回	月曜日 [9:00-17:00] 副題 臨床実習 担当 各指導教官	8:15～12:00 外来実習(元町形成外科)(2-1,7) 13:00～17:00 手術実習(手術室)(4-6)
第 12 回	火曜日 [9:00-] 副題 臨床実習 担当 各指導教官	9:00～12:00 病棟実習(4F・皮膚科病棟)(2-1,7)(4-2,3) 13:00～ 外来実習(3F・皮膚科外来)(2-1,7) 15:00～病棟カンファレンス・教授回診(4F・皮膚科病棟)(4-5)
第 13 回	水曜日 [9:00-17:00] 副題 臨床実習 担当 各指導教官	8:45～12:00 手術実習(秋田赤十字病院形成外科)(4-6) 13:00～17:00 外来実習(外来棟 3F・皮膚科外来)(2-1,7)
第 14 回	木曜日 [8:45-17:00] 副題 臨床実習 担当 各指導教官	8:45～17:00 手術実習(手術室)(4-6)
第 15 回	金曜日 [9:00-17:00] 副題 臨床実習 担当 各指導教官	9:00～12:00 病棟実習(4F・皮膚科病棟)(2-1,7) 13:00～17:00 外来実習(3F・皮膚科外来)(2-1,7)
第 16 回	月曜日 [9:00-17:00] 副題 臨床実習 担当 各指導教官	8:15～12:00 外来実習(元町形成外科)(2-1,7) 13:00～17:00 手術実習(手術室)(4-6)
第 17 回	火曜日 [9:00-] 副題 臨床実習 担当 各指導教官	9:00～12:00 病棟実習(4F・皮膚科病棟)(2-1,7)(4-2,3) 13:00～ 外来実習(3F・皮膚科外来)(2-1,7) 15:00～病棟カンファレンス・教授回診(4F・皮膚科病棟)(4-5)

皮膚科学・形成外科学 臨床実習

授 業 展 開		授 業 内 容
第 18 回 副題 担当	水曜日 [9:00-17:00] 臨床実習 各指導教官	9:00 ~ 12:00 病棟実習 (4F・皮膚科病棟) (2-1,7)(4-2,3) 13:00 ~ 17:00 外来実習 (2-7)
第 19 回 副題 担当	木曜日 [8:45-17:00] 臨床実習 各指導教官	8:45 ~ 17:00 手術実習 (手術室)(4-6)
第 20 回 副題 担当	金曜日 [9:00-17:00] 臨床実習 各指導教官	9:00 ~ 12:00 病棟実習 (4F・皮膚科病棟) (2-1,7) 13:00 ~ 17:00 外来実習 (3F・皮膚科外来) (2-1,7)
第 21 回 副題 担当	月曜日 [9:00-17:00] 臨床実習 各指導教官	8:15 ~ 12:00 外来実習 (元町形成外科)(2-1,7) 13:00 ~ 17:00 手術実習 (手術室)(4-6)
第 22 回 副題 担当	火曜日 [9:00-] 臨床実習 各指導教官	9:00 ~ 12:00 病棟実習 (4F・皮膚科病棟) (2-1,7)(4-2,3) 13:00 ~ 外来実習 (3F・皮膚科外来) (2-1,7) 15:00 ~ 病棟カンファレンス・教授回診 (4F・皮膚科病棟) (4-5)
第 23 回 副題 担当	水曜日 [9:00-17:00] 臨床実習 各指導教官	9:00 ~ 12:00 病棟実習 (4F・皮膚科病棟) (2-1,7)(4-2,3) 13:00 ~ 17:00 外来実習 (2-7)
第 24 回 副題 担当	木曜日 [8:45-17:00] 臨床実習 各指導教官	8:45 ~ 17:00 手術実習 (手術室)(4-6)
第 25 回 副題 担当	金曜日 [9:00-17:00] 臨床実習 各指導教官	9:00 ~ 12:00 病棟実習 (4F・皮膚科病棟) (2-1,7) 13:00 ~ 17:00 外来実習 (3F・皮膚科外来) (2-1,7)

分 類：臨床医学 VII (CC2)

授業科目名：腎泌尿器科学 臨床実習 (Clinical Practice of Urology)

対象学年：6 年次選択

時間割コード：71644006-14

1. 主任教員

羽 淵 友 則 (教授、腎泌尿器科学講座、6154、オフィスアワー：月～金 8:30-17:00)

2. 担当教員

羽 淵 友 則 (教授、腎泌尿器科学講座、6154、オフィスアワー：月～金 8:30-17:00)

成田伸太郎 (准教授、腎泌尿器科学講座、6155、オフィスアワー：月～金 8:30-17:00)

齋 藤 満 (准教授、血液浄化療法部、6435、オフィスアワー：月～金 8:30-17:00)

沼 倉 一 幸 (講師、腎泌尿器科学講座、6460、オフィスアワー：月～金 8:30-17:00)

山 本 竜 平 (助教、腎泌尿器科学講座、3404、オフィスアワー：月～金 8:30-17:00)

小 林 瑞 貴 (助教、腎泌尿器科学講座、3404、オフィスアワー：月～金 8:30-17:00)

佐 藤 博 美 (助教、腎泌尿器科学講座、3404、オフィスアワー：月～金 8:30-17:00)

関 根 悠 哉 (助教、腎泌尿器科学講座、3404、オフィスアワー：月～金 8:30-17:00)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. 診療参加型臨床実習 CC2 の概要・ねらい

各科実習期間が 4 週から 5 週となる CC2 では、1 年間の CC1 の経験を踏まえ、より本格的な泌尿器科の診療参加型臨床実習を行う。

教員・医員・研修医の 3～4 名からなる診療チームの中に入り、そのチームの受け持ち患者をすべて受け持ち、すべての検査や治療に参加する。

指導医の監督の下に、日々の回診、カルテへの記載、プレゼンテーション、および各種検査、各種カンファレンスへの参加など実際の診療に参加しながら、担当患者の臨床推論・治療の過程を実践的に学ぶことにより、将来、何科の医師になっても必要な泌尿器科領域の基本的な診療能力を実践修得する。

病棟回診、カンファレンスのプレゼンテーションも学生が行う、

CT など検査の同意、インフォームドコンセントも指導医のもと学生に行っていただく場合がある。スケジュールは診療チームの予定により異なる。

2. 学修目標

- ・ 腎・尿路系の構造と機能を理解し、主な腎・尿路系疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。
- ・ 生殖系の構造と機能を理解し、生殖器に問題を有する患者の診断と治療に関する知識を学ぶ。
- ・ 副腎の内分泌・代謝系の構成と機能を理解し、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。

また、上記 1 の概要・ねらいを中心に実習を進めるが、本診療科で特に経験保証する症候・病態、各種手技等の内容を下記に示す。

1) 症候・病態・臨床推論 (3-1～3-7, 4-1～4-8)

- ・ 症候

(1) 脱水 (2) 浮腫 (3) 血尿・タンパク尿 (4) 尿量・排尿の異常 (5) 腹痛 (6) 腹部膨隆 (腹水を含む)・膨満・腫瘍

- ・ 病態・臨床推論

(1) 腎・尿路系の位置・形態と血管分布・神経支配を説明できる。

(2) 腎で産生される又は腎に作用するホルモン・血管作動性物質 (エリスロポエチン、ビタミン D、レニン、アンギオテンシン II、アルドステロン) の作用を説明できる。

(3) 蓄排尿の機序を説明できる。

(4) 腎・尿路系の画像診断の適応と異常所見を概説できる。

- (5) 糸球体濾過量（実測、推算）を含む腎機能検査法を概説できる。
- (6) 腎生検の適応と禁忌を説明できる。
- (7) 尿流動態検査を説明できる。
- (8) 高・低 K 血症（原因疾患、症候、治療）を概説できる。
- (9) 高・低 Ca 血症（原因疾患、症候、治療）を概説できる。
- (10) アシドーシス・アルカローシス（代謝性・呼吸性）の定義、病態生理と診断を説明できる。
- (11) アシドーシス・アルカローシス（代謝性・呼吸性）の治療を概説できる。
- (12) 急性腎不全（急性腎障害）の病因、症候、診断と治療を説明できる。
- (13) 慢性腎不全（慢性腎臓病 (chronic kidney disease CKD)）の病因、症候、診断と治療を説明できる。
- (14) 慢性腎臓病 CKD 重症度分類を説明できる。
- (15) 慢性腎不全の合併症である腎性貧血、ミネラル骨代謝異常を概説できる。
- (16) 透析導入基準（慢性腎不全）を説明できる。
- (17) 腎不全の治療（血液透析・腹膜透析・腎移植）を説明できる。
- (18) 高血圧による腎障害（腎硬化症）を概説できる。
- (19) 腎血管性高血圧症を概説できる。
- (20) 腎尿路の主な先天異常（多発性嚢胞腎、膀胱尿管逆流）を概説できる。
- (21) 腎外傷の症候、診断と治療を説明できる。
- (22) 尿路結石の病因、症候、診断と治療を説明できる。
- (23) 尿路の炎症（膀胱炎・前立腺炎・尿道炎）の病因、診断と治療を説明できる。
- (24) 神経因性膀胱を概説できる。
- (25) 腎癌の症候、病理所見、診断、治療を説明できる。
- (26) 膀胱癌を含む尿路上皮癌の症候、診断、治療を説明できる。
- (27) 生殖腺の発生と性分化の過程を説明できる。
- (28) 男性生殖器の発育の過程を説明できる。
- (29) 男性生殖器の形態と機能を説明できる。
- (30) 精巣の組織構造と精子形成の過程を説明できる。
- (31) 陰茎の組織構造と勃起・射精の機序を説明できる。
- (32) 精巣と前立腺の検査法（尿路造影、超音波検査、コンピュータ断層撮影 CT、磁気共鳴画像法 MRI）の適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。
- (33) 血中ホルモン（卵巣刺激ホルモン (follicle-stimulating hormone FSH)、黄体形成ホルモン (luteinizing hormone LH)、プロラクチン、ヒト絨毛性ゴナドトロピン (human chorionic gonadotropin hCG、エストロゲン、プロゲステロン) 測定値を評価できる。
- (34) 勃起不全と射精障害を概説できる。
- (35) 精巣機能障害を概説できる。
- (36) 男性不妊症を概説できる。
- (37) 前立腺肥大症の診断と治療を説明できる。
- (38) 停留精巣、陰嚢内腫瘍を概説できる
- (39) 前立腺癌の症候、病理所見、診断、治療を説明できる。
- (40) 精巣腫瘍の症候、診断、治療を説明できる
- (41) 副腎の構造と分泌されるホルモンの作用と分泌調節機構を説明できる。
- (42) 男性ホルモン・女性ホルモンの合成・代謝経路と作用を説明できる。
- (43) 褐色細胞腫の病態、症候、画像所見、病理所見、診断、治療法を説明できる。
- (44) 性感染症の原因微生物を説明できる
- (45) 梅毒の症候と診断と治療を説明できる。
- (46) 淋菌感染症の診断と治療を説明できる。
- (47) 性器クラミジア、性器ヘルペス、尖圭コンジローマの診断と治療を説明できる。
- (48) 移植と組織適合性の関係を説明できる。
- (49) 移植後の拒絶反応、移植片対宿主病の病態生理と発症時の対応を説明できる。

(50) 免疫抑制薬の種類、適応と副作用を説明できる。

2) 基本的臨床手技 (4-1~4-8)

- (1) 体位交換、移送ができる。
- (2) 皮膚消毒ができる。
- (3) 中心静脈カテーテル挿入を見学し、介助する。
- (4) 腰椎穿刺を見学し、介助する。
- (5) 尿道カテーテルの挿入と抜去を実施できる。
- (6) ドレーンの挿入と抜去を見学し、介助する。
- (7) 全身麻酔、局所麻酔、輸血を見学し、介助する。
- (8) 診療録(カルテ)を作成する。
- (9) 各種診断書・検案書・証明書の作成を見学し、介助する。

3) 検査手技 (4-6)

エックス線撮影、コンピュータ断層撮影 CT、磁気共鳴画像法 MRI、核医学検査、内視鏡検査、腹部超音波検査を見学し、介助する。

4) 外科手技 (4-6)

- (1) 無菌操作を実施できる。
- (2) 手術や手技のための手洗いができる。
- (3) 手術室におけるガウンテクニックができる。
- (4) 基本的な縫合と抜糸ができる。
- (5) 創の消毒やガーゼ交換ができる。
- (6) 手術、術前・術中・術後管理を見学し、介助する。

5) 救急処置 (4-6)

- (1) 身体徴候、バイタルサインから緊急性の高い状況であることを判断できる。
- (2) 一次救命処置を実施できる。
- (3) 二次救命処置を含む緊急性の高い患者の初期対応に可能な範囲で参加する。

6) シミュレーション教育 (4-6)

- (1) シミュレータを用いて反復練習をすることで、臨床技能を磨く。
- (2) da vinci シミュレータを用いて、ロボット支援術の仕組みを学び体験する

7) 医療行動科学、医療倫理、医療安全、医療法(医療制度)、EBMI について
(3-5~3-7)

- (1) 各種検査治療のインフォームドコンセント
- (2) 困難な患者、急変患者・家族への説明
- (3) 各種侵襲的な検査・治療時の安全性の配慮

8) プロフェッショナルリズムの自覚 (1-1~1-2,6-1)

- (1) 医の倫理と医師の職責の理解
- (2) 患者中心の医療の理解
- (3) 自己研鑽と生涯学習への意欲

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

Campbell 's Urology 11th ed. Alan J. Wein, et al. (eds), Saunders
ベッドサイド泌尿器科学改訂第4版 吉田修 南江堂
講義録泌尿器科学 荒井陽一, 小川修 メジカルビュー社
腎移植のすべて 高橋公太 メジカルビュー社

5. 成績評価の方法

態度、口頭試問、ミニ CEX、出席

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

- ・ 実習前に泌尿器科を回る学生は、齋藤満まで連絡する事。
- ・ 本学のクリニカルクラークシップガイドの実習直前に必ず復習してくる事項【必修(コア)事項】を学習してくる事。
- ・ 経験記録、手帳の記載を行うこと。
- ・ CC2では、より本格的に主治医チームの一員として、病棟患者さんをしっかり受けもちながら、その合間にできるだけ外来の新患、再来患者さんの診療や各種検査・治療に参加し、臨床推論・検査・治療の過程を実践的に学んでいただきます。

腎泌尿器科学 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第 1 回 月曜日 [7:30 - 18:00] 副題 X線読影、カンファランス、血液透 析実習、検査実習 担当 全教官	07:25 - カンファランスルーム (第二病棟二階から第一病棟に向かって渡り 廊下を渡った階段を過ぎたら右に入って右手) 集合 07:30 - 09:00 X線読影、泌尿器科病棟カンファランス 09:00 - 09:30 オリエンテーション 09:30 - 15:00 患者回診、検査実習、手術実習、症例呈示準備 16:00 - 17:00 総回診 17:10 - 18:30 症例検討会・症例呈示
第 2 回 火曜日 [7:30 - 18:00] 副題 手術実習 担当 全教官	08:00 - 08:30 腎疾患カンファランス 08:30 - 09:00 小講義 09:15 - 17:00 回診および手術実習
第 3 回 水曜日 [7:30 - 18:00] 副題 病棟回診、外来実習、検査実習、手 術実習 担当 全教官	08:00 - 09:00 病棟カンファランス、抄読会 09:15 - 17:00 回診および検査実習、手術実習、外来実習:miniCEX
第 4 回 木曜日 [7:30 - 18:00] 副題 手術実習 担当 全教官	08:00 - 09:00 病理カンファランス (または病棟カンファランス) 09:15 - 17:00 回診および手術実習
第 5 回 金曜日 [7:30 - 18:00] 副題 外来実習、病棟実習、検査実習 全教官 担当 全教官	09:00 - 12:00 外来・病棟実習 13:30 - 17:00 検査実習

分 類：臨床医学 VII (CC2)
授業科目名：小児科学 臨床実習 (Pediatrics)
対象学年：6 年次 選択
時間割コード：71644006-15

1. 主任教員

豊野学朋 (准教授、小児科学、6158)

2. 担当教員

豊野学朋 (准教授、小児科学、6158)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. ねらい

チームの一員として病棟や外来患者さんへの診療を通して、将来、どのような分野の医師にも必要な小児科領域を中心とした症候や病態の臨床推論、鑑別診断、検査・治療方針決定等の実践力を習得する。

また、関連するプロフェッショナリズム、倫理、医療行動科学、医療安全、医療法 (制度)、EBM について学ぶ。

2. 概要 (大まかな学習目標 (項目))

- ・患者および保護者と良好な人間関係を確立できる。(2-1~2-8)
- ・問題解決に必要な情報を適切に収集できる。
 - * 患者および保護者から必要な身体的・精神的・社会的情報を得ることができる。(2-1~2-8)
 - * 患者および保護者の立場を考慮しつつ、視診・聴診・触診・打診等により必要な情報を得ることができる。(2-1~2-8, 4-1~4-2)
- ・収集した情報を適切に記載し、問題点を把握できる。(2-1~2-8, 3-1~3-7)
- ・問題解決のための診断・治療計画を立案できる。(4-2)
- ・小児科における特性を理解し、実践することができる。
 - * 年齢による疾患の特殊性を理解する。(3-2~3-4)
 - * 検査結果の年齢による違いを解釈できる。(3-3, 4-2)
 - * 小児における診療技術の特殊性を理解する。(4-3)
 - * 乳幼児健康診査や予防接種への参加を通じ、正常小児の成長発達および子どもの健康支援と予防医療の重要性を理解する。(3-4, 4-8)
- ・適切なプレゼンテーションができる。
 - * 症例を適切に要約し、場面に応じて提示できる。(2-4, 4-5)
 - * 問題提示に対して、他者と適切な討論ができる。(2-5)
 - * 文献検索等を通じ、問題解決のための資料が作成できる。(4-5)

1) 病棟実習

各学生は 4 つの診療チーム (総合、循環器、新生児、血液・腫瘍) のいずれかに 2 週間配属され、指導医のもと数名の病棟患者さんを担当する。指導医の監督の下に、日々、病棟担当患者さんの回診を行い、病状や身体所見をカルテに記載する (指導医の確認必須)。医療面接や身体診察による課題抽出、文献検索による臨床推論、検査・治療方針の提案、カンファランス時等の各種プレゼンテーション、患者・家族への説明への参加など、チームの一員として EBM に基づいた基本的な診療を実践的に学ぶ。

2) 外来実習・各種検査など

このような病棟の担当患者診療の合間には、外来の新患、再来患者さんの診療や、各種の検査・治療に参加しながら、診療チームの一員として臨床推論・検査・治療の過程を実践的に学ぶ。

3. (詳細な)学修目標

1) 症候・病態 臨床推論 (3-1~3-2)

発熱、全身倦怠感、食思(欲)不振、体重減少・体重増加、ショック、心停止、意識障害・失神、けいれん、めまい、脱水、浮腫、発疹、咳・痰、血痰・喀血、呼吸困難、胸痛、動悸、胸水、嚥下困難・障害、腹痛、悪心・嘔吐、吐血・下血、便秘・下痢、黄疸、腹部膨満(腹水を含む)・腫瘤、貧血、リンパ節腫脹、尿量・排尿の異常、血尿・タンパク尿、月経異常、不安・抑うつ、もの忘れ、頭痛、運動麻痺・筋力低下、腰背部痛、関節痛・関節腫脹、外傷・熱傷

2) 基本的臨床手技 (3-3, 4-2, 4-6)

体位交換, 移送, 皮膚消毒, 外用薬の貼付・塗布, 気道内吸引, ネブライザー, 静脈採血, 末梢静脈確保, 胃管挿入, 尿道カテーテル挿入・抜去, 注射(皮内・皮下・筋肉内・静脈内), 診療記録, 小児からの採血, カニューレ交換, 浣腸

3) 検査・治療手技 (4-2)

脳波検査(判読), 筋電図, 眼球に触れる検査, 超音波検査(判読), X線検査, CT・MRI・核医学・内視鏡検査, 尿検査, 血液塗抹標本の作製と観察, 微生物学的検査(グラム染色を含む), 妊娠反応検査, 超音波検査(心臓血管・腹部), 心電図, 経皮的酸素飽和度モニター, 病原体抗原の迅速検査, 簡易血糖測定, アレルギー検査(塗布), 発達テスト, 知能テスト, 心理テスト, 処方薬(内服薬)・注射・点滴などのオーダー, 食事指示, 安静度指示, 定型的な術前・術後管理の指示, 酸素投与量の調整, 診療計画の作成, 健康教育

4) 医学行動科学, 医療倫理, 医療安全, 医療法(医療制度), EBM (3-5~3-7, 4-4)

- (1) 治療の立案・実施に可能な範囲で参加する。
- (2) 保護者から必要な情報を得たり対応したりすることに可能な範囲で参加する。
- (3) 小児の成長・発達の評価に可能な範囲で参加する。
- (4) どのように小児科にコンサルテーションすればよいかわかる。

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

Nelson Textbook of Pediatrics, Oski's Essential Pediatrics

5. 成績評価の方法

実習評価票(各施設からの情報を含む)

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

実習初日は10時よりオリエンテーション(医局1または共用室)

小児科学 臨床実習

授 業 展 開		授 業 内 容
第 1 回 副題 担当	月曜日 [10:00 - 17:00] オリエンテーション 担当者	10:00-12:00 オリエンテーション 13:30-17:00 病棟実習または自習
第 2 回 副題 担当	火曜日 [8:30 - 17:00] 大学病院実習 全教員	8:30-12:00 病棟実習 13:30-17:00 病棟実習または自習
第 3 回 副題 担当	水曜日 [8:30 - 17:00] 大学病院実習 全教員	8:30-12:00 病棟実習 13:30-17:00 病棟実習または自習
第 4 回 副題 担当	木曜日 [8:30 - 17:00] 秋田県立医療療育センター実習 施設内全教員	8:30-17:00 施設内実習 (事前に配布されたスケジュール)
第 5 回 副題 担当	金曜日 [8:30 - 17:00] 秋田県立医療療育センター実習 施設内全教員	8:30-17:00 施設内実習 (事前に配布されたスケジュール)
第 6 回 副題 担当	月曜日 [8:30 - 17:00] 大学病院実習 全教員	8:30-12:00 病棟実習 13:30-17:00 病棟実習または自習
第 7 回 副題 担当	火曜日 [8:30 - 17:00] 総合病院実習 1 全教員	8:30-17:00 各施設ごとの実習内容
第 8 回 副題 担当	水曜日 [8:30 - 17:00] 総合病院実習 1 全教員	8:30-17:00 各施設ごとの実習内容
第 9 回 副題 担当	木曜日 [8:30 - 17:00] 総合病院実習 1 全教員	8:30-17:00 各施設ごとの実習内容
第 10 回 副題 担当	金曜日 [8:30 - 17:00] 総合病院実習 1 全教員	8:30-17:00 各施設ごとの実習内容
第 11 回 副題 担当	月曜日 [8:30 - 17:00] 大学病院実習 全教員	8:30-12:00 病棟実習 13:30-17:00 病棟実習または自習
第 12 回 副題 担当	火曜日 [8:30 - 17:00] 総合病院実習 2 全教員	8:30-17:00 各施設ごとの実習内容
第 13 回 副題 担当	水曜日 [8:30 - 17:00] 総合病院実習 2 全教員	8:30-17:00 各施設ごとの実習内容
第 14 回 副題 担当	木曜日 [8:30 - 17:00] 総合病院実習 2 全教員	8:30-17:00 各施設ごとの実習内容
第 15 回 副題 担当	金曜日 [8:30 - 17:00] 総合病院実習 2 全教員	8:30-17:00 各施設ごとの実習内容
第 16 回 副題 担当	月曜日 [8:30 - 17:00] 大学病院実習 全教員	8:30-12:00 病棟実習 13:30-17:00 病棟実習または自習
第 17 回 副題 担当	火曜日 [8:30 - 17:00] 大学病院実習 全教員	8:30-12:00 病棟実習 13:30-17:00 病棟実習または自習

小児科学 臨床実習

授 業 展 開		授 業 内 容
第 18 回 副題 担当	水曜日 [8:30 - 17:00] 大学病院実習 全教員	8:30-12:00 病棟実習 13:30-17:00 病棟実習または自習
第 19 回 副題 担当	木曜日 [8:30 - 17:00] 大学病院実習 全教員	8:30-12:00 病棟実習 13:30-17:00 病棟実習または自習
第 20 回 副題 担当	金曜日 [8:30 - 17:00] 大学病院実習 全教員	8:30-12:00 病棟実習 13:30-17:00 病棟実習または自習
第 21 回 副題 担当	月曜日 [8:30 - 17:00] 大学病院実習 全教員	(4 週間実習の場合は無し) 8:30-12:00 病棟実習 13:30-17:00 病棟実習または自習
第 22 回 副題 担当	火曜日 [8:30 - 17:00] 大学病院実習 全教員	(4 週間実習の場合は無し) 8:30-12:00 病棟実習 13:30-17:00 病棟実習または自習
第 23 回 副題 担当	水曜日 [8:30 - 17:00] 大学病院実習 全教員	(4 週間実習の場合は無し) 8:30-12:00 病棟実習 13:30-17:00 病棟実習または自習
第 24 回 副題 担当	木曜日 [8:30 - 17:00] 大学病院実習 全教員	(4 週間実習の場合は無し) 8:30-12:00 病棟実習 13:30-17:00 病棟実習または自習
第 25 回 副題 担当	金曜日 [8:30 - 17:00] 大学病院実習 全教員	(4 週間実習の場合は無し) 8:30-12:00 病棟実習 13:30-17:00 病棟実習または自習

分 類：臨床医学 VII (CC2)
授業科目名：産婦人科学 臨床実習 (Obstetrics and Gynecology)
対象学年：6 年次選択
時間割コード：71644006-16

1. 主任教員

寺田 幸弘 (教授、産婦人科学講座、6160)

2. 担当教員

寺田 幸弘 (教授、産婦人科学講座、6160)
熊澤由紀代 (准教授、産婦人科学講座、6163)
三浦 広志 (准教授、産婦人科学講座、6163)
白澤 弘光 (講師、産婦人科学講座、6163)
牧野 健一 (講師、産婦人科学講座、6163)
菅原 多恵 (助教、産婦人科学講座、6163)
小野寺洋平 (助教、産婦人科学講座、6163)
藤嶋 明子 (助教、産婦人科学講座、6163)
岩澤 卓也 (助教、産婦人科学講座、6163)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. 授業の概要及びねらい

産婦人科の診療の基本を理解する。

2. 講義内容・具体的到達目標・学修目標

講義の知識を臨床に応用できる。

(2-1~2-7、3-1~3-6、4-1~4-7、5-1~5-4、6-1~6-2)

3. 関連するプロフェッショナリズム、医の倫理、医療安全、EBM、
医療法 (医療制度) について説明できる。

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

NEW エssenシャル産科学・婦人科学 第3版
Williams Obstetrics 第25版
Berek & Novak's Gynecology 第15版

5. 成績評価の方法

レポート発表による評価

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

- ・集合時間 8:45
- ・集合場所 第二病棟5階カンファレンスルーム前
2週目以降は第二病棟カンファレンスルーム
2週以降繰り返し
月曜日に担当教官を決め指導する

産婦人科学 臨床実習

授 業 展 開		授 業 内 容
第 1 回 副題 担当	月曜日 [8:30-17:00] 各担当教官	8 : 45 ~ オリエンテーション 医局会 病棟実習
第 2 回 副題 担当	火曜日 [8:30-17:00] 各担当教官	病棟実習と手術見学
第 3 回 副題 担当	水曜日 [8:30-17:00] 各担当教官	病棟実習と手術見学
第 4 回 副題 担当	木曜日 [8:30-17:00] 各担当教官	病棟実習
第 5 回 副題 担当	金曜日 [8:30-17:00] 各担当教官	病棟実習と手術見学

分 類：臨床医学 VII (CC2)

授業科目名：眼科学 臨床実習 (ophthalmology)

対象学年：6 年次 選択

時間割コード：71644006-17

1. 主任教員

岩 瀬 剛 (教授、眼科学講座、6167)

2. 担当教員

岩 瀬 剛 (教授、眼科学講座、6167)

佐藤真理子 (助教、眼科学講座、6167)

西山俊吾 (医員、眼科学講座、6167)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. 授業の概要及びねらい

これまでの実習で習得した基本的能力をさらに展開させるために、学生が自ら選択した診療科において診療チームに参加し、医師として必要な知識、技能、態度を学ぶ。

2. 講義内容・具体的到達目標・学修目標

(1) 医療面接が適切にできる。

(2) 理学的所見が正しくとれる。

(3) 診療記録を正しく記載できる。

(4) Common Disease の診断、治療計画の立案、実施に参加できる。

(5) 救急患者の重症度を適切に把握し、初期治療を介助できる。

(6) 受け持ち患者の病態を適切に把握し、説明ができる。

(7) 各種検査の適応、検査法及び結果の解釈を理解し、説明ができる。

(8) チーム医療の一員として、他職種の人とコミュニケーションを保てる。

(9) 患者と良好なコミュニケーションを保てる。

(10) 診断、治療に関しての evidence を検索できる。

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

現代の眼科学 (改訂第 13 版 所敬 監修 吉田晃敏/谷原秀信 編) 金原出版

標準眼科学 (第 12 版 木下茂/中澤満/天野史郎 編) 医学書院

5. 成績評価の方法

レポート (選択した疾患についての発表)

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

・初日は 8 時 45 分に 1 病棟 7 階に集合してください。

・大学の他に、他施設での実習を予定しております。施設は臨床配属決定後にお知らせします。

・第 2 週目以降も第 1 週と同じスケジュールですが、各担当教員の指示を受けてください。

眼科学 臨床実習 (ophthalmology)

授 業 展 開	授 業 内 容
第 1 回 月曜日 [8:45-17:00] 副題 オリエンテーション 担当 各担当教官	オリエンテーション 病棟における教授回診の見学 外来診察の見学・実習 (細隙灯顕微鏡による前眼部の観察、視野データの判読)
第 2 回 火曜日 [8:15-17:00] 副題 手術見学 担当 各担当教官	眼科手術の見学 網膜硝子体手術、白内障手術、緑内障手術
第 3 回 水曜日 [8:15-17:00] 副題 手術説明・同意取得の見学 担当 各担当教官	病棟での術後患者の診察見学 術前患者の説明・同意取得の見学 外来診察・処置の見学 (レーザー治療、抗 VEGF 硝子体注射)
第 4 回 木曜日 [8:15-17:00] 副題 手術見学 担当 各担当教官	眼科手術の見学 網膜硝子体手術、白内障手術、緑内障手術 実習
第 5 回 金曜日 [15:00-17:00] 副題 総括 担当 各担当教官	実習の総括

分 類：臨床医学 VII (CC2)

授業科目名：耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 臨床実習 (Further Clinical Clerkship of Otorhinolaryngology, Head & Neck Surgery)

対象学年：6 年次選択

時間割コード：71644006-18

1. 主任教員

山田武千代 (教授、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、6168)

2. 担当教員

山田武千代 (教授、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、6168)

鈴木真輔 (准教授、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、6169)

川崎洋平 (講師、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、6171)

椎名和弘 (助教、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、6171)

鈴木仁美 (助教、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、6171)

山田俊樹 (助教、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、6171)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. 授業の概要及びねらい

感覚器官を取り扱う耳鼻咽喉科・頭頸部外科学領域の診療の流れを理解し、色々な機器を用いての診療・検査の要点を理解してもらう。また、当該領域の画像読影の基本を取得してもらう。手術に入り、その実際を体験して頂く。手術を中心に患者及び医療従事者における医療事故防止の実際を学ぶ (医療安全)。高額な抗体療法を施行するにあたり、医療費助成制度について理解する (医療法)。外来や手術サンプルを利用した臨床研究や層別化医療にたけた医師の対応と EBM の重要性について学習する。

(3-1,2,3,4,5,6) (4-1,2,3,4,5,6)

2. 講義内容・具体的到達目標・学修目標

耳鼻咽喉科領域の臨床解剖の要点を説明できる。各種の神経耳科検査、鼻腔通気検査、音声検査、各種画像検査等について基本的な所見を説明できる。

(4-1,2,3,4,5,6)

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

新耳鼻咽喉科学 (南山堂)

標準耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 (医学書院)

T E X T 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 (南山堂)

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 M O O K (金原出版)

5. 成績評価の方法

態度、口頭試問、レポート、出席で総合評価する。

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

初日は 7:45 まで第 2 病棟 7 階カンファレンス室に集合

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第 1 回 月曜日 [8:00] 副題 担当	オリエンテーション、耳鼻咽喉科診療の実際、手術実習 17:00～放射線症例検討会 (3-1,2,3,4,5,6)(4-1,2,3,4,5,6)
第 2 回 火曜日 [8:00] 副題 担当	抄読会、画像読影、外来、病棟診療実習 (3-1,2,3,4,5,6)(4-1,2,3,4,5,6)
第 3 回 水曜日 [8:30] 副題 担当	画像読影、手術実習 (3-1,2,3,4,5,6)(4-1,2,3,4,5,6)
第 4 回 木曜日 [8:30] 副題 担当	画像読影、外来、病棟診療実習 (3-1,2,3,4,5,6)(4-1,2,3,4,5,6)
第 5 回 金曜日 [8:30] 副題 担当	画像読影、外来実習、手術実習 17:00～手術症例検討会 (3-1,2,3,4,5,6)(4-1,2,3,4,5,6)
第 6 回 月曜日 [8:00] 副題 担当	耳鼻咽喉科診療の実際、手術実習 17:00～放射線症例検討会 (3-1,2,3,4,5,6)(4-1,2,3,4,5,6)
第 7 回 火曜日 [8:00] 副題 担当	抄読会、画像読影、外来、病棟診療実習 (3-1,2,3,4,5,6)(4-1,2,3,4,5,6)
第 8 回 水曜日 [8:30] 副題 担当	画像読影、手術実習 (3-1,2,3,4,5,6)(4-1,2,3,4,5,6)
第 9 回 木曜日 [8:30] 副題 担当	画像読影、外来、病棟診療実習 (3-1,2,3,4,5,6)(4-1,2,3,4,5,6)
第 10 回 金曜日 [8:30] 副題 担当	画像読影、外来実習、手術実習 17:00～手術症例検討会 (3-1,2,3,4,5,6)(4-1,2,3,4,5,6)
第 11 回 月曜日 [8:00] 副題 担当	耳鼻咽喉科診療の実際、手術実習 17:00～放射線症例検討会 (3-1,2,3,4,5,6)(4-1,2,3,4,5,6)
第 12 回 火曜日 [8:00] 副題 担当	抄読会、画像読影、外来、病棟診療実習 (3-1,2,3,4,5,6)(4-1,2,3,4,5,6)
第 13 回 水曜日 [8:30] 副題 担当	画像読影、手術実習 (3-1,2,3,4,5,6)(4-1,2,3,4,5,6)
第 14 回 木曜日 [8:30] 副題 担当	画像読影、外来、病棟診療実習 (3-1,2,3,4,5,6)(4-1,2,3,4,5,6)
第 15 回 金曜日 [8:30] 副題 担当	画像読影、外来実習、手術実習 17:00～手術症例検討会 (3-1,2,3,4,5,6)(4-1,2,3,4,5,6)
第 16 回 月曜日 [8:00] 副題 担当	耳鼻咽喉科診療の実際、手術実習 17:00～放射線症例検討会 (3-1,2,3,4,5,6)(4-1,2,3,4,5,6)
第 17 回 火曜日 [8:00] 副題 担当	抄読会、画像読影、外来、病棟診療実習 (3-1,2,3,4,5,6)(4-1,2,3,4,5,6)

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第 18 回 水曜日 [8:30] 副題 担当	画像読影、手術実習 (3-1,2,3,4,5,6) (4-1,2,3,4,5,6)
第 19 回 木曜日 [8:30] 副題 担当	画像読影、外来、病棟診療実習 (3-1,2,3,4,5,6) (4-1,2,3,4,5,6)
第 20 回 金曜日 [8:30] 副題 担当	画像読影、外来実習、手術実習 17 : 00 ~ 手術症例検討会 (3-1,2,3,4,5,6) (4-1,2,3,4,5,6)
第 21 回 月曜日 [8:00] 副題 担当	耳鼻咽喉科診療の実際、手術実習 17 : 00 ~ 放射線症例検討会 (3-1,2,3,4,5,6) (4-1,2,3,4,5,6)
第 22 回 火曜日 [8:00] 副題 担当	抄読会、画像読影、外来、病棟診療実習 (3-1,2,3,4,5,6) (4-1,2,3,4,5,6)
第 23 回 水曜日 [8:30] 副題 担当	画像読影、手術実習 (3-1,2,3,4,5,6) (4-1,2,3,4,5,6)
第 24 回 木曜日 [8:30] 副題 担当	画像読影、外来、病棟診療実習 (3-1,2,3,4,5,6) (4-1,2,3,4,5,6)
第 25 回 金曜日 [8:30] 副題 担当	画像読影、外来実習、手術実習 17 : 00 ~ 手術症例検討会 (3-1,2,3,4,5,6) (4-1,2,3,4,5,6)

分 類：臨床医学 VII (CC2)

授業科目名：麻酔・蘇生・疼痛管理学 臨床実習 (Anesthesia and Intensive Care Medicine)

対象学年：6 年次選択

時間割コード：71644006-19

1. 主任教員

新山幸俊 (教授、麻酔・蘇生・疼痛管理学講座、6172、オフィスアワー：8:30 - 17:00)

2. 担当教員

新山幸俊 (教授、麻酔・蘇生・疼痛管理学講座、6172、オフィスアワー：8:30 - 17:00)

木村哲 (病院准教授、医療安全管理部、6173、オフィスアワー：8:30 - 17:00)

根本晃 (講師、麻酔・蘇生・疼痛管理学講座、6175、オフィスアワー：8:30 - 17:00)

佐藤浩司 (助教、麻酔・蘇生・疼痛管理学講座、6175、オフィスアワー：8:30 - 17:00)

山本夏子 (助教、麻酔・蘇生・疼痛管理学講座、6175、オフィスアワー：8:30 - 17:00)

堀越雄太 (助教、救急・集中治療医学講座、6175、オフィスアワー：8:30 - 17:00)

小玉早穂子 (助教、麻酔・蘇生・疼痛管理学講座、6175、オフィスアワー：8:30 - 17:00)

関川綾乃 (医員、麻酔・蘇生・疼痛管理学講座、6175、オフィスアワー：8:30 - 17:00)

今野俊宏 (医員、麻酔・蘇生・疼痛管理学講座、6175、オフィスアワー：8:30 - 17:00)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. ねらい

1-1 CC2 では、CC1 の経験を踏まえ、より本格的な麻酔科の診療参加型臨床実習を行う (3-1~3-7, 4-1~4-7)

1-2 麻酔記録の入力や種々の手技の介助など、指導医の麻酔管理を補助しながら、チームの一員として麻酔科診療に参加する (2-1~2-8, 4-5~4-7)

1-3 CC1 の学生を指導することにより、自身の知識、理解をより深める (6-1~6-2)

1-4 実習期間中 1 週間は、県内関連病院 (秋田厚生医療センター、市立秋田総合病院、中通総合病院、大曲厚生医療センター、由利組合総合病院) で実習を行い、地域医療の実際を体感する (COVID-19 の感染状況次第では行われないこともあります) (2-1~2-7, 3-6~3-7, 4-7~4-8)

1-5 指定された症例シナリオに沿って鑑別診断、対処法などを学び、グループとしてプレゼンテーションを行う (2-4, 3-1~3-3, 4-1~4-5, 6-1~6-2)

2. 学修目標

2-1 症候・病態、臨床推論 (3-1~3-4, 3-6, 4-1~4-4)

高血圧・低血圧 (2) 不整脈 (3) 低酸素血症 (4) 高二酸化炭素血症 (5) ショック (6) 心停止 (7) アシドーシス・アルカローシス (8) 電解質異常 (9) 高血糖・低血糖 (10) 気道確保困難 (11) 術後急性痛 (12) 慢性痛

2-2 基本的臨床手技 (4-1, 4-5, 4-6)

体位交換、移送ができる (2) 皮膚消毒ができる (3) 末梢静脈ラインの確保を見学し、介助できる (4) 動脈血採血・動脈ラインの確保を見学し、介助できる (5) 動脈血採血・検査を実施できる (6) 中心静脈カテーテル挿入を見学する (7) 胃管を挿入・抜去できる (8) 静脈内注射を実施できる (9) 全身麻酔、局所麻酔、輸血を見学し、介助できる (10) 診療録 (麻酔記録) を作成できる (11) 各種診断書・検案書・証明書の作成を見学し、介助できる。

2-3 検査手技 (4-2, 4-5, 4-6)

手術室の標準的バイタルサインモニタ (心電図、非観血的動脈圧、経皮的酸素飽和度、カプノグラム、bispectral Index、深部温など) を装着できる (2) 動脈血液ガス分析を実施できる。

2-4 外科手技 (4-1~4-8)

無菌操作を実施できる (2) 手技のための手洗いができる (3) 手術室におけるガウンテクニックを見学し、介助できる。
(4) 手術、術前・術中・術後管理を見学し、介助できる (5) 神経ブロックを見学し、介助できる。

2-5 救命処置 (3-1~3-7, 4-1~4-7)

身体徴候、バイタルサインから緊急性の高い状況であることを判断できる (2) 一次救命処置を実施できる (3) 二次救命処置を含む緊急性の高い患者の初期対応に可能な範囲で参加する。

2-6 麻酔科診療実習 (2-1~2-7, 3-1~3-7, 4-1~4-7)

麻酔管理中に遭遇する種々の症候・病態 (上記 2. 学修目標 - 1)) に対する臨床推論、対応を指導医の診療を通して学ぶ。
(2) 指導医の責任のもと、可能な範囲で実際の麻酔管理に参加する。

2-7 シミュレーション教育 (3-1~3-6, 4-1~4-7, 6-1~6-2)

高機能麻酔シミュレータを用いて反復練習することで、臨床技能を磨く (2) シナリオを用いたトレーニングを通して、状況判断、意思決定能力を獲得する (3) シミュレータを用いて静脈ライン確保、動脈穿刺、エコーガイド下区域麻酔、硬膜外麻酔を経験する (4) 振り返りによって自己省察能力を高める。

2-8 プレゼンテーション

(1) 与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを作成、発表する。

2-9 2-sentence

(1) その日の学びをふたつの文章 (40-60 字づつ) にまとめて記録する。

2-8 コンピテンシー教育 (1-1~1-2, 2-4~2-6, 3-1 3-7, 4-1~4-7, 5-1~5-4, 6-1~6-2)

麻酔という患者の意識が消失してコミュニケーションが図れない環境において、患者の代弁者としてふるまうことで医師としての矜持 (倫理、医療行動) を学ぶ (2) 麻酔関連の合併症が生じた場合の対応を医療安全の概念を踏まえて理解する (3) 外科医、看護師、臨床工学技士など多職種が業務を行う中でプロフェッショナリズムとチーム医療を学ぶ (4) 最近の麻酔および周術期管理に関するエビデンスやガイドラインを学ぶ。

4. 教科書・参考書

臨床麻酔科学書 (中山書店)

標準麻酔科学 第7版 (医学書院)

Miller's Anesthesia 9th edition (Elsevier)

5. 成績評価の方法

態度、口頭試問、OSCE、プレゼンテーション、レポート (感想文)、2-sentence、出席など

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

【集合時刻】(月) 07:45, (火, 水, 木, 金) 08:00

【集合場所】手術室内カンファレンスルーム

1. CC2 では、CC1 よりさらに積極的な診療への参加が求められます。
2. 本学のクリニカルクラークシップガイドにおける実習直前事項を学習してきてください。
3. 経験手技、手帳の記載を行ってください。
4. ペインクリニック外来実習 (水曜日、木曜日) に参加してもらいます。
5. 関連病院麻酔科での実習を行います (covid-19 の感染状況次第では行われなくてもあります)。
6. 実習内容や日程は変更されることがあります。必ず事前に連絡します。

麻酔・蘇生・疼痛管理学 臨床実習

授 業 展 開		授 業 内 容	
第1回	月曜日 [7:45 - 17:00] 副題 オリエンテーション 手術麻酔症例実習 担当 新山 幸俊, 関川 綾乃ら	07:45 - 08:45 08:45 - 10:00 10:00 - 12:00 12:00 - 13:00 13:00 - 17:00	カンファレンス (総説抄読, 症例提示) 手術麻酔症例実習 オリエンテーション 昼食 手術麻酔症例実習, 手術患者の術前評価・麻酔計画・準備, 自主学習
第2回	火曜日 [8:00 - 17:00] 副題 手術麻酔症例実習 実技 担当 新山 幸俊, 佐藤 浩司ら	08:00 - 08:45 08:45 - 12:00 12:00 - 13:00 13:00 - 14:30 14:30 - 17:00	カンファレンス (論文抄読, 症例提示) 手術麻酔症例実習 昼食 実技 手術麻酔症例実習, 手術患者の術前評価・麻酔計画・準備, 自主学習
第3回	水曜日 [8:00 - 17:00] 副題 手術麻酔症例実習 (ペインクリニック外来実習) 担当 根本 晃, 山本 夏子ら	08:00 - 08:45 08:45 - 12:00 (09:00 - 12:00) 12:00 - 13:00 13:00 - 17:00	カンファレンス (症例検討, 症例提示) 手術麻酔症例実習 (ペインクリニック外来実習) 昼食 手術麻酔症例実習, 手術患者の術前評価・麻酔計画・準備, 自主学習
第4回	木曜日 [8:00 - 17:00] 副題 手術麻酔症例実習 (ペインクリニック外来実習) 担当 木村 哲, 根本 晃ら	08:00 - 08:45 08:45 - 12:00 (09:00 - 12:00) 12:00 - 13:00 13:00 - 17:00	カンファレンス (論文抄読, 症例提示) 手術麻酔症例実習 (ペインクリニック外来実習) 昼食 手術麻酔症例実習, 手術患者の術前評価・麻酔計画・準備, 自主学習
第5回	金曜日 [8:00 - 17:00] 副題 手術麻酔症例実習 担当 堀越 雄太, 小玉 早穂子ら	08:00 - 08:45 08:45 - 12:00 12:00 - 13:00 13:00 - 17:00	カンファレンス (症例検討, 症例提示) 手術麻酔症例実習 昼食 プレゼンテーション準備, 自主学習
第6回	月曜日 [7:45 - 17:00] 副題 手術麻酔症例実習 担当 新山 幸俊, 関川 綾乃ら	07:45 - 08:45 08:45 - 12:00 12:00 - 13:00 13:00 - 17:00	カンファレンス (総説抄読, 症例提示) 手術麻酔症例実習 昼食 手術麻酔症例実習, 手術患者の術前評価・麻酔計画・準備, 自主学習
第7回	火曜日 [8:00 - 17:00] 副題 手術麻酔症例実習 担当 新山 幸俊, 佐藤 浩司ら	08:00 - 08:45 08:45 - 12:00 12:00 - 13:00 13:00 - 17:00	カンファレンス (論文抄読, 症例提示) 手術麻酔症例実習 昼食 手術麻酔症例実習, 手術患者の術前評価・麻酔計画・準備, 自主学習
第8回	水曜日 [8:00 - 17:00] 副題 手術麻酔症例実習 (ペインクリニック外来実習) 担当 根本 晃, 今野 俊宏ら	08:00 - 08:45 08:45 - 12:00 (09:00 - 12:00) 12:00 - 13:00 13:00 - 17:00	カンファレンス (症例検討, 症例提示) 手術麻酔症例実習 (ペインクリニック外来実習) 昼食 手術麻酔症例実習, 手術患者の術前評価・麻酔計画・準備, 自主学習
第9回	木曜日 [8:00 - 17:00] 副題 手術麻酔症例実習 (ペインクリニック外来実習) 担当 木村 哲, 根本 晃ら	08:00 - 08:45 08:45 - 12:00 (09:00 - 12:00) 12:00 - 13:00 13:00 - 17:00	カンファレンス (論文抄読, 症例提示) 手術麻酔症例実習 (ペインクリニック外来実習) 昼食 手術麻酔症例実習, 手術患者の術前評価・麻酔計画・準備, 自主学習
第10回	金曜日 [8:00 - 17:00] 副題 手術麻酔症例実習 担当 新山 幸俊, 堀越 雄太ら	08:00 - 08:45 08:45 - 12:00 12:00 - 13:00 13:00 - 17:00	カンファレンス (症例検討, 症例提示) 手術麻酔症例実習 昼食 プレゼンテーション準備, 自主学習

麻酔・蘇生・疼痛管理学 臨床実習

授 業 展 開		授 業 内 容	
第 11 回	月曜日 [7:45 - 17:00] 副題 手術麻酔症例実習 担当 新山 幸俊, 関川 綾乃ら	07:45 - 08:45 08:45 - 12:00 12:00 - 13:00 13:00 - 17:00	カンファレンス (総説抄読, 症例提示) 手術麻酔症例実習 昼食 手術麻酔症例実習, 手術患者の術前評価・麻酔計画・準備, 自主学習
第 12 回	火曜日 [8:00 - 17:00] 副題 手術麻酔症例実習 笑気実習 担当 新山 幸俊, 佐藤 浩司ら	08:00 - 08:45 08:45 - 09:30 09:00 - 12:00 12:00 - 13:00 13:00 - 17:00	カンファレンス (論文抄読, 症例提示) 手術麻酔症例実習 麻酔シミュレータ実習 (OSCE) 昼食 手術麻酔症例実習, 手術患者の術前評価・麻酔計画・準備
第 13 回	水曜日 [8:00 - 17:00] 副題 手術麻酔症例実習 担当 根本 晃, 山本 夏子ら	08:00 - 08:45 08:45 - 12:00 (09:00 - 12:00) 12:00 - 13:00 13:00 - 17:00	カンファレンス (症例検討, 症例提示) 手術麻酔症例実習 ペインクリニック外来実習) 昼食 手術麻酔症例実習, 手術患者の術前評価・麻酔計画・準備, 自主学習
第 14 回	木曜日 [8:00 - 17:00] 副題 手術麻酔症例実習 (ペインクリニック外来実習) 担当 根本 晃, 山本 夏子ら	08:00 - 08:45 08:45 - 12:00 (09:00 - 12:00) 12:00 - 13:00 13:00 - 17:00	カンファレンス (論文抄読, 症例提示) 手術麻酔症例実習 ペインクリニック外来実習) 昼食 手術麻酔症例実習, 手術患者の術前評価・麻酔計画・準備, 自主学習
第 15 回	金曜日 [8:00 - 17:00] 副題 手術麻酔症例実習 担当 堀越 雄太, 小玉 早穂子ら	08:00 - 08:45 08:45 - 12:00 12:00 - 13:00 13:00 - 17:00	カンファレンス (症例検討, 症例提示) 手術麻酔症例実習 昼食 プレゼンテーション準備, 自主学習
第 16 回	月曜日 [7:45 - 17:00] 副題 手術麻酔症例実習 術前診察実習 担当 新山 幸俊, 関川 綾乃ら	07:45 - 08:45 08:45 - 12:00 12:00 - 13:00 13:00 - 17:00	カンファレンス (総説抄読, 症例提示) 手術麻酔症例実習, 術前診察実習 昼食 手術麻酔症例実習, 手術患者の術前評価・麻酔計画・準備, 自主学習
第 17 回	火曜日 [8:00 - 17:00] 副題 手術麻酔麻酔 術前診察実習 担当 新山 幸俊, 佐藤 浩司ら	08:00 - 08:45 08:45 - 12:00 12:00 - 13:00 13:00 - 17:00	カンファレンス (論文抄読, 症例提示) 手術麻酔症例実習 昼食 手術麻酔症例実習, 手術患者の術前評価・麻酔計画・準備, 自主学習
第 18 回	水曜日 [8:00 - 17:00] 副題 手術麻酔症例実習 (ペインクリニック外来実習) 術前診察実習 担当 根本 晃, 今野 俊宏ら	08:00 - 08:45 08:45 - 12:00 (09:00 - 12:00) 12:00 - 13:00 13:00 - 17:00	カンファレンス (症例検討, 症例提示) 手術麻酔症例実習, 術前診察実習 ペインクリニック外来実習) 昼食 手術麻酔症例実習, 手術患者の術前評価・麻酔計画・準備, 自主学習
第 19 回	木曜日 [8:00 - 17:00] 副題 手術麻酔症例実習 (ペインクリニック外来実習) 術前診察実習 術後診察実習 担当 木村 哲, 根本 晃ら	08:00 - 08:45 08:45 - 12:00 (09:00 - 12:00) 12:00 - 13:00 13:00 - 17:00	カンファレンス (論文抄読, 症例提示) 手術麻酔症例実習, 術前診察実習 ペインクリニック外来実習) 昼食 術後診察実習, 手術麻酔症例実習, 手術患者の術前評価・麻酔計画・準備
第 20 回	金曜日 [8:00 - 12:00] 副題 総括 プレゼンテーション 担当 新山 幸俊, 堀越 雄太ら	08:00 - 08:45 08:45 - 10:00 10:00 - 12:00	カンファレンス (症例検討, 症例提示) 手術麻酔症例実習 総括, 学習内容プレゼンテーション, 2-sentence および感想文提出

分 類：臨床医学 VII (CC2)

授業科目名：放射線医学 臨床配属 臨床実習 (Practice of Radiology)

対象学年：6 年次 選択

時間割コード：71644006-20

1. 主任教員

森 菜緒子 (教授、北臨床棟 1 階放射線医学、6179、オフィスアワー：北臨床棟 1 階放射線科カンファレンスルーム、12 時～13 時)

2. 担当教員

森 菜緒子 (教授、北臨床棟 1 階放射線医学、6179、オフィスアワー：北臨床棟 1 階放射線科カンファレンスルーム、12 時～13 時)

和田 優貴 (講師、北臨床棟 1 階放射線医学、6179)

大谷 隆浩 (助教、北臨床棟 1 階放射線医学、6179)

高木 倫子 (助教、北臨床棟 1 階放射線医学、6179)

戸沢 智樹 (助教、北臨床棟 1 階放射線医学、6179)

今野 素子 (助教、北臨床棟 1 階放射線医学、6179)

熊谷 聡 (助教、北臨床棟 1 階放射線医学、6179)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. 授業の概要及びねらい

放射線診療について学習する (3-3,4-3)

自ら課題を見つけ、自己学習によって解決できるようになる

将来どの分野の医師にも必要な放射線診断・治療に関する基本研修をする (3-3)

関連するプロフェッショナリズム、医の倫理、医療安全、EBM、医療法 (医療制度) について説明できる。(2-5)

2. 講義内容・具体的到達目標・学修目標

患者ごとに最適となる検査法がなにか選択できる (4-2)

患者紹介のプレゼンテーションができる (4-5)

診療録の記載ができる (4-5)

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

標準放射線医学 (医学書院)、臨床放射線腫瘍学 (南江堂)、新臨床 X 線診断学 (医学書院)

5. 成績評価の方法

出席・態度・症例発表により評価する

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

事前の意向調査 (診断中心・治療中心・両者とも実習、のいずれか) を踏まえ

詳細な実習内容および初日集合時刻・場所については別途連絡予定。

放射線医学 臨床配属 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第 1 回 月曜日 [08:50-17:00] 副題 放射線診断と治療 担当 各担当教員	(診 断) 08:50 オリエンテーション (病院 1 階 MRI 棟読影室) 13:15 教授回診 診断実習 (治 療) 08:50 オリエンテーション (病院 1 階 MRI 棟読影室) 13:15 教授回診 病棟実習
第 2 回 火曜日 [08:00-17:00] 副題 放射線診断と治療 担当 各担当教員	(診 断) 診断実習 (治 療) 病棟実習
第 3 回 水曜日 [08:00-17:00] 副題 放射線診断と治療 担当 各担当教員	(診 断) 診断実習 (治 療) 病棟実習
第 4 回 木曜日 [08:30-17:00] 副題 放射線診断と治療 担当 各担当教員	(診 断) 診断実習 (治 療) 病棟実習
第 5 回 金曜日 [08:30-17:00] 副題 放射線診断と治療 担当 各担当教員	(診 断) 診断実習 (治 療) 病棟実習
第 6 回 月曜日 [08:50-17:00] 副題 放射線診断と治療 担当 各担当教員	(診 断) 08:50 オリエンテーション (病院 1 階 MRI 棟読影室) 13:15 教授回診 診断実習 (治 療) 08:50 オリエンテーション (病院 1 階 MRI 棟読影室) 13:15 教授回診 病棟実習
第 7 回 火曜日 [08:00-17:00] 副題 放射線診断と治療 担当 各担当教員	(診 断) 診断実習 (治 療) 病棟実習
第 8 回 水曜日 [08:00-17:00] 副題 放射線診断と治療 担当 各担当教員	(診 断) 診断実習 (治 療) 病棟実習

放射線医学 臨床配属 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第 9 回 木曜日 [08:30-17:00] 副題 放射線診断と治療 担当 各担当教員	(診断) 診断実習 (治療) 病棟実習
第 10 回 金曜日 [08:30-17:00] 副題 放射線診断と治療 担当 各担当教員	(診断) 診断実習 (治療) 病棟実習
第 11 回 月曜日 [08:50-17:00] 副題 放射線診断と治療 担当 各担当教員	(診断) (病院 1 階 MRI 棟読影室) 13:15 教授回診 診断実習 (治療) (病院 1 階 MRI 棟読影室) 13:15 教授回診 病棟実習
第 12 回 火曜日 [08:00-17:00] 副題 放射線診断と治療 担当 各担当教員	(診断) 診断実習 (治療) 病棟実習
第 13 回 水曜日 [08:00-17:00] 副題 放射線診断と治療 担当 各担当教員	(診断) 診断実習 (治療) 病棟実習
第 14 回 木曜日 [08:30-17:00] 副題 放射線診断と治療 担当 各担当教員	(診断) 診断実習 (治療) 病棟実習
第 15 回 金曜日 [08:30-17:00] 副題 放射線診断と治療 担当 各担当教員	(診断) 診断実習 (治療) 病棟実習
第 16 回 月曜日 [08:50-17:00] 副題 放射線診断と治療 担当 各担当教員	(診断) (病院 1 階 MRI 棟読影室) 13:15 教授回診 診断実習 (治療) (病院 1 階 MRI 棟読影室) 13:15 教授回診 病棟実習

放射線医学 臨床配属 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第 17 回 火曜日 [08:00-17:00] 副題 放射線診断と治療 担当 各担当教員	(診 断) 診 断 実 習 (治 療) 病 棟 実 習
第 18 回 水曜日 [08:00-17:00] 副題 放射線診断と治療 担当 各担当教員	(診 断) 診 断 実 習 (治 療) 病 棟 実 習
第 19 回 木曜日 [08:30-17:00] 副題 放射線診断と治療 担当 各担当教員	(診 断) 診 断 実 習 (治 療) 病 棟 実 習
第 20 回 金曜日 [08:30-17:00] 副題 放射線診断と治療 担当 各担当教員	(診 断) 診 断 実 習 (治 療) 病 棟 実 習

分 類：臨床医学 VII (CC2)

授業科目名：総合診療・検査診断学 臨床実習 (Clinical Clerkship for General Internal Medicine and Clinical Laboratory Medicine) - 総合診療の実際 -

対象学年：6年次選択

時間割コード：71644006-21

1. 主任教員

植木重治 (教授、総合診療・検査診断学講座、6209、オフィスアワー：8:30~17:00)

2. 担当教員

植木重治 (教授、総合診療・検査診断学講座、6209、オフィスアワー：8:30~17:00)

嵯峨知生 (病院教授、附属病院感染制御部、6248、オフィスアワー：8:30~17:00)

守時由起 (准教授、総合診療・検査診断学講座、6209、オフィスアワー：8:30~17:00)

嵯峨亜希子 (助教、総合診療・検査診断学講座、6209、オフィスアワー：8:30~17:00)

藤岡優樹 (助教、附属病院中央検査部、6209、オフィスアワー：8:30~17:00)

引地悠 (医員、附属病院総合診療部、6209、オフィスアワー：8:30~15:00)

長谷川諒 (医員、附属病院総合診療部、6209、オフィスアワー：8:30~17:00)

肥塚慶之助 (医員、仙北ウェルビーイング地域医療・総合診療連携講座、6428、オフィスアワー：8:30~17:00)

高橋琴乃 (医員、男鹿なまはげ地域医療・総合診療連携講座、6428、オフィスアワー：8:30~17:00)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. 授業の概要及びねらい

診療の多様性を理解し、および多職種連携の重要性について理解する。(2-1~2-7, 3-1~3-7, 4-1~4-2, 4-7~4-8, 5-1~5-3, 6-1~6-2)

本領域が関連するプロフェッショナルリズム、医の倫理、医療安全、医療法(制度)、EBM、基本手技について説明・実践できる。(1-1~1-2, 3-3, 3-5, 3-7, 4-4~4-6)

2. 講義内容・具体的到達目標・学修目標

1) 高次医療機関における総合診療の目的・役割について説明できる。(1-1~1-2, 2-1~2-7, 3-1~3-7, 4-1~4-2, 4-4~4-8, 5-1~5-3, 6-1~6-2)

2) 総合病院における救急総合診療の目的・役割について説明できる。(1-1~1-2, 2-1~2-7, 3-1~3-7, 4-1~4-2, 4-4~4-8, 5-1~5-3, 6-1~6-2)

3) 在宅医療の目的・役割について説明できる。(1-1~1-2, 2-1~2-7, 3-1~3-7, 4-1~4-2, 4-4~4-8, 5-1~5-3, 6-1~6-2)

4) ホスピスにおける緩和医療の目的・役割について説明できる。(1-1~1-2, 2-1~2-7, 3-1~3-7, 4-1~4-2, 4-4~4-8, 5-1~5-3, 6-1~6-2)

5) 地域における精神医療の目的・役割について説明できる。(1-1~1-2, 2-1~2-7, 3-1~3-7, 4-1~4-2, 4-4~4-8, 5-1~5-3, 6-1~6-2)

6) 多職種連携の重要性について説明できる。(1-1~1-2, 2-1~2-7, 3-1~3-7, 4-1~4-2, 4-4~4-8, 5-1~5-3, 6-1~6-2)

7) 総合診療部で経験した症例のプレゼンテーションができる。(1-1~1-2, 2-1~2-7, 3-1~3-7, 4-1~4-2, 4-4~4-8, 5-1~5-3, 6-1~6-2)

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

ハリソン内科学書

新・総合診療医学家庭医療学編

新・総合診療医学病院総合診療医学編

臨床に役立つ検査値の読み方・考え方：河野・西崎編、総合医学社

臨床検査の ABC：日本医師会編、医学書院

異常値の出るメカニズム：河合・尾形・伊藤編、医学書院

標準臨床内科学：猪狩・中原編、医学書院

新臨床内科学：阿部他編、医学書院

臨床検査法提要：金井編、金原出版

5. 成績評価の方法

出席、発表、実習態度を強く重視する。

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

診断学や一般内科を中心に予習をお願いします。

採血があるかもしれないので体調を整えておくこと。

多様な診療現場を学ぶための学外施設での実習を行います。

総合診療・検査診断学 臨床実習

授 業 展 開		授 業 内 容
第1回 副題 担当	月曜日 [8:50-17:10] オリエンテーション・総合診療・検査診断学実習 植木重治	臨床南棟 4F 医局集合 総合診療実習 総合診療部カンファレンス
第2回 副題 担当	火曜日 [8:50-17:10] 総合診療・検査診断学実習 各指導教官	総合診療実習
第3回 副題 担当	水曜日 [8:50-17:10] 総合診療・検査診断学実習 各指導教官	総合診療実習
第4回 副題 担当	木曜日 [8:50-17:10] 総合診療・検査診断学実習 各指導教官	総合診療実習 ICT ラウンド (感染制御部カンファレンス)
第5回 副題 担当	金曜日 [8:50-17:10] 総合診療・検査診断学実習 各指導教官	総合診療実習
第6回 副題 担当	月曜日 [8:50-17:10] 総合診療・検査診断学実習 各指導教官	総合診療実習 総合診療部カンファレンス
第7回 副題 担当	火曜日 [8:50-17:10] 総合診療・検査診断学実習 各指導教官	総合診療実習
第8回 副題 担当	水曜日 [8:50-17:10] 総合診療・検査診断学実習 各指導教官	総合診療実習
第9回 副題 担当	木曜日 [8:50-17:10] 総合診療・検査診断学実習 各指導教官	総合診療実習 ICT ラウンド (感染制御部カンファレンス)
第10回 副題 担当	金曜日 [8:50-17:10] 総合診療・検査診断学実習 各指導教官	総合診療実習
第11回 副題 担当	月曜日 [8:50-17:10] 総合診療・検査診断学実習 各指導教官	総合診療実習 総合診療部カンファレンス
第12回 副題 担当	火曜日 [8:50-17:10] 総合診療・検査診断学実習 各指導教官	総合診療実習
第13回 副題 担当	水曜日 [8:50-17:10] 総合診療・検査診断学実習 各指導教官	総合診療実習
第14回 副題 担当	木曜日 [8:50-17:10] 総合診療・検査診断学実習 各指導教官	総合診療実習 ICT ラウンド (感染制御部カンファレンス)
第15回 副題 担当	金曜日 [8:50-17:10] 総合診療・検査診断学実習 各指導教官	総合診療実習
第16回 副題 担当	月曜日 [8:50-17:10] 総合診療・検査診断学実習 各指導教官	総合診療実習 総合診療部カンファレンス
第17回 副題 担当	火曜日 [8:50-17:10] 総合診療・検査診断学実習 各指導教官	総合診療実習

総合診療・検査診断学 臨床実習

授 業 展 開		授 業 内 容
第 18 回	水曜日 [8:50-17:10] 副題 総合診療・検査診断学実習 担当 各指導教官	総合診療実習
第 19 回	木曜日 [8:50-17:10] 副題 総合診療・検査診断学実習 担当 各指導教官	総合診療実習 ICT ラウンド (感染制御部カンファレンス)
第 20 回	金曜日 [8:50-17:10] 副題 総合診療・検査診断学実習 担当 各指導教官	総合診療実習 ポートフォリオ発表

分 類：臨床医学 VII (CC2)

授業科目名：救急・集中治療医学 臨床実習 (Emergency&Critical Care Medicine)

対象学年：6 年次選択

時間割コード：71644006-22

1. 主任教員

中永 士師明 (教授、救急・集中治療医学講座、6183、オフィスアワー：8：30-17：00)

2. 担当教員

中永 士師明 (教授、救急・集中治療医学講座、6183、オフィスアワー：8：30-17：00)

奥 山 学 (准教授、救急集中治療医学講座、6184、オフィスアワー：8：30-17：00)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. 授業の概要及びねらい

救急外来診療、ICU・病棟での入院患者診療に診療チームの一員として参加し、指導医とともに診療し、カルテを記載し、翌朝のカンファランスで症例プレゼンテーションを行う。これを指導医のフィードバックを受けながら毎日繰り返す。

診療を通して、診療技能、コミュニケーション能力、多職種連携能力を習得する。カルテを記載しながら、自分の診療を振り返り、疑問点を明らかにして教科書や IT ツールを利用してその場で医学知識を取得し正確なカルテ記載を行うことを心がける。これにより専門知識に基づいた問題解決能力、リサーチマインド、診療現場における情報・科学技術の活用能力を習得する。診療終了後に再び振り返り、得られた経験を一般化するために教科書または IT ツールを用いて新たな知識の取得と知識の整理を行い、翌日のカンファランスでプレゼンテーションする。これによって得られた知識は徐々に体系化され自分のものになり、次の診療に活かしていくことが出来る。この経験学習サイクルは医師に必須の生涯にわたって共に学ぶ姿勢に他ならない。

また、救急外来では軽症から重症まで専門臓器にとらわれない様々な病態と様々な社会的背景をもつ方々を診療し、ICU では重症患者に対して EBM に基づいた臓器横断的な集中治療を行う。加えて終末期医療について深く考えなければならず、総合的に患者・生活者をみる姿勢を習得することができる。

救急・集中治療医学の臨床実習を上記のような姿勢で行うことでプロフェッショナリズムも身につけていくことが出来ると考えている。

1) 救急外来

担当医と共に救急患者の病歴聴取、身体診察を行い、鑑別診断を考え、各種検査オーダー、方針決定、安定化処置を行う。SOAP 形式でカルテを記載する。(1-1,2 2-1,2,3,4,5,6,7,8, 3-1,2,3,4, 4-1,2,3,4,5,6,7,8, 5-1,2,3, 6-1,2)

2) 病棟・ICU

担当医と共に ICU 入室患者及び一般病棟入院患者の診療を行い、by system 形式でカルテを記載する。(1-1,2 2-1,2,3,4,5,6,7,8, 3-1,2,3,4, 4-1,2,3,4,5,6,7,8, 5-1,2,3, 6-1,2)

3) カンファランス

前日に担当した患者の症例プレゼンテーションを行う。その準備過程で疾患、病態に関して調べ考察することで知識を整理すると共に症例プレゼンテーションの技術を習得する。(1-1,2, 3-1,2,3,4,5, 4-3,4,5, 5-1,2,3,4,5, 6-1,2)

2. 学修目標

- ・バイタルサインや身体徴候から緊急性の高い状態にある患者を認識できる
- ・頻度や緊急性の高い患者に対する初期対応(二次救命処置を含む)の実施を補助できる
- ・医療面接における基本的コミュニケーション技法を用いることができる
- ・病歴(主訴、現病歴、常用薬、アレルギー歴、既往歴、家族歴、嗜好、生活習慣、社会歴・職業歴、生活環境、家庭環境、海外渡航歴、システムレビュー)を聞き取り、情報を取捨選択し整理できる
- ・患者に関わる人達から必要な情報を得ることができる
- ・患者の状態に応じた診察ができる

- ・ 部位毎の身体診察ができる
- ・ 適切に患者の情報を収集し、問題志向型医療記録（SAOP）を作成できる。
- ・ 主要症候（下記）について鑑別診断を検討し、診断の要点を説明できる
- ・ 主要症候（下記）について初期対応を計画し、専門的診療が必要かどうかを考えることができる。
- ・ 自己学習や協同学習の場に適切な ICT(e ラーニング、モバイル技術等) を活用できる。
- ・ 臓器不全(多臓器不全、サイトカインストーム、播種性血管内凝固症候群) について理解する
- ・ 集中治療及び集中治療室の概要を理解する
- ・ 侵襲(手術, 外傷, 熱傷) で生じる生体侵襲と生体反応を理解する
- ・ 人工呼吸管理・体外式膜型肺・補助循環・急性血液浄化法が必要な病態とその意義を理解する
- ・ 重症患者に対する体温管理(体温維持療法を含む) 及び栄養管理を理解する
- ・ 集中治療後症候群について概念を理解する
- ・ 人生の最終段階における医療(エンド・オブ・ライフ・ケア) について理解する
- ・ ACP、事前指示書遵守、延命治療、蘇生不要指示、尊厳死と安楽死、治療の中止と差し控え等について理解する

1. 発熱 2. 全身倦怠感 3. 食思(欲)不振 4. 体重減少 5. 体重増加 6. 意識障害 7. 失神 8. けいれん 9. めまい 10. 浮腫 11. 発疹 12. 咳・痰 13. 血痰・喀血 14. 呼吸困難 15. 胸痛 16. 動悸 17. 嚥下困難 18. 腹痛 19. 悪心・嘔吐 20. 吐血 21. 下血 22. 便秘 23. 下痢 24. 黄疸 25. 腹部膨隆・腫瘤 26. リンパ節腫脹 27. 尿量・排尿の異常 28. 血尿 29. 月経異常 30. 不安・抑うつ 31. 認知機能障害 32. 頭痛 33. 運動麻痺・筋力低下 34. 歩行障害 35. 感覚障害 36. 腰背部痛 37. 関節痛・関節腫脹

本科目は実務経験のある教員による授業科目です

4. 教科書・参考書

Up To Date

5. 成績評価の方法

出席、診療手技、カルテ記載内容、症例プレゼンテーション

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

- 1) 毎朝 8:30 ICU カンファランス室集合
- 2) 半袖の白衣を着用すること。ICU では感染制御の観点から長袖の白衣の着用を禁止しています。
- 3) 他施設での実習をする場合があります。

救急・集中治療医学 臨床実習

授 業 展 開		授 業 内 容
第 1 回	月曜日 [8:30-17:00] 副題 臨床実習 担当 中永 士師明、奥山 学	1) 救急患者の初期診療を学ぶ 2) ICU 入室患者の全身管理を学ぶ 3) 症例プレゼンテーションを行う
第 2 回	火曜日 [8:30-17:00] 副題 臨床実習 担当 中永 士師明、奥山 学	1) 救急患者の初期診療を学ぶ 2) ICU 入室患者の全身管理を学ぶ 3) 症例プレゼンテーションを行う
第 3 回	水曜日 [8:30-17:00] 副題 臨床実習 担当 中永 士師明、奥山 学	1) 救急患者の初期診療を学ぶ 2) ICU 入室患者の全身管理を学ぶ 3) 症例プレゼンテーションを行う
第 4 回	木曜日 [8:30-17:00] 副題 臨床実習 担当 中永 士師明、奥山 学	1) 救急患者の初期診療を学ぶ 2) ICU 入室患者の全身管理を学ぶ 3) 症例プレゼンテーションを行う
第 5 回	金曜日 [8:30-17:00] 副題 臨床実習 担当 中永 士師明、奥山 学	1) 救急患者の初期診療を学ぶ 2) ICU 入室患者の全身管理を学ぶ 3) 症例プレゼンテーションを行う

分 類：臨床医学 VII (CC2)

授業科目名：代謝・内分泌内科学（糖尿病・内分泌代謝科） 臨床実習（Metabolism and Endocrinology） - 代謝・内分泌内科学 -

対象学年：6 年次 選択

時間割コード：71644006-23

1. 主任教員

脇 裕 典（教授、代謝・内分泌内科学、6769、オフィスアワー：12:00-13:00）

2. 担当教員

脇 裕 典（教授、代謝・内分泌内科学、6769、オフィスアワー：12:00-13:00）

藤田浩樹（准教授、代謝・内分泌内科学、6769、オフィスアワー：12:00-13:00）

森 井 宰（講師、代謝・内分泌内科学、6769、オフィスアワー：12:00-13:00）

佐藤雄大（助教、代謝・内分泌内科学、6769、オフィスアワー：12:00-13:00）

清水辰徳（特任講師、高齢者医療先端研究センター、6084、オフィスアワー：12:00-13:00）

加藤俊祐（特任助教、総合臨床教育研修センター、6769、オフィスアワー：12:00-13:00）

3. 授業のねらい及び概要（学修目標）

1. 診療参加型臨床実習 CC2 の概要・ねらい

各科実習期間が 4～5 週間となる CC2 では、1 年間の CC1 の経験を踏まえ、より本格的な糖尿病・内分泌内科の診療参加型臨床実習を行う。将来、どのような分野の医師になっても必要な糖尿病・内分泌内科領域の基本的な診療能力を修得する。

1) 病棟診療

各学生は 2 つの診療チーム（A、B）のいずれかに 4～5 週間配属され、指導医のもとで配属されたチームのすべての受け持ち患者さんを担当する。指導医の監督のもとに、毎日担当患者さんの診察を行い、所見を電子カルテに記載する（指導医の確認必須）。また、ウィークリーサマリーを作成し、毎週水曜日の病棟カンファレンスでプレゼンテーションする。実習期間中、副腎静脈サンプリング目的の入院があった場合には見学し、介助する。診療チームの一員として、EBM および診療ガイドラインに基づいた基本的な診療を実践的に学ぶ。（1～6）

2) 外来診療、外来検査への参加

実習期間中、4～5 名の外来新患患者さんの初診を行い、病歴・診察所見を電子カルテに記載する（指導医の確認必須）。毎週水曜日の外来新患カンファレンスで担当した患者さんについてプレゼンテーションする。また、毎週水曜日の頸部エコー検査と内分泌負荷試験、毎週火・木曜日の午後に行っている甲状腺細胞診検査に交代で参加する。実習期間中の予約外ならびに救急患者さんの診療を見学し、介助する。診療チームの一員として、臨床推論・検査・治療の過程を実践的に学ぶ。（1～6）

2. 学習目標

上記 1 の概要・ねらいを中心に実習を進めるが、本診療科で特に経験保証する症候・病態、各種手技等の内容を下記に示す。

1) 症候・病態、臨床推論（3-1～3-5、4-1～4-6）

(1) 口渇・多飲・多尿、(2) 甲状腺腫、(3) 肥満・やせ

2) 基本的臨床手技（3-1～3-3、3-5、4-1～4-7）

(1) 皮膚消毒ができる。

(2) 注射（皮内、皮下、筋肉、静脈内）を実施できる。

- (3) 診療録（カルテ）を作成する。
- (4) 各種診断書・検案書・証明書の作成を見学し、介助する。

3) 検査手技（3-1～3-3、4-1～4-3）

- (1) 尿検査（尿沈渣を含む）を実施できる。
- (2) POCT 器で血糖測定ができる。
- (3) 頸部の超音波検査を実施できる。
- (4) 甲状腺細胞診検査を見学し、介助する。
- (5) 副腎静脈サンプリング検査を見学し、介助する。

4) プロフェッショナリズム、医療行動科学、医療倫理、医療安全、医療法（医療制度）、EBM について（2-1～2-8、3-3、3-5、3-7）

- (1) 各種検査・治療のインフォームドコンセント。
- (2) 困難な患者、急変患者の家族への説明。
- (3) 患者さんの生活環境（家庭、職場）に配慮した診療計画を検討できる。総合的にみることができる。
- (4) 各種侵襲的な検査・治療時の安全性への配慮。
- (5) 各種診療ガイドラインを適宜参照し、活用できる。ICT を活用して検索できる。

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

内科学（朝倉書店）

糖尿病専門医研修ガイドブック（診断と治療社）

内分泌代謝科専門医研修ガイドブック（診断と治療社）

5. 成績評価の方法

態度（実習評価票）

口頭試問（外来新患・病棟カンファレンスで担当患者さんの症例発表・ディスカッション）

CC-EPOC 入力状況

ミニ CEX（担当患者さんの診察状況の評価）

症例検討会でのプレゼンテーション

出席

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

実習開始までに、3 年次臨床医学 II（加齢と老化、内分泌・栄養・代謝）および CC1 の講義プリントの内容を復習してきて下さい。

代謝・内分泌内科学（糖尿病・内分泌代謝科） 臨床実習

授 業 展 開		授 業 内 容
第1回 副題 担当	月曜日 [9:00 - 17:00] オリエンテーション 各指導教官	オリエンテーション 病棟実習 集合場所：医局 集合時間：9時00分
第2回 副題 担当	火曜日 [9:00 - 17:00] 糖尿病・内分泌代謝科実習 各指導教官	病棟実習
第3回 副題 担当	水曜日 [9:00 - 17:00] 糖尿病・内分泌代謝科実習 各指導教官	病棟実習
第4回 副題 担当	木曜日 [9:00 - 17:00] 糖尿病・内分泌代謝科実習 各指導教官	病棟実習
第5回 副題 担当	金曜日 [9:00 - 17:00] 糖尿病・内分泌代謝科実習 各指導教官	病棟実習
第6回 副題 担当	月曜日 [9:00 - 17:00] 糖尿病・内分泌代謝科実習 各指導教官	病棟実習
第7回 副題 担当	火曜日 [9:00 - 17:00] 糖尿病・内分泌代謝科実習 各指導教官	病棟実習
第8回 副題 担当	水曜日 [9:00 - 17:00] 糖尿病・内分泌代謝科実習 各指導教官	病棟実習
第9回 副題 担当	木曜日 [9:00 - 17:00] 糖尿病・内分泌代謝科実習 各指導教官	病棟実習
第10回 副題 担当	金曜日 [9:00 - 17:00] 糖尿病・内分泌代謝科実習 各指導教官	病棟実習
第11回 副題 担当	月曜日 [9:00 - 17:00] 糖尿病・内分泌代謝科実習 各指導教官	病棟実習
第12回 副題 担当	火曜日 [9:00 - 17:00] 糖尿病・内分泌代謝科実習 各指導教官	病棟実習
第13回 副題 担当	水曜日 [9:00 - 17:00] 糖尿病・内分泌代謝科実習 各指導教官	病棟実習
第14回 副題 担当	木曜日 [9:00 - 17:00] 糖尿病・内分泌代謝科実習 各指導教官	病棟実習
第15回 副題 担当	金曜日 [9:00 - 17:00] 糖尿病・内分泌代謝科実習 各指導教官	病棟実習
第16回 副題 担当	月曜日 [9:00 - 17:00] 糖尿病・内分泌代謝科実習 各指導教官	病棟実習
第17回 副題 担当	火曜日 [9:00 - 17:00] 糖尿病・内分泌代謝科実習 各指導教官	病棟実習

代謝・内分泌内科学（糖尿病・内分泌代謝科） 臨床実習

授 業 展 開		授 業 内 容
第 18 回	水曜日 [9:00 - 17:00] 副題 糖尿病・内分泌代謝科実習 担当 各指導教官	病棟実習
第 19 回	木曜日 [9:00 - 17:00] 副題 糖尿病・内分泌代謝科実習 担当 各指導教官	病棟実習
第 20 回	金曜日 [9:00 - 17:00] 副題 糖尿病・内分泌代謝科実習 担当 各指導教官	病棟実習
第 21 回	月曜日 [9:00 - 17:00] 副題 糖尿病・内分泌代謝科実習 担当 各指導教官	病棟実習
第 22 回	火曜日 [9:00 - 17:00] 副題 糖尿病・内分泌代謝科実習 担当 各指導教官	病棟実習
第 23 回	水曜日 [9:00 - 17:00] 副題 糖尿病・内分泌代謝科実習 担当 各指導教官	病棟実習
第 24 回	木曜日 [9:00 - 17:00] 副題 糖尿病・内分泌代謝科実習 担当 各指導教官	病棟実習
第 25 回	金曜日 [9:00 - 17:00] 副題 糖尿病・内分泌代謝科実習 担当 各指導教官	病棟実習

分 類：臨床医学 VII (CC2)

授業科目名：小児外科学 臨床実習 (Clinical clerkship in pediatric surgery)

対象学年：6 年次 選択

時間割コード：71644006-24

1. 主任教員

水 野 大 (病院教授、小児外科学講座、3447、オフィスアワー：水曜日 15 時～16 時)

2. 担当教員

水 野 大 (病院教授、小児外科学講座、3447、オフィスアワー：水曜日 15 時～16 時)

森井 真也子 (医学部講師、小児外科学講座、6141、オフィスアワー：火曜日 15 時～16 時)

渡 部 亮 (助教、小児外科学講座、6142、オフィスアワー：火曜日 15 時～16 時)

山形 健基 (医員、小児外科学講座、6143、オフィスアワー：木曜日 15 時～16 時)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. 授業の狙い (大まかな全体目標)

チームの一員として病棟や外来患者さんへの診療を通して、将来どのような分野の医師にも必要な小児領域、特に外科疾患を中心とした症候や病態の臨床推論、鑑別診断、検査・治療方針決定等の実践力を習得する。また、関連するプロフェッショナルリズム、倫理、医療行動科学、医療安全、医療法 (制度)、EBM を活用した総合的な判断、ICT の適切な活用について実践的に学ぶ。

2. 概要 (大まかな学習目標)

小児外科疾患の診療に関する基本的な知識と技能を習得するために、指導医を中心とした医療チームの一員として能動的に実習に取り組む。(1-1～1-2、2-1～2-6、3-7、5-1～5-4、6-1～6-2)

臨床実習の中で自ら情報を収集し、患者さんと親御さんのニーズ・問題点の抽出、整理、解釈を行い (臨床的推論)、解決法 (診断、治療) を立案するための基本的訓練を行う (problem based learning ; PBL) (1-1～6-2)

診療チームの日常診療に参加し、小児外科疾患の診察、検査、治療の実際を体験し、ポートフォリオを作成する。(1-1～1-2、2-1～2-5、4-1～4-7)

1) 病棟診療

各学生は 4 週間配属され、指導医の下、病棟の入院患者さんを毎日回診して、診療内容をカルテに記載する。指導医の監督のもとに医療面接、身体診察を行うとともに処置を見学して、問題を抽出し、作業仮説を立てて EBM に基づいた検証を繰り返す。臨床推論に基づいて、診断、鑑別に必要な検査を立案し、患者さんの状態を勘案して治療方針の選択を試みる。他科頼診券、紹介状などの作成、症例検討会でのプレゼンテーション、患者・家族への説明への参加など、診療チームの一員として基本的な診療を実践的に学び、医師としてのプロフェッショナルリズムを身につけるために必要な知識、学習プロセスを身につける。(1-1～1-2、2-1～2-7、3-1～3-7、4-1～4-8)

2) 外来診療

外来診療への参加機会は手術や検査のない時間に限られるが、医療面接、身体診察を見学し、小児の特殊性を理解する。(2-1～2-7、3-1～3-3、3-5～3-6、4-1～4-2、4-6)

3) 各種検査・手術など治療への参加

診療チームの一員として各種検査、手術をはじめとする治療に参加しながら臨床推論・検査・手術の実際を経験し、検査成績の評価を自ら試みるとともに、治療 (手術) の目的、妥当性について理解する。(3-1～3-3、3-5～3-6、4-1～4-7)

3. 詳細な学習目標・項目

上記 1 のねらい・概要を中心に実習をすすめるが、本診療科で経験し得る症候、病態、各種手技などの内容を下記に示す。

1) 症候・病態 臨床推論 (3-5、4-1~4-6)
(1) 腹痛 (2) 呼吸困難 (3) 発熱 (4) 悪心・嘔吐 (5) 食欲不振 (6) 嚥下障害 (7) 吐血・下血
(8) 便秘・下痢 (9) 腹部膨満 (10) 腫瘍 (11) 黄疸 (12) 脱水

2) 基本的臨床手技 (3-1~3-3、3-5、4-1~4-7)
(1) 体位変換、移送ができる (2) 皮膚消毒ができる (3) 静脈採血を見学する (4) 末梢静脈の血管確保を見学する (5) 中心静脈カテーテル挿入を見学する (6) 胃管の挿入と抜去を介助あるいは実施する (7) 尿道カテーテルの挿入と抜去を見学し、介助する (8) ドレーンの挿入と抜去を見学し、介助する (9) 全身麻酔、局所麻酔、輸血を見学する (10) 診療録を作成する (11) 各種診断書・証明書の作成を見学する
(12) 上記 11 項目について CC1 に説明・指導ができる。

3) 検査・治療手技 (3-1~3-3、4-1~4-7)
(1) 腹部の超音波検査を見学し、介助する。
(2) エックス線撮影、コンピューター断層撮影 (CT)、核磁気共鳴画像検査 (MRI)、核医学検査、内視鏡検査、直腸肛門内圧検査を見学し介助する。
(3) 無菌操作を実施できる。
(4) 手術や主義のための手洗いができる。
(5) 手術室におけるガウンテクニックができる。
(6) 基本的な縫合や抜糸ができる。
(7) 創の消毒やガーゼ交換ができる。
(8) 手術、術前・術中・術後管理を見学する。
(9) 上記 8 項目について CC1 に指導・説明ができる。

4) プロフェッショナリズム、医学行動科学、医療倫理、医療安全、医療法 (制度)、EBM について (1-1~1-2、2-1~2-7、3-1~3-7、4-1~4-7、5-1~5-5)
(1) 各種検査・治療のインフォームドコンセントを見学する。
(2) 疾患の病態や疫学を理解する。
(3) インペアメント、ディスアビリティ、ハンディキャップを説明できる。
(4) 患児の生活環境などを総合的にみて診療計画を検討できる。
(5) 感染防止対策を説明できる。
(6) 身体障害者福祉法を概説できる。
(7) 各種診療ガイドラインなど必要な情報を、ICT を活用して検索できる。
(8) 文献から得られた情報の批判的吟味ができる。
(9) 上記 8 項目について CC1 に指導・説明できる。

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

3 年次「成長と発達」講義資料
標準小児外科学 (医学書院)
スタンダード小児外科手術 (メジカルビュー)
スタンダード小児内視鏡外科手術 (メジカルビュー)
Swenson 's Pediatric Surgery
Journal of Pediatric Surgery

5. 成績評価の方法

態度、口頭試問 (実習中随時行われる質疑応答)、CC-EPOC 入力状況、ミニ CEX、出席で総合評価する。

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

基礎医学で学ぶ人体発生学、解剖学、生理学を復習しておくこと。

3年時に講義した成長と発達を復習しておくこと。

適宜、診療録を記載し、指導医によるフィードバックを確認して追記・訂正を行うこと。

実習終了後に自己評価表、臨床実習評価シート、レポートを医局秘書に提出する。

実習初日は朝8時15分に1病棟5階ナースステーションに集合する事。

小児外科学 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第 1 回 月曜日 [9:00-17:00] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	オリエンテーション (9:00 ~) 朝回診 (9:15 ~) 手術 (9:30 ~) 抄読会・症例検討会 (15:00 ~ 16:00) 夕回診 (16:00 ~)
第 2 回 火曜日 [9:00-17:30] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (9:00 ~) 検査、定期入院患者の診察 夕回診 (16:00 ~) 小児科、産科との合同カンファランス (17:00 ~ 17:30)
第 3 回 水曜日 [9:00-17:00] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (9:00 ~) 手術 (9:15 ~) 夕回診 (16:00 ~)
第 4 回 木曜日 [9:00-17:00] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (9:00 ~) 検査 夕回診 (16:00 ~)
第 5 回 金曜日 [9:00-17:00] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (9:00 ~) 検査、定期入院患者の診察 夕回診 (16:00 ~)
第 6 回 月曜日 [9:00-17:00] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (9:00 ~) 手術 (9:30 ~) 抄読会・症例検討会 (15:00 ~ 16:00) 夕回診 (16:00 ~)
第 7 回 火曜日 [9:00-17:30] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (9:00 ~) 検査、定期入院患者の診察 夕回診 (16:00 ~) 小児科、産科との合同カンファランス (17:00 ~ 17:30)
第 8 回 水曜日 [9:00-17:00] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (9:00 ~) 手術 (9:15 ~) 夕回診 (16:00 ~)
第 9 回 木曜日 [9:00-17:00] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (9:00 ~) 検査 夕回診 (16:00 ~)
第 10 回 金曜日 [9:00-17:00] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (9:00 ~) 検査、定期入院患者の診察 夕回診 (16:00 ~)
第 11 回 月曜日 [9:00-17:00] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (9:00 ~) 手術 (9:30 ~) 抄読会・症例検討会 (15:00 ~ 16:00) 夕回診 (16:00 ~)
第 12 回 火曜日 [9:00-17:30] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (9:00 ~) 検査、定期入院患者の診察 夕回診 (16:00 ~) 小児科、産科との合同カンファランス (17:00 ~ 17:30)
第 13 回 水曜日 [9:00-17:00] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (9:00 ~) 手術 (9:15 ~) 夕回診 (16:00 ~)
第 14 回 木曜日 [9:00-17:00] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (9:00 ~) 検査 夕回診 (16:00 ~)
第 15 回 金曜日 [9:00-17:00] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (9:00 ~) 検査、定期入院患者の診察 夕回診 (16:00 ~)

小児外科学 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第 16 回 月曜日 [9:00-17:00] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (9:00 ~) 手術 (9:30 ~) 抄読会・症例検討会 (15:00 ~ 16:00) 夕回診 (16:00 ~)
第 17 回 火曜日 [9:00-17:30] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (9:00 ~) 検査、定期入院患者の診察 夕回診 (16:00 ~) 小児科、産科との合同カンファランス (17 : 00 ~ 17:30)
第 18 回 水曜日 [9:00-17:00] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (9:00 ~) 手術 (9:15 ~) 夕回診 (16:00 ~)
第 19 回 木曜日 [9:00-17:00] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (9:00 ~) 検査 夕回診 (16:00 ~)
第 20 回 金曜日 [9:00-17:00] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (9:00 ~) 検査、定期入院患者の診察 夕回診 (16:00 ~)
第 21 回 月曜日 [9:00-17:00] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (9:00 ~) 手術 (9:30 ~) 抄読会・症例検討会 (15:00 ~ 16:00) 夕回診 (16:00 ~)
第 22 回 火曜日 [9:00-17:30] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (9:00 ~) 検査、定期入院患者の診察 夕回診 (16:00 ~) 小児科、産科との合同カンファランス (17 : 00 ~ 17:30)
第 23 回 水曜日 [9:00-17:00] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (9:00 ~) 手術 (9:15 ~) 夕回診 (16:00 ~)
第 24 回 木曜日 [9:00-17:00] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (9:00 ~) 検査 夕回診 (16:00 ~)
第 25 回 金曜日 [9:00-17:00] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (9:00 ~) 検査、定期入院患者の診察 夕回診 (16:00 ~)

分 類：臨床医学 VII (CC2)

授業科目名：病理部 臨床実習 (Surgical pathology)

対象学年：6年次選択

時間割コード：71644006-25

1. 主任教員

南 條 博 (病院教授、病理部、6182)

2. 担当教員

南 條 博 (病院教授、病理部、6182)

廣 嶋 優子 (助教、病理部、6200)

畠 山 遥 (医員、病理部、6061)

三 浦 将仁 (医員、病理部、6061)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. 授業の概要及びねらい

直接患者の治療方針に関わる外科病理学の実際について取得し、医療における病理診断科の役割と意義を理解する。加えて、種々の臓器病変の病理組織学的診断について修練する。また、関連するプロフェッショナリズム、医の倫理、医療安全、EBM、医療法 (医療制度) について説明できる。

2. 講義内容・具体的到達目標・学修目標

外科病理の医療に果たす役割を理解する。(3-1～3-4, 4-1～4-7)

臨床医との連携の重要性を理解する。(3-1～3-4, 4-1～4-7)

代表的な病変の肉眼的所見を的確に表現できる。(3-1～3-3, 4-1～4-7)

典型的な組織病変を理解できる。(3-1～3-4, 4-1～4-7)

病理組織標本の作成過程を理解できる。(3-1～3-3)

病理組織検査、細胞診検査、フローサイトメトリーの意義を説明できる。(3-1～3-3)

病理診、細胞診の適切な検体の取扱い、標本作製および診断過程が説明できる。(3-1～3-3)

外科手術材料症例の標本から肉眼所見を採り、的確に標本切り出しを行える。(3-1～3-3, 4-1～4-7)

外科手術材料症例の組織標本から疾患の診断ができる。(3-1～3-3, 4-1～4-7)

TNM 分類の観点から腫瘍性疾患の概要を把握できる。(3-1～3-3, 4-1～4-7)

免疫組織化学染色法、in situ hybridization 法、がん遺伝子パネル検査などの分子病理学的アプローチについて理解する。(3-1～3-3)

術中迅速診断の利点、限界を説明できる。(3-1～3-4, 4-1～4-7)

デジタル画像を用いた病理診断 (遠隔診断を含む) の利点、限界を説明できる。(3-1～3-4, 4-1～4-7)

病理診断に必要な臨床情報の適切な提供法を説明できる。(3-1～3-4, 4-1～4-7)

患者の入院診療録から病態、臨床病理学的な検討課題を説明できる。(3-1～3-4, 4-1～4-7)

生命科学の講義・実習で得た知識を基に、診療で経験した病態の解析ができる。(4-1～4-7, 5-1～5-5)

患者や疾患の分析を基に、教科書・論文等から最新の情報を検索・整理統合し、疾患の理解・診断・治療の深化につなげることができる。(4-1～4-7, 5-1～5-5)

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

5. 成績評価の方法

出席率、実習態度学習意欲 (積極性) レポート

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

集合場所：病理診断科

集合時間：8：30（初日）

病理部 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第 1 回 月曜日 [9:00-17:00] 副題 担当 南條 博、廣嶋 優子	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎
第 2 回 火曜日 [9:00-17:00] 副題 担当 南條 博、畠山 遥	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎
第 3 回 水曜日 [9:00-17:00] 副題 担当 南條 博、廣嶋 優子	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎、臨床病理カンファレンス
第 4 回 木曜日 [9:00-17:00] 副題 担当 南條 博、廣嶋 優子	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎
第 5 回 金曜日 [9:00-17:00] 副題 担当 南條 博、三浦 将仁	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎
第 6 回 月曜日 [9:00-17:00] 副題 担当 南條 博、廣嶋 優子	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎
第 7 回 火曜日 [9:00-17:00] 副題 担当 南條 博、畠山 遥	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎
第 8 回 水曜日 [9:00-17:00] 副題 担当 南條 博、廣嶋 優子	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎、臨床病理カンファレンス
第 9 回 木曜日 [9:00-17:00] 副題 担当 南條 博、廣嶋 優子	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎、臨床病理カンファレンス
第 10 回 金曜日 [9:00-17:00] 副題 担当 南條 博、三浦 将仁	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎
第 11 回 月曜日 [9:00-17:00] 副題 担当 南條 博、廣嶋 優子	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎
第 12 回 火曜日 [9:00-17:00] 副題 担当 南條 博、畠山 遥	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎
第 13 回 水曜日 [9:00-17:00] 副題 担当 南條 博、廣嶋 優子	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎、臨床病理カンファレンス
第 14 回 木曜日 [9:00-17:00] 副題 担当 南條 博、廣嶋 優子	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎
第 15 回 金曜日 [9:00-17:00] 副題 担当 南條 博、三浦 将仁	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎
第 16 回 月曜日 [9:00-17:00] 副題 担当 南條 博、廣嶋 優子	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎
第 17 回 火曜日 [9:00-17:00] 副題 担当 南條 博、畠山 遥	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎

病理部 臨床実習

授 業 展 開		授 業 内 容
第 18 回 副題 担当	水曜日 [9:00-17:00] 南條 博、廣嶋 優子	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎、臨床病理カンファレンス
第 19 回 副題 担当	木曜日 [9:00-17:00] 南條 博、廣嶋 優子	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎、臨床病理カンファレンス
第 20 回 副題 担当	金曜日 [9:00-17:00] 南條 博、三浦 将仁	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎
第 21 回 副題 担当	月曜日 [9:00-17:00] 南條 博、廣嶋 優子	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎
第 22 回 副題 担当	火曜日 [9:00-17:00] 南條 博、畠山 遥	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎
第 23 回 副題 担当	水曜日 [9:00-17:00] 南條 博、廣嶋 優子	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎、臨床病理カンファレンス
第 24 回 副題 担当	木曜日 [9:00-17:00] 南條 博、廣嶋 優子	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎
第 25 回 副題 担当	金曜日 [9:00-17:00] 南條 博、三浦 将仁	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎

分 類：臨床医学 VII (CC2)

授業科目名：臨床腫瘍学 臨床実習 (Clinical Oncology -principles & practice-, face to face) - がん薬物療法の実際 -

対象学年：6 年次選択

時間割コード：71644006-27

1. 主任教員

柴田浩行 (教授、臨床腫瘍学講座、6262)

2. 担当教員

柴田浩行 (教授、臨床腫瘍学講座、6262)

福田耕二 (講師、臨床腫瘍学講座、6263)

田口大樹 (助教、臨床腫瘍学講座、6263)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. 授業の概要及びねらい

医療行動科学、医の倫理、医療安全、エビデンス、医療制度を理解したうえで、以下の項目について、進行がん患者に対する治療の実際を体験し、必要な知識、技術を習得する。とくにがんの発生メカニズム、がんの病態を理解し、がんの組織型や病期ごとの治療法やケアの方法について総合的に理解する (1-1, 1-2, 3-1 ~ 3-7, 4-1 ~ 4-8)。
進行がん患者に対する治療の実際を体験し、必要な知識、技術を習得する (4-1 ~ 4-7)。

1-1. 主訴からの診断推論を組み立てる、又はたどる (4-1 ~ 4-3)。

1-2. 疾患の病態や疫学を理解する (3-1 ~ 3-4)。

1-3. 腫瘍内科的治療の立案・実施に可能な範囲で参加する (4-1 ~ 4-3)。

1-4. 複数の臓器にまたがる問題を統合する視点を獲得する (3-1 ~ 3-3, 4-1 ~ 4-7)。

1-5. 基本的な内科的診察技能について学ぶ (4-1 ~ 4-7)。

1-6. 他科との連携、コンサルテーションについて理解する (4-7, 4-8)。

2. 実習内容・具体的到達目標・学修目標

> がん薬物療法の治療方針の立て方 (標準治療、他) 実際 (外来化学療法、入院化学療法) について学習する (4-1 ~ 4-3)。

2-1. 基本的臨床手技の目的、適応、禁忌、合併症と実施法について理解し、指導医の指導・監督の下で自ら実施する。

> 化学療法の有害事象への対処や症状緩和の方法について学習する (4-1 ~ 4-7)。

2-1-1. 外来化学療法のシステムについて理解する (レジメン管理、有害事象の管理) (2-5, 2-6, 4-4, 4-7)。

2-1-2. 化学療法における薬剤師、看護師とのチーム医療の実際を理解する (4-7)。

2-2. 臨床推論：症候・病態ごとに頻度・重症度を考慮し、想定すべき鑑別診断を行う。鑑別診断を想定しながら必要な病歴聴取・身体診察を行う (3-1 ~ 3-7, 4-1 ~ 4-7)。

2-3. 緩和ケアの実際について学習する (1-2, 3-3)。

2-4. チーム医療の進め方について学習する (4-7)。

2-5. 進行がん患者とのコミュニケーションスキルについて学習する (2-1 ~ 2-8, 4-1)。

特に以下の点について重点的に学ぶ。

2-5-1. がん薬物療法の実施に際してのインフォームド・コンセントが取れる (4-1 ~ 4-4)。

2-5-2. 進行がん患者に対するコミュニケーション・スキルを習得する (4-1)。

2-5-3. SPIKES プロトコールに基づく悪い知らせ (がんの告知) の伝え方ができるようになる (1-2, 4-1 ~ 4-5)。

2-6. 医師として求められる基本的な資質・能力を常に意識しながら、臨床実習を行う(4-1～4-7)。

2-7. 医学研究への志向の涵養

医学・医療の進歩と改善に資するために研究を遂行する意欲を涵養する(5-1～5-5)。

2-7-1. 研究は、医学・医療の発展や患者の利益の増進を目的として行われるべきことを理解する(1-1, 1-2)。

2-7-2. 生命科学の講義・実習で得た知識を基に、診療で経験した病態の解析ができる(3-1～3-7, 4-1～4-4)。

2-7-3. 患者や疾患の分析を基に、教科書・論文等から最新の情報を検索・整理統合し、疾患の理解を深める(5-1～5-5)。

2-7-4. 抽出した医学・医療情報から新たな仮説を設定し、解決に向けて科学的研究に参加する(5-1～5-5)。

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

新臨床腫瘍学(南江堂、改訂第6版、2021年)

入門腫瘍内科学(篠原出版新社、改訂第3版、2020年)

Cancer: Principles & Practice of Oncology, 9th edition (Wolters Kluwer/ Lippincott Williams & Wilkins)

5. 成績評価の方法

出席、ミニテスト

出席、ミニテストで習熟度を確認する。

学生は個別に入院患者を1名以上受け持つ。

毎朝のカンファランスで司会を分担しつつ、受け持ち患者の病状の報告を行う。

その際に、随時、口頭試問を課す。

外来新患を受け持ち、病歴を要約する。翌日の朝のカンファランスで治療方針を含むプレゼンテーションする。

CC1の医学生の指導についても評価の対象とする。

受け持ち症例を学会の症例報告形式でまとめ、日本語、または英語で論文化する。

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

午前8:30に第二病棟6階ナースステーション前に集合。

第2週目以降も同様のスケジュールで行う。

優秀な症例報告は日本内科学会、日本臨床腫瘍学会、日本癌治療学会で発表の機会を与える。

授 業 展 開	授 業 内 容
<p>第 1 回 月曜日 [8:30-17:00] 副題 がん薬物療法の実際 担当 各担当教官</p>	<p>1) 進行がん患者の診療（コミュニケーション、診察、検査、治療） 1. 抗腫瘍薬の適応、有害事象、投与時の注意事項を説明できる。 2. 分子標的薬の薬理作用と有害事象を説明できる。 2) 進行がん患者の初診（告知、問診、病歴聴取、治療の説明（IC）） 以下のポイントに留意する 1. 問題の同定から治療やマネジメントに至るプロセスを列挙できる。 2. 情報収集には医療面接、身体診察、検査の3つの方法があることを理解する。 3. 診断仮説を想起するためには、解剖学、病理学、生理学、生化学等の基礎医学や疾患頻度が重要であることを理解する。 4. 診断仮説を検証するために、診断仮説に基づいた情報収集を実施できる。 5. 状況に応じ、診断プロセスと治療やマネジメントが並行して行われることを理解する。 6. 治療やマネジメントに関して意思決定するために、患者側と情報共有や摺り合わせをする。 7. コンサルテーションや紹介の必要な状況を説明できる。 3) 外来患者の診療（外来化学療法とエマージェンシー） 1. 血算、凝固・線溶系検査、尿・糞便検査、生化学検査の目的と適応を理解し結果を解釈する。 2. 染色体・遺伝子検査の目的と適応を理解し、結果を解釈する。 3. 病理組織検査、細胞診検査、フローサイトメトリーの意義を理解し、結果を解釈する。 ・下記の症状のがある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。 また、どのような病態であるのかの臨床推論を行う。 1. 発熱、2. 全身倦怠感、3. 食思不振、4. 脱水、5. 発疹、6. 咳・痰、7. 血痰・喀血、8. 呼吸困難、9. 胸水、10. 腹痛、11. 悪心・嘔吐、12. 吐血・下血、13. 便秘・下痢、14. 黄疸、15. 腹部膨隆（腹水）・腫瘤、16. 貧血、17. リンパ節腫脹、18. 尿量・排尿の異常、19. 血尿・タンパク尿、20. 頭痛、21. 運動麻痺・筋力低下、22. 腰背部痛。 4) 進行がん患者の治療に必要な知識と手技 1. 経静脈栄養と経管・経腸栄養の適応、方法と合併症、長期投与時の注意事項を説明できる。 2. 血液製剤及び血漿分画製剤の種類と適応を説明できる。 3. リハビリテーション・チームの構成を理解し、がんリハにおける医師の役割を説明できる。 4. 緩和ケアを概説できる。 5. 全人的苦痛を説明できる。 6. 緩和ケアにおいて頻度</p>
<p>第 2 回 火曜日 [8:30-17:00] 副題 がん薬物療法の実際 担当 各担当教官</p>	<p>1) 進行がん患者の診療（コミュニケーション、診察、検査、治療） 2) 進行がん患者の初診（告知、問診、病歴聴取、治療の説明（IC）） 3) 外来患者の診療（外来化学療法とエマージェンシー） 1. 適切な身だしなみ、言葉遣い及び態度で患者に接することができる。 2. 医療面接における基本的コミュニケーション技法を用いることができる。 3. 病歴（主訴、現病歴、常用薬、アレルギー歴、既往歴、家族歴、嗜好、生活習慣、社会歴・職業歴、生活環境、家庭環境、海外渡航歴、システムレビュー）を聞き取り、情報を取捨選択し整理できる。 4. 診察時に患者に適切な体位を説明できる。 5. 診察で得た所見、診断、必要な検査を上級医に説明、報告できる。 適切に患者の情報を収集し、問題志向型医療記録 POMR を作成できる。 6. 診療経過を主観的所見・客観的所見・評価・計画 SOAP で記載できる。 7. 症例を適切に要約する習慣を身に付け、状況に応じて提示できる。 8. プライバシー保護とセキュリティに充分配慮できる。</p>

臨床腫瘍学 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
<p>第 3 回 水曜日 [8:30-17:00] 副題 がん薬物療法の実際 担当 各担当教官</p>	<p>臨床修練（外来、入院）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 進行がん患者の診療（コミュニケーション、診察、検査、治療） 2) 進行がん患者の初診（告知、問診、病歴聴取、治療の説明（IC）） 3) 外来患者の診療（外来化学療法とエマージェンシー） <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の立場を尊重し、信頼を得ることができる。 2. 患者の安全を重視し、有害事象が生じた場合は適切に対応ができる。 3. 患者のプライバシー、羞恥心、苦痛に配慮し、個人情報等を守秘できる。 4. 感染を予防するため、診察前後の標準予防策ができる。 5. 身だしなみ、言葉遣い及び態度等に気を配ることができる。 6. 患者の状態から診察が可能かどうかを判断し、状態に応じた診察ができる。 7. 身長・体重を測定し、body mass index の算出、栄養状態を評価できる。 8. 上腕で触診、聴診法により血圧を測定できる。 9. 両側の橈骨動脈で脈拍を診察できる。 10. 呼吸数を測定し、呼吸の異常の有無を確認できる。 11. 腋窩で体温を測定できる。 12. 下肢の動脈の触診等、下腿の血圧測定（触診法）、大腿の血圧測定（聴診法）を実施できる。 13. 7 全身の外観（体型、栄養、姿勢、歩行、顔貌、皮膚、発声）を評価できる。 14. 眼（視野、瞳孔、対光反射、眼球運動・突出、結膜）の診察ができる。 15. 頭頸部リンパ節の診察ができる。 16. 胸部の視診、触診、打診ができる。 17. 呼吸音と副雑音の聴診ができる。 18. 腹部の視診、聴診ができる。 19. 圧痛、腹膜刺激徴候、筋性防御の有無を判断できる。 20. 腹水の有無を判断できる。 21. 腸雑音、血管雑音の聴診ができる。
<p>第 4 回 木曜日 [8:30-17:00] 副題 がん薬物療法の実際 担当 各担当教官</p>	<p>臨床修練（外来、入院）緩和ケアチーム</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 進行がん患者の治療に必要な手技の実習 <ol style="list-style-type: none"> 1. 血管穿刺のシミュレータを用いて反復練習をすることで、臨床技能を磨く。 2. 体位交換、移送ができる。 3. 皮膚消毒ができる。 4. 外用薬の貼付・塗布ができる 5. 静脈採血を実施 6. 末梢静脈の血管確保を実施できる。 7. 中心静脈カテーテル挿入を見学し、介助する。

授 業 展 開	授 業 内 容
<p>第 5 回 金曜日 [8:30-17:00] 副題 がん薬物療法の実際 担当 各担当教官</p>	<p>1) 進行がん患者の診療（コミュニケーション、診察、検査、治療）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 抗腫瘍薬の適応、有害事象、投与時の注意事項を説明できる。 2. 分子標的薬の薬理作用と有害事象を説明できる。 <p>2) 進行がん患者の初診（告知、問診、病歴聴取、治療の説明（IC）） 以下のポイントに留意する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 問題の同定から治療やマネジメントに至るプロセスを列挙できる。 2. 情報収集には医療面接、身体診察、検査の 3 つの方法があることを理解する。 3. 診断仮説を想起するためには、解剖学、病理学、生理学、生化学等の基礎医学や疾患頻度が重要であることを理解する。 4. 診断仮説を検証するために、診断仮説に基づいた情報収集を実施できる。 5. 状況に応じ、診断プロセスと治療やマネジメントが並行して行われることを理解する。 6. 治療やマネジメントに関して意思決定するために、患者側と情報共有や摺り合わせをする。 7. コンサルテーションや紹介の必要な状況を説明できる。 <p>3) 外来患者の診療（外来化学療法とエマージェンシー）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 血算、凝固・線溶系検査、尿・糞便検査、生化学検査の目的と適応を理解し結果を解釈する。 2. 染色体・遺伝子検査の目的と適応を理解し、結果を解釈する。 3. 病理組織検査、細胞診検査、フローサイトメトリーの意義を理解し、結果を解釈する。 ・下記の症状のがある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。 また、どのような病態であるのかの臨床推論を行う。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 発熱、2. 全身倦怠感、3. 食思不振、4. 脱水、5. 発疹、6. 咳・痰、7. 血痰・喀血、8. 呼吸困難、9. 胸水、10. 腹痛、11. 悪心・嘔吐、12. 吐血・下血、13. 便秘・下痢、14. 黄疸、15. 腹部膨隆（腹水）・腫瘤、16. 貧血、17. リンパ節腫脹、18. 尿量・排尿の異常、19. 血尿・タンパク尿、20. 頭痛、21. 運動麻痺・筋力低下、22. 腰背部痛。 <p>4) 進行がん患者の治療に必要な知識と手技</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経静脈栄養と経管・経腸栄養の適応、方法と合併症、長期投与時の注意事項を説明できる。 2. 血液製剤及び血漿分画製剤の種類と適応を説明できる。 3. リハビリテーション・チームの構成を理解し、がんリハにおける医師の役割を説明できる。 4. 緩和ケアを概説できる。 5. 全人的苦痛を説明できる。 6. 緩和ケアにおいて頻度

分 類：臨床医学 VII (CC2)

授業科目名：地域医療実習 (Community medicine training)

対象学年：6 年次 必修

時間割コード：71644006-28

1. 主任教員

学務委員長 ()

2. 担当教員

学務委員長 ()

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

ねらい

これからの社会では、どのような分野や医療機関の医師にとっても、医療連携を必要とするすべての患者さんや家族が、心身ともに安心して医療を継続的に受けられるように、診療を行う各地区における地域包括ケア・医療連携を考慮した全人的医療が必須となる。

本プログラムは、学内における 1 年間の診療参加型臨床実習 (CC1) が終了した後に、1~2 名単位で 4~5 週間にわたり、県内 2 次医療圏の各地域医療機関における診療参加型臨床実習を行う。これにより CC1 の経験を生かして、基本的な診療能力を向上するとともに、地域包括ケアシステムと多職種連携の重要性、地域医療の魅力とやりがいを理解し、将来、医師として様々な形で地域医療連携に関わっていくための総合的な診療実践力を修得する。さらには、これらの実習経験を通じて、医師のプロフェッショナリズム、医の倫理、医療行動科学、医療安全、EBM、医療制度についての実践力を向上する。

学修目標 (1-1~1-2、2-1~2-8、3-1~3-7、4-1~4-8、5-1~5-5、6-1~6-2)

1. 地域医療・プライマリケアにおける主要症候・病態に対して十分な医療面接、身体診察による臨床推論、初期対応ができる。
2. 系統だった臨床検査、画像検査が適切に提案できる。
3. 正確で系統だった症例提示とカルテ記載ができる。
4. 一般的な急性・慢性疾患や病態に対して治療方針の提案など適切に対応できる。
5. EBM の意義を正確に理解して問題解決のために実践できる。
6. 患者・家族とラポールを形成するような人間関係が構築できる。
7. 在宅医療・地域包括ケアにおける広義のチーム医療・多職種連携の重要性を理解し実践できる。
8. 死生観や ACP (Advance Care Planning) について理解し、地域包括ケアの際に検討できる。
9. 予防医学に関する知識があり実践できる。
10. 介護保険等の一般的な書類を記載し、指導医に提案できる。
11. 地域医療の魅力とやりがいを理解し実践できる。
12. ICT を活用した的確な情報収集ができる
13. 地域医療実習経験を通じて、医師のプロフェッショナリズム、医の倫理、医療行動科学、医療安全、医療制度、EBM に関する実践力、様々な患者背景を考慮した総合的な診療能力を幅広く向上する。

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

実習手引き 後日配付

各病院における推薦図書など

5. 成績評価の方法

各受入病院の臨床教授等による評価, 提出実習レポート評価, 実習出席状況及び実習態度を評価する。CC-EPOC の入力状況も評価対象となる。

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

本科目は「秋田大学 COC キャリア認証プログラム」に定める「地域志向科目」である

地域医療実習

授業展開	授業内容
------	------